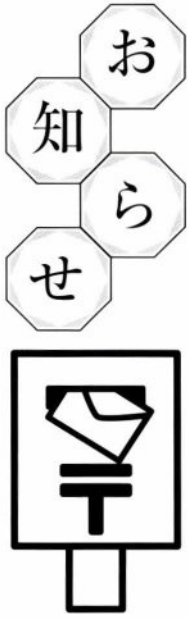
川柳塔

令和三年十月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年　通巻一一三三号

日川協加盟

No.1133

十月号



10月1日（金曜日）から郵便物（手紙・葉書）ゆうメールの土曜日配達が休止されます。また配送日数が一日程度繰り下げられます。

川柳塔誌の投句締切は毎月15日必着ですが余裕をもって投句をお願いします。締切日以後に到着分は翌月回しとなります。円滑な編集業務遂行のためにもご協力お願いします。

第10回卑弥呼の里誌上川柳大会

兼題と選者（各題2句）

「自由吟」津田　暹・大西　泰世　共選
「変　化」濱山　哲也・鈴木　順子　共選
「試　す」阪本　高士・樋口由紀子　共選
「ポスト」横尾　信雄・赤松ますみ　共選
「　夜　」村山　浩吉・木本　朱夏　共選

投句用紙　専用用紙（コピー可）またはA4大用紙

広報募集　令和3年10月から

締　切　**令和4年1月15日（金）**　消印有効

参加費　1000円（切手不可）　発表誌呈

投句先　〒842－0103
佐賀県神埼郡吉野ケ里町大曲2426－2
卑弥呼の里川柳会　真島久美子
TEL・FAX　0952－52－1061

賞

各題特選1句・有田焼　一万五千円相当
各題佳作5句・図書券（その他サプライズ賞あり）

※　男女を問わず　たくさんのご参加をお待ちしています

※　投句用紙は11月号に同封します

短冊三句

小島蘭幸

コロナウイルス感染予防のワクチンをほとんどの人が二回接種を済ませているから、11月からは大丈夫と思っていた本社句会ですが、デルタ株の爆発感染で、現在大阪をはじめ全国各地で緊急事態宣言が発令されています。しっかりと自粛生活をして、令和4年から本社句会が開催されることを願っています。

旅に出ん形見の秋の帽子着て　　薫風

形見の帽子と旅がしみじみと心に響きます。自粛生活が続いていますが、コロナが落ち着きましたらゆっくりと旅をしたいと思っています。

一九九五・七・二三　栞追悼句会と裏書きがあります。

酔えばわが文学貧しなおも酔い　　民郎

昭和42年7月9日、川柳塔本社路郎忌句会が自安寺で開催されました。私は三宅不朽氏と出席しました。19歳でした。

石曽根民郎氏は、席題「涼み船」の選をされました。

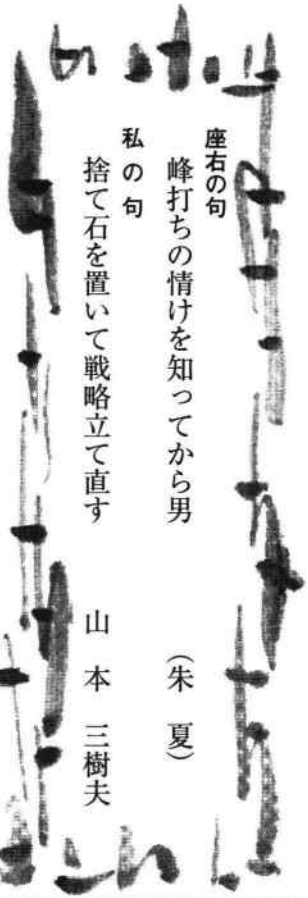
涼み船から工場の灯が明かい　　蘭幸
汐の香をグッと吸い込む涼み船　　不朽

路郎忌句会終了後、第二会場の喜楽別館大広間で晩餐会が開催されました。

こけしにもあられひしもちひなまつり　　万古

万古氏は、がっしりとした体格で、豪放磊落、披講も独特でかっこ良かったです。短冊は、今から半世紀ぐらい前に、岡山の川柳大会の会場で書いていただきました。ひらがなばかりで可愛い作品にびっくりしたのを覚えています。しかも、こけしは、こけし人形に見えるように描かれ、あられは散らばっているように、ひしもちは角張った字で、ひなまつりのひなは明かりに見えるように描かれています。そして雅号の万古はとってもちっちゃく書いておられます。

句会、大会で書いていただいた短冊、三句を紹介させていただきました。句会、大会が再会されたら、あなたも書いていただきましょう。良い記念になります。



座右の句

峰打ちの情けを知ってから男　（朱　夏）

私の句

捨て石を置いて戦略立て直す　山本　三樹夫

川柳塔　十月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田　尋「明石・魚の棚商店街」

■巻頭言　短冊三句……小島蘭幸…(1)
恩師　尼緑之助……竹治ちかし…(2)
川柳塔（同人吟）……小島蘭幸選…(4)
川柳塔の川柳讃歌⑳……木津川　計…(37)
自選集……高島啓子…(41)
句集の森……川上大輪選…(42)
温故知新……新家完司選…(64)
水煙抄……吉村侑久代…(62)
西尾栞句集『水鶏笛』……新家完司…(63)
誹風柳多留一三篇研究 14……(59)
英語 de Senryu ⑱……(60)
せんりゅう飛行船⑳……
愛染帖……

恩師　尼緑之助

竹治　ちかし

全国各地に数多くの句碑が立っている。けれども、国立公園内に建立されているのは少ないのではないだろうか。大山隠岐国立公園内に立つ緑之助の句碑、これは緑之助の人徳であり人脈の結果である。

句碑には、昭和四十六年の川柳塔の最優秀作品、路郎賞を受けた句が、緑之助の直筆で刻まれている。

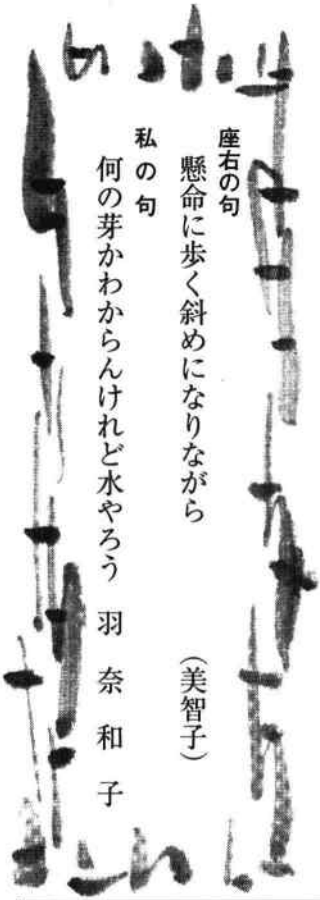
燈台の夕陽神話を抱き寄せる

大正十五年、「いずも川柳会」の前身「たかせ会」を、この出雲の地に興し、九十五年という長きにわたり、今日まで引き継がれて来ている。その間、

木の芽みないとし光っていていとし
月に彼女を盗まれし
何もかも捧げたようにバラ散りぬ
すべて絵にもなき月の小川なり

など感覚的な句、詩情的な句、等々を発

檸檬抄「音」……桒原道夫・久保田千代共選……(68)
一路集（「米」……笹重耕三選……(72)
「へらへら」……上村夢香選……(73)
初歩教室「匂う」……居谷真理子……(74)
川柳塔鑑賞……藤井智史……(76)
水煙抄鑑賞……紫しめの……(78)
第35回 国民文化祭・みやざき2020 入選作品……(79)
『麻生路郎読本』余滴(66)……桒原道夫……(80)
インスピレーション・ナビ 印象吟……大西泰世……(82)
八月本社誌上句会……(84)
各地柳壇（佳句地十選／辻内次根・西田美恵子）……(93)
十月各地句会案内……(106)
柳界展望……(108)
■編集後記（ひとこと／中田 尚）……朱夏・勝弘……(110)



座右の句
懸命に歩く斜めになりながら　（美智子）

私の句
何の芽かわからんけれど水やろう　羽奈和子

表し、並々ならぬ資質の高さ、豊かさを中央からも注目された。

以来、麻生路郎の「川柳は人間陶冶の詩である」「命ある句を創れ」の訓を遵守、自ら主宰する「川柳いずも」によって、多くの後進に川柳を指導する。そして麻生路郎の十哲の一人として数えられる。昭和五十九年句文集『生かされて』を上梓する。その中には人情味あふれる句も多くみられる。

練炭がどうのこうのと世帯じみ
十円を五つ並べてもう一杯
朝よし昼よし残ったソバで又始め
平凡の凡をこつこつ歩かんか
川柳は吐息　酒から句が生まれ
人は皆善なり向かいあったとき

昨年、「いずも川柳会創立九十五周年記念大会」を開催する予定でしたが、新型コロナの影響で延期、残念な事に今年は誌上大会となってしまった。今後、全国でも稀な百周年大会を目指して、皆で進んでいかなくてはならない。

川柳塔

小島蘭幸選

妥協しない一匹狼の孤独
何もせず考えず至福な時間
欲がなければ騙されることはない
自慢してきたトロフィーが邪魔になり
県境を跨いで買いにいくタマゴ
実力があってもなれぬメダリスト

愛知県　早川遡行

ぽわぽわと揺らいで朝顔が二輪
朝の水ゴクリと今日を楽しまん
ベランダのタマネギが芽を出している
身の程を知って真夏の発泡酒
ひとりでも遊べる膝に猫抱いて
途中まで確かに一緒だった月

大阪市　平井美智子

嘘ついた日の夕焼けが眩しくて
レシピ通り作ったピザはブーイング
コロナ禍も知らずひまわり凜と咲く

松江市　藤井寿代

ふるさとをいっぱい詰めた無農薬
生き残りゲームゴキブリから学ぶ
オリンピックやっぱり熱が入っちゃう

今治市　永井松柏

野牡丹が咲いて亡母の忌を告げる
オリパラとコロナを天秤にかける
熱波 洪水 コロナウイルスの三重苦
口が裂けても医療崩壊とは言えぬ
最悪のことは考えない政治
政界にはびこる老害と世襲

三田市　堀正和

朝一にスクワットして自粛する
東京五輪 独身寮で見た記憶
ペット連れ帰省するのも一仕事
マドンナがひょっこり夢に出たお盆
ごめんねと彼岸へずらす墓参り
一病がゆっくりしろと言っている

鳥取市　岸本宏章

雨のち晴れ終りよければそれでよし
バス止める時もはっきり手を上げる
人間の技ではできぬ虹の橋
若返る知事さん髪はみな黒い
失政のお詫びを聞いたことがない
被爆電車抜きで広島語れない

松山市　栗田忠士

廃屋の軒先風鈴の律儀
暑いねと墓から声のする墓参
生きるとは叶わぬ夢も見続ける
巻き寿司の端っこそっと呉れた母
けなげにも薄紫に咲いている
切り取り線を跨いでやっと立っている

大阪市　谷口義

何も考えていない考える人
ないと言えばないあると言えばあるお金
無観客でも甲子園は燃えている
どこがどうと言うことないが老化です
昔のおばあさんと今のおばあさんは違う
長生きは苦の種花の種でした

藤井寺市　太田扶美代

何処にでも傘置いて来る人となり
幸せを刻んだ皺という事に
八十歳時代錯誤のままでいい
ひとりが好き一人を知らぬ人が言う
朝顔より蝉より早く目が覚める
一輪は野に咲く花の如生ける

桜井市　安土理恵

以下省略もうどうだっていいことさ
夢と書いたら何故か悲しくなってきた
消毒をしてから君にラブコール
寄る年波わたしは腰のあたりから
手暗がり自身を変えてごらんなさい
多情多恨みんな貴男のせいですよ

枚方市　栃尾奏子

宿替えも一年お茶に誘われる
身の丈を優しく包む光善寺
私と同じ名前の花を植え
庭プールそれでも子等は輝やいて
つぶやきはいのちのうたよかわやなぎ
泣いて笑って命がふたり別つまで

寝屋川市　伊達郁夫

遺産などないが茶碗がふたつある
頑張った指を一本ずつ洗う
茶柱が少し斜めに立っている
採れ過ぎたトマト言い訳して配る
陽の射さぬ裏道ばかり混んでいる
大声で泣いても海はまだ広い

豊中市　水野黒兎

モノクロの思い出となる昭和の世
八月の日差しにマスク似合わない
アメちゃんは関西のもの配るもの
大木は深く静かに根を伸ばす
老いてなおもっと夢をと入門書
職人気質ネジ一本を手抜きせず

鳥取市　奥田由美

手首までたっぷりと塗る試供品
重篤になるまで通う村の医者
縄とびは無理だと悟る古稀の膝
回覧を回す隣家も山の中
改築の牛小屋に住む孫家族
吸って吸って吸ってと技師が無理を言う

西予市　黒田茂代

聞き違えないよう電話より手紙
マスクしていても笑顔とわかります
有る物で四・五日は持つ冷蔵庫
二ヶ月に一度主治医へ顔見せに
困ります辞書に出てないカタカナ語
心に残して下さるひとが今も居る

寝屋川市　平松かすみ

八十路坂うれしいことに杖いらず
誕生日うれしい時のあった頃
目鼻口どれをとってもみな加齢
検査ごと生年月日フルネーム
句会にも行けずに加速する老化
鬱の字が書けて鬱憤少し晴れ

熊本市　杉野羅天

阿蘇涅槃令和の床にすましけり
精一杯の愛を令和の子に授く
コロナ五輪無事済ませたし無事見たし
盂蘭盆の暑さ熊蝉の初鳴き
郭公と対話し夏を享受する
立葵母の愛した花だより

横浜市　菊地政勝

薄味へ食の楽しみ奪われる
たらればの傘をいつでも持ち歩く
無い袖を振っていい顔見せておく
健康の目安にされる酒の量
耐えること知らぬヤングの路上飲み
すぐ切れるヤングにほしい処方箋

三田市　谷口修平

罪数多背負って喘ぐ遍路坂
終戦忌一際高い蝉の声
老人で溢れ返った長寿国
赤ひげを彷彿させる医者に会う
さまざまな事情が暮らすケアホーム
古希過ぎて父の敷居が越えられぬ

和歌山市　松原寿子

覚めやらぬ夢の続きを追慕する
人慣れのトンボが癒す夕涼み
時間たっぷりひとりの夕餉噛みしめる
気の所為か遺影相槌うってくれ
そよ風に流しておこう今日の鬱
やり始めた頃は青春真っ直中

鳥取市　山下凱柳

アスリートの活躍ハート揺さぶられ
今日一日今日一日と生きて喜寿
夫婦しか分からぬ歴史愛と憎
断捨離はまずは自叙伝書いてから
魂を揺さぶる何気ない言葉
老いの現実突きつけられる物忘れ

笠岡市　藤井智史

セキュリティー壊しあなたと結ばれる
夫というポジションだけは譲らない
無くさないあなたと結ぶPin（ぴん）コード
夫という威厳をダウンロードする
溢れ出る愛のマリトッツォを食う
メレンゲのふわふわ感な愛でした

河内長野市　山岡冨美子

モンタンの秋へそろそろ身繕い
クローゼットで揺れているのは赤い服
躓きも傷もいつしか勲章に
足腰の重さへ好奇心の喝
エアコンに奪われている思考力
目覚ましに頼った日々は遥かなり

岡山市　丹下凱夫

ウォーキング痰切り飴を舐めながら
逃げるのは今のうちだとカラスが言う
朝焼けの仄かに一番電車待つ
城山の天守誇りに河鹿鳴く
アカペラで歌う 昭和枯れすすき
ヒロシマ忌ナガサキ忌蝉鳴きつづく

池田市　太田省三

父在ればそろそろ夕餉冷やっこ
提灯にキラキラネーム地蔵盆
半分か全部か迷うマスカット
クラス会中止のうちに人が減り
早々の中座に部下は拍手する
だんじりがむずむずしてる曲り角

大阪市　横山里子

高過ぎて惚けるしかない認知薬
印籠の如く出してる接種券
デルタってギリシャ語付けてえらそうに
手間かけた子もかけぬ子も帰省せず
子供食堂ささやかながらカンパ
天秤が右へ傾く正義とは

富山市　島　ひかる

競技ルール自粛観戦から学ぶ
スクワット賞味期限を引き伸ばす
今言った事を忘れる人と住む
期待せず褒めるコトバを探す日々
悠久の流れの中に生かされる

名古屋市　山本　三樹夫

ボーナスを貰い巣籠り永田町
酒売るなそれでは酒税困ります
好好爺目指す傘寿が意地もある
コロナ禍が傷痕残す商店街
菩提寺の住職こけて息子継ぐ

犬山市　金子　美千代

草抜きの汗がストップかけてくる
炎天下老い受け入れてまた籠もり
やっかいなスマホで面白いスマホ
泥被る覚悟さらさらないトップ
どう転ぶアフターコロナの功罪

犬山市　関本　かつ子

一日に三度着替えることもある猛暑
菅さんが読み飛ばそうと蝉は鳴き
日が昇る頃には帰る万歩計
二年程顔見られない遠い孫
認知症テストで自信取り戻し

京都市　清水　英旺

うれしいことあれかしあしたバースデー
墓参り年々坂が急になる
巣ごもりをテレビ五輪が慰める
月光に妖しく光る半夏生
いじめてもいじめられても消えぬ傷

京都市　藤井　文代

女の意地ついていけない脳と脚
「もったいない」は断捨離心揺らしすぎ
化粧品より安くつくマスク代
出番のない服で朝から風呂掃除
体重減るだのにウエスト止まらない

長岡京市　山田　葉子

若かった日日へカラオケ着地する
もういいかいレパートリーも増えました
自粛の波自分らしさも揺らぎだす
明日はない今日を楽しむ合い言葉
埃かぶった母の手製が捨てられぬ

大阪市　石田　孝純

青空の青も時々空手形
手の内を見せぬ明日が頼もしい
四方八方足向けられぬ人がいる
足枷があって真っ直ぐ歩いてる
行先は足の機嫌と風次第

自家栽培不揃いにある味の妙
二度目の秋も不要不急に縛られて
体育の日十月十日どこへやら
サプリメント個人差なんて逃げ口上
凡てに感謝恩を返して行く余生

大阪市　磯島　福貴子

転ぶたび何か掴んで前を向く
コロナ禍は拡がるばかり老舗消え
接種して熱など出ない老いの群れ
夏の風少し幸せ連れて来た
金メダル四方八方恩があり

大阪市　岩崎　公誠

コロナ禍で時時ですが叫びたい
整理下手決断ひとつままならず
断捨離で人の覚悟は測れない
踏切りの音までスマホ遮断する
行動も頭も二年休み過ぎ

大阪市　岩崎　玲子

何事も無かったようにトマト捥ぐ
愚痴らない肩に家族というエール
難聴の夫画面とせめぎ合う
あの人も小腹空いたか午後三時
ストレスを宥めすかしてネギ刻む

大阪市　内田　志津子

吸って吐く心の濾過を繰り返す
尖ったら優しい言葉いただいた
カーテンを洗うさあおいで秋風
昨日の涙今日は一行詩になって
心配をかけまいなんて水臭い

大阪市　宇都　満知子

安全安心は原発と同じ
十分ほどバスに揺られて眠る幸
好きなこと言うてますから一人ぼち
昔から緊急事態の家計簿
湯の中でオペの痕跡競い合う

大阪市　江島谷　勝弘

数十年振り従兄弟再従兄弟の通夜の日
葬儀の後絆深まりまた会う日
テレビしかオリンピックが見られない
アスリート熱気伝わる涙する
無観客閉会式も無事終る

大阪市　榎本　舞夢

何やかやあるが息子に頼ってる
あんなこと出来る美誠ちゃんきっと魔女
ニュータウン今はシニアの街となり
再会を待ち侘びている棚の酒
驚きももの木息子が日掛け貯金とは

大阪市　大川　桃花

ハトの足どれも赤くて地面這う
天高く運動会の声近く
朝刊を大きく広げ西瓜食う
水底に何があったか小鴨知り
だんまりの化粧が続き汗の顔

大阪市　大治重信

コロナ禍を止めれぬ神は頭下げ
温暖化一番困る産油国
看板のカチ割売れぬ甲子園
時短され財布の諭吉まだ寝てる
自宅勤家事をすまして社の仕事

大阪市　奥村五月

逃げるのも生きるひとつの選択肢
泣きながら見極めておく敵味方
保護色を纏い目立たぬよう生きる
夢ばかり追いかけ踵浮いたまま
悩むのは明日にするかさあ寝よう

大阪市　小野雅美

オリンピックチカラが入りああしんど
検査結果良くて掃除機記念買い
気に入ったふだん着買って良き日なる
古い服着ると昔がポンと出る
ご近所さん医者の待合室で会う

大阪市　笠嶋惠美

考えも立場も越えているコロナ
10代の台頭　日本中拍手
金運は待てど暮らせど来てくれず
よく笑い若くなったか皺がとれ
ほくほくのお芋で仲直りの笑い

大阪市　川端一歩

男女の愛永遠なんて蟻の穴
プチトマト味も形も自分流
義理人情こだわりすぎる母は神
お先にとエレベーターを降りる人
キバ抜けた友がニコニコ寄って来る

大阪市　古今堂蕉子

スガコイケ医療崩壊手も打たず
金持ちよ宇宙行くより地球見よ
原爆をゲンパツと読む菅総理
五輪メダル数える陰でコロナ増え
核兵器ノーの世論は天の声

大阪市　近藤正

飾らずに本音で話す友と飲む
遣りだすと止まらなくなる癖がある
お互いにする事があるありがたい
失敗を怖がってると歩けない
危機あって二人の絆強くなる

大阪市　坂裕之

大阪市　高杉　力

以下同文ちゃんと私も褒めてくれ
陣取りのゲームそろそろ止めにする
自画像の捨て場所がまだ見つからぬ
向日葵が揺れる小さくなった母
コロナ禍に芽生えた覚悟らしきもの

大阪市　高杉千歩

戦争の話はしない車椅子
茶摘み唄リクエストして車椅子
せめて百歩車椅子から離れたい
明日があるなんて大正信じない
そうですか貴方もですか赤が好き

大阪市　田中廣子

生きている生かされている頑張ろう
墓磨き皆の無事を祈ります
コロナ禍で足腰弱くなりました
目をつむり考えてると眠くなり
老い二人手をつなぎ合いお片づけ

大阪市　田中ゆみ子

敗者にさえなれぬコロナ禍の五輪
猫じゃらしそ知らぬふりもまた楽し
そう言えばそんな気もする今朝の秋
楽になる負けるが勝ちが悟れない
何事も我慢どん底見た人だ

大阪市　津村志華子

生きてよしこの素晴しい朝ぼらけ
泣き笑いどこまで続く長寿箸
女らしさ可愛げさも無く既に魔女
まだ逝けぬ残務整理がたんとある
広い空ヘリコプターにある使命

大阪市　寺井弘子

老犬とぶらりぶらりといいリズム
風鈴を寝た切り母に持って行く
墓参道野菊はや咲き風の道
自粛中人の波待つ戎橋
時々はとぼけた振りの暮し向き

大阪市　寺本実

雲の峰過ぎたあの日の人に似て
Ｆａｘと固定電話で生きている
ボーナスが立った時代もありました
非課税と言われ嬉しさ湧いてこず
居酒屋に寄れず家内と飲み比べ

大阪市　原田すみ子

まとまらぬ家族がわたしの生きがい
基本守る派もっと守る派コロナ下で
母と姉母とわたしで違う色
生ききった蝉足下で腹見せて
母もがんばったと享年を思う

大阪市　平賀国和

五輪終わるしかし激増感染者
医療崩壊コロナ感染怖くなる
コロナ禍は三年越しも覚悟する
老い三人ワクチン打って安堵する
姪の結婚目出度いけれど集まれず

大阪市　降幡弘美

変わるたび凶暴になるコロナ株
呼吸すら忘れて見入る好ゲーム
母さんの気分で決まる晩ごはん
五輪から国旗を学ぶ七歳児
大人らのポイ捨てひろう子供たち

大阪市　山本加お里

頑張った選手に拍手ありがとう
しあわせは茶の間で五輪見れたこと
コロナかな今年は蝉も見かけない
美しく老いたい夢を見ています
来るたびに子の優しさにほだされる

堺市　今井万紗子

自粛中温泉めぐり薬湯買う
ちょっと一泊お隣さんは行かはった
子等もワクチンやっと終ったメール来る
気合入れ散歩に行くかポストまで
馬耳東風君は十分生きられる

堺市　奥時雄

あの頃の夢ぶち壊す古物商
全集は故紙だと情けない値段
どっちみちテレビでしか見ない五輪
マラソンが真打ちなのはよく分かる
五輪には反対甲子園はやる

堺市　柿花和夫

板さんの昔話をアテに飲む
この仕事いつでも良いと急かされる
計の電話髭を半分剃り残す
年齢にヤブ蚊は好みないらしい
ネオン街妻の錨を引き摺って

堺市　桒原道夫

プールサイドのべたついている一所
藤棚の下に逃亡者然として
だしぬけに円周率を思いけり
夏の土手に何で居るのかわからない
海の家永遠にあるはずがなし

堺市　源田八千代

スケボーを見直すチャンス金メダル
アスリートにも旬あり遣って良かったね
金権政治膿を出さねば又候だ
収束のメド立たねば無理な七回忌
フィーリング合わないからと諦める

卓球のメダルにエール惜しまない
昼寝する時間たっぷり喜べぬ
ポスト見る楽しみ増えた五七五
妻の愚痴聞かぬ顔して耳動く
検査するだけで病院あっちこち

堺市　齋藤　さくら

後五年とガラケー余命告知され
清水の舞台とスマホ買いました
熟せれば楽しい沢山のアプリ
目もうとくタッチパネルに四苦八苦
熟せれば宝も猫に小判並み

堺市　坂上　淳司

残暑お見舞い墨すっただけ酷暑午後
ビール手に男同士の長電話
舐めた切手からも感染するコロナ
ピンポーンと秋の配達あかとんぼ
何に化けるのやら楽しみなゼロよ

堺市　澤井　敏治

珈琲沸かしご機嫌らしい朝の音
風呂上がり寿命が延びる缶ビール
口止めに居酒屋なんて軽すぎる
寄り添うと言う政治屋の私利私欲
真ん中を行くママチャリへクラクション

堺市　内藤　憲彦

子等の声無いコロナ禍の夏休み
もう少し頑張ろうねと言う背骨
キッチンもまだ現役のおばあちゃん
お経よりコロナ談義のご住職
心なしか風が初秋の顔で来る

貝塚市　石田　ひろ子

武者震い絶えて久しくしていない
雑踏に揉まれ生気を取り戻す
変換に慣れて漢字が出て来ない
ひと芝居打って漂う孤立感
その日まで引く手数多と思っていた

河内長野市　梶原　弘光

汗だくで今日のノルマの畑仕事
大半はクーラー漬けで五輪見る
東京五輪だけは見たかったろう夫
卓球の勝利遺影とテレビ前
やめていたお酒祝杯ならいいか

河内長野市　木見谷　孝代

懸命に二児を育てる明日の夢
愛妻の照る日曇る日嵐の日
四波五波非常事態の赤信号
ワクチンを打ったが自粛まだ続く
ドクターの夢を抱いて励む孫

河内長野市　黒岩　靖博

河内長野市　辻村ヒロ

還暦は若かったなと今思う
コーヒーが一日の愚痴聞いてくれ
キッチンに長寿の秘密あれやこれ
ワクチンも済ませたが行くところない
脳トレと指体操を日に二回

河内長野市　中島一彌

帰省できず古里に手を合わす盆
保冷剤枕に仕込む熱帯夜
先ずビールやっこ冷酒の暑気払い
コロナの夏は日焼けも夏痩せもしない
フィジカルは疎メンタルは密ディスタンス

河内長野市　藤塚克三

決断力妻にはあって俺に無い
行間を食み出す文字にある決意
素っぴんで微笑む妻は怖いかも
老夫婦生きる手立ては譲り合い
旅の宿苦労を笑う老い二人

河内長野市　村上直樹

ワクチン2回ああうまい酒青い空
茹だる日も暮れて至福の大ジョッキ
呑めるだけ呑むぞ明日はあの世かも
感謝状今日も微笑みくれる妻
老いたとて一票と言う強い武器

河内長野市　森田旅人

一周忌ハグロトンボが逃げません
手を合わせ揺れる思いに蓋をする
渦巻いた思い平らにする読経
猛暑ですひとりに慣れて一周忌
警告音多い車の超過保護

岸和田市　岩佐ダン吉

未だ空気読んではります真ん中で
自助ばかり押しつけてくるアンケート
巣ごもりの暮しに爪だけが伸びる
言い難い話だったねありがとう
ふる里が消えた鉄路の民営化

岸和田市　雪本珠子

悲しみを笑顔に変えて生きてゆく
生きてればストレス避けて通れない
川柳が生きる支えになっている
セカンドライフ川柳杖にのんびりと
川柳で磨いています人間味

吹田市　太田昭

ガン憎し妻をば羽交い締めにする
髪洗い妻は手術台に向かう
たっぷりと時間はあった筈なのに
妻手術私は独房に入る
生きるのに希望が一つあればいい

高槻市　片山　かずお

スケボーの若さに魅せられた五輪
赤児百態ニコニコ顔の輪ができる
父さんと呼ぶから母さんと返す
負けてやりジイジ弱いと笑われる
ていねいにやり過ぎ深爪になった

高槻市　島田　千鶴子

始まれば結構はまっていく五輪
のっそりと動く真昼の猫の影
コロナ禍を嘆く里山盆祭
価値観の共有君と半世紀
消去法真夏の脳を整理する

高槻市　初代　正彦

適温の微妙に違う老いふたり
娘の口調どうやら妻に似てきたな
久しぶりの友から粋なプレゼント
ずけずけの主治医と永いおつき合い
ヘマしても一晩寝たら忘れます

高槻市　富田　保子

オンライン六人家族今会えた
同じ柄マスク夫婦に癒された
朝起きしせみの声聞き大気吸う
無人駅私一人が降りました
お中元鉢植よりもギフト券

高槻市　原　洋志

安全安心これ最高のおもてなし
炎天にあっけらかんと物忘れ
テレワーク会話に混じるポチの声
自宅では限度いっぱい脱ぐ猛暑
言い訳に少し疲れた冷奴

高槻市　松岡　篤

財布よりケータイ無いと動けない
電柱の影でも欲しい炎天下
スケジュールコロナの波で書いて消し
元気過ぎ自信過剰で医者嫌い
マンネリじゃ無く本気ですこのマスク

豊中市　池田　純子

風鈴が遠く聞こえる蝉時雨
ほっとする明るい声の元気だよ
あり合わせハイブリッドの昼ご飯
聞き流すワザを覚えた反抗期
遠い日に思いを馳せて盂蘭盆会

豊中市　上出　修

階段はクスリと思い一二三
風見鶏どちらにつくか世相読む
リストラで休んでいるが子は知らず
江戸歩く古地図片手の歴女たち
最高値更新したがまだいける

豊中市　きとう　こみつ

籍入れるまで楽観できぬプロポーズ
地球軸支えるものもなく回る
菅総理をサポートしたくない私
ガス止めたか電車に乗ってから気づく
人流をブロックできぬままの国

豊中市　藤井則彦

老いてなお未知の自分を探し出す
発酵を重ねた粋なお人柄
ひいじじと呼ばれおたおたする羽目に
一言が一枚岩にヒビを入れ
ネジを巻き過ぎてゆとりを失くす日日

豊中市　松尾美智代

オリンピッククーラーの中テレビ漬け
選手の事考えてないこの暑さ
ラインから暑中見舞の動画来る
孫が来る日は少し張り切る割烹着
また明日も変わりない日を願いつつ

富田林市　片岡智恵子

都市砂漠輝く星に気付かない
身体の不調どれも老化でかたがつき
プライドを捨てた数だけ丸くなり
たのしくて五線譜はみ出す蝶ひとつ
また今日も日の丸の旗ひるがえり

富田林市　中村　恵

ふところの夢のかけらが目を覚ます
励ましの声に追いつめられている
一匙の砂糖も信じると薬
できるなら煮沸消毒身の芥
いま少し一人この世の雨宿り

富田林市　山野寿之

海ぶどう口に広がる美らの海
太陽の恵みに感謝茄子胡瓜
三房ずつ老いのデザートサクランボ
草餅が届き三時の老いのお茶
人間の潤い軋む新コロナ

寝屋川市　川本信子

コロナ塗れでオリンピックが終る
東北の花束ビクトリアブーケ
感動で震えて泣いた五輪の日
八月八日「ハハハと笑え」と亡母
隔離には慣れたがわたし密が好き

寝屋川市　冨山ルイ子

デルタ株またラムダ株出て来てる
大阪が第五波になり死者が増え
百万の感染者とか日本中
整形外科体温はかり手消毒
心配な買物行く娘会社孫

寂しけりゃ話聞くよという金魚　寝屋川市　廣田和織

路地裏に僕の知らない街がある

毎朝の笑顔鏡で確かめる

親の敷く道で小石に躓躓く

言い訳に尽きて聞こえぬふりをする　羽曳野市　磯本洋一

電車中スマホない人眠ってる

コップ酒年金日だけもう一杯

釦付け妻より速い定年後

四季の富士インスタで見て旅費いらず

ヨッコラショ椅子に挨拶して座る　羽曳野市　宇都宮ちづる

資源ゴミ増やす酷暑の缶ビール

電気代も熱中症も恐い夏

被災なく期限切れてた防災食

黙食が得意な老いの二人食

午前二時目が覚め作句締切り日　羽曳野市　徳山みつこ

天仰ぐ形で蝉が死んでいる

メダルの数ではしゃぎ過ぎないように

弱点を握られまいと聞き役に

握手して腹をさぐっている首脳

よぼよぼ傘寿にも経年の艶がある

朝顔が孫との会話弾ませる　羽曳野市　藤原大子

カムフラージュばかりコロナ禍の政府

亡母恋し丸いアンパンかじる時

家飲みもラストオーダー言い渡す

堪え方覚えて恙無い暮らし　羽曳野市　三好専平

一億総動員の我慢コロナ殲滅

分断を強めてもなおこの五輪

知りません記憶にないがくせになり

般若描く炎帝に生きぬくか

6Bで塗りつぶしたいこと多し　羽曳野市　吉村久仁雄

笛太鼓の音に送られ逝くつもり

夫婦茶碗ヒビが景色となる齢

迷惑をかけぬ長生きならば芸

着やせするたちと互いを慰める

諦めて開き直ると来るチャンス　東大阪市　北村賢子

涼しい部屋で聞く炎天の蝉しぐれ

ひねもすテレビ五輪の次は甲子園

あらためて自然見つめている自粛

欲しいもの買って心をリフレッシュ

不安山積無事に閉会した五輪

東大阪市　佐々木　満作

体感の猛暑日続く五輪パラ
コロナ禍の五輪感動のレガシー
長崎の鎮魂の鐘永遠に鳴る
玉音に平伏し泣いた廃墟の日
立秋といえど入道雲高し

東大阪市　西村哲夫

演歌好きマイクの感度不満節
怨歌好きマイク目掛けて怨み節
艶歌好きマイク通して口説き節
悲恋の涙マイク要らない語らない
声楽の攻防マイク頼らない

枚方市　谷　英也

酒出すなコロナ三密計立たず
市長さんメダルの味は苦かった
八十路すぎ頑張ろうねが合言葉
つかの間の夢をさましに五波が来た
三密を吹き飛ばしたよ夏五輪

枚方市　藤田武人

断捨離の夫婦時々手が止まる
黒塗りのバツばかりですカレンダー
宇宙からペリー来ないと変われない
黒塗りのメモから正義浮かびだす
咳きは何になるんだ青い空

枚方市　藤村亜成

迷いに迷い自己革新の声を聞く
ケーキを前に不幸な顔はない
大声を出せず語気が衰える
血が通う人間同志の手の温み
いつでも会えるので遠く居る

枚方市　山口弘委智

太陽に牙があったかこの炎暑
折り鶴の七色十色八月忌
やさしさは明日への力無尽蔵
後世の負担に詫びる贅沢さ
マスクとマスクジョークを交わす老人会

藤井寺市　鴨谷瑠美子

スローライフ先づは植木に水をやる
見送られ転んでしまいそうになり
好き勝手できる幸せありがとう
メールならこんなに近い距離になる
もう逢えぬ人の絵はがき月見草

藤井寺市　鈴木いさお

五輪は終ったコロナはまだ続く
敗者へ配慮ガッツポーズは控え目に
一晩泣いて愛犬の死を受け入れる
ケアマネになった娘が頼母しい
過去帳に一人も居ないエラい人

藤井寺市　吉田　喜代子

電話メール少なくなって皆昼寝
感染爆発　オリンピックにどうぞ
盆客もなく里にも行かず寒い部屋
長引けばだんだん薄くなる縁
保険とは切れた頃から傷み出す

箕面市　大浦　初音

毎日の暮しの中にあるヒント
百均のすみのベンチでひと休み
まず道具夫の家事は高くつく
ポイントにつられてカードまた増える
宅急便で誕生祝届けられ

箕面市　酒井　紀華

スマホデビュー行ったり来たり指おどる
アフターコロナきっと来る来る近未来
ボロボロの辞書僕の分身いとおしい
惚けてないが惚けない為にのむ薬
卵から飛びでるレシピ無限大

箕面市　出口　セツ子

親不孝盆にまとめて詫びている
あちこちに夫婦でガタがきています
顔色を読んで呑みこんでる言葉
思いきりわがまま言いたい日の孤独
こんな時代(とき)だから笑って前を向く

箕面市　中山　春代

バンダナをきりりと夏に立ち向かう
「一本の鉛筆」歌う　夏の空
ふる里の感染者数　冷奴
鳥獣戯画は動物村の五輪かも
画用紙の向日葵ゴッホより上手い

箕面市　広島　巴子

先祖帰り子らは帰れぬ盂蘭盆会
御先祖と一緒に孫のライン見る
体操後仲間とお茶もああ自粛
この暑さ言われなくてもステイホーム
土用の丑鰻でコロナ寄せ付けず

八尾市　寺川　はじむ

決心がついて視界が広くなる
出しゃばっていつも主役の顔で居る
戦争はせぬ軍事費増え続け
じらし合ったふたり最後は結ばれる
イエスともノーとも答えないカルテ

八尾市　村上　ミツ子

電柱にしがみつくせみ負けるなよ
昭和古いとかんたんに言わないで
支えてるつもり支えられていた
コロナとの戦勝つまで終われない
てんやわんやで五輪始まり　終わる

大阪府　米澤　俶子

光る朝まだいけそうと深呼吸
猛暑には勝てずイケメンも日傘
感謝を口にさすが日本のアスリート
にっこりと笑ってキラキラと老いる
亡夫を知る守宮時折顔を出す

神戸市　上田　和宏

八十路坂まだ一波乱二波乱
ニッポン頑張れ画面の中の選手たち
コロナ禍を蝉が嗤っているような
野次馬になり切る時は面白い
ジーパンの穴は夏でも気に入らぬ

神戸市　奥澤　洋次郎

言う事は知ってはいるがやりません
有要であるから自粛する集い
こんな句でないと思いつ十五年
コロナ五輪の特集を組む作句帳
贅沢に時間を使う自粛日々

神戸市　近藤　勝正

祝祭に野卑な失言水を差す
暗い日々明かり灯した金銀銅
巣ごもりもテレビを友に盛りあがり
久しぶり友と黙食酒もなし
気が付けば夫婦仲にもディスタンス

神戸市　斎藤　隆浩

渋滞をテレビ見ながら飲むビール
年金でちょい悪おやじ秘密基地
開かずの金庫開けたら中に鍵一つ
0ひとつ足したらすぐに売り切れた
リズムよく秀句のできる夢を見た

神戸市　敏森　廣光

しみじみと歌っていたい時もある
心洗う君のやさしさ聞くために
考えも堂堂めぐり巣ごもり日
車椅子押してあげると老いの愛
金銀銅切ない程の違いある

神戸市　冨永　恭子

涼む人拒まずおおらかな大樹
向日葵が猛暑の中で列をなす
手作りのマスクに友のいいセンス
夏草の可憐めだたぬ色で咲く
開いたり閉じたりオチも無いままに

神戸市　能勢　利子

コロナ禍が五輪の余韻すぐに消す
コロナ禍で球児が目指す甲子園
二年振りの高校野球幕上がる
大差でも諦めないと汗涙
負けてる方にエールを送る甲子園

神戸市　松倉正美

接種終えテンション上がる帰り道
暗闇に咲く鎮魂の遠花火
虹が出て顔顔顔のビルの窓
アスリート感謝の言葉清清し
お盆玉貰ってくれる孫が居る

神戸市　山口光久

近すぎて周りの善さが暈けている
浄土へのキップを求め百度踏む
悔いのない日々を繋いで余命表
記憶から消したい人が夢に出る
逆境を抜け出す術はきっとある

神戸市　山口美穂

五輪の可否まあそこそこという評価
どうしようもないけどどうにかなるでしょう
蟬鳴かず鳥も見えぬ雨つづき
コオロギが鳴いてる雨は止んだかな
友の訃にやがてわたしも逝きますね

神戸市　山崎武彦

木洩れ日へそっと背を押す車椅子
元気かと回覧板が戸を叩く
ときめきは無いが居ないと困る妻
わだかまり溶かす淋しいひとり酒
コンビニへ手縫いマスクでミニお洒落

明石市　糀谷和郎

古書開く昭和を生きた紙魚の殻
ジグザグな父の轍が愛おしい
句読点の手前でペンが息をつく
人間をやめる日そっとペンを置く
あちこちで老いを気づかすこと数多

尼崎市　近兼敦子

おだやかなあなたの胸に聞いてみる
ありがとう言った私も気持ち良い
お高めと知れば小さな口になる
ゴミ袋一人帰省で一ツ増え
怖かった今も言われる息子から

尼崎市　永田紀恵

八十路でも若いイケメンだぁーい好き
八十路でも断りません梯子酒
振り出しに戻れば何も怖くない
どうにでもなれ私の居ないこの世など
良い時に辞めたと嗤う元総理

尼崎市　羽奈和子

新しいレッテルメダル噛む市長
ザザザザー体積分のお湯溢れ
ノラ猫は哲学的な顔してる
五輪出た国地球儀で確かめる
エアコンとテレビで夏を生きのびる

尼崎市　藤井宏造

口喧嘩巧みな妻の変化球
考えるふりして眠るのは得意
博多っ子塩ラーメンは浮気バイ
日本を中心に見る世界地図
生命線夢を追うたび伸びていく

尼崎市　藤田雪菜

ちょっとだけ光っています八十路坂
友と会う言葉も夏の色に染め
一人居の朝も華やぐ蝉の声
線香に御負けのマッチくれる店
一日の草取りだけで湿布貼る

尼崎市　山田厚江

マスクしてフェイスシールド聞こえへん
選手の声が響き渡って無観客
東京五輪気分そわそわ外に出る
錦織君とラケットだけは同じです
超音波君の鼓動が聞こえます

尼崎市　山田耕治

姉の電話施設で花火しましたよ
木琴が鳴るお隣も夏休み
これ三毛よ早く閉めんと蚊が入る
二十二時オケラが耳の中にいる
初恋よ蔦這う窓で鳴るピアノ

加西市　山端なつみ

コロナ禍でおもてなしさえ不十分
コロナ報道外国よりも騒ぎ過ぎ
五輪反対言ってテレビで五輪視る
メダル取る子の育て方親に聞く
五年の努力一瞬が消す非情

川西市　山口不動

だんだん早起き昼寝で取り戻す
持て余し気味で自由に生きてます
翁姥ステイホームでより古び
戸を繰れば老鶯がいて挨拶す
薔薇咲かせ隣の主庭に出る

三田市　稲角優子

残り火は見えないように染めました
目立つよう目だたぬように飾りたい
許し合う心で編んできた絆
よい目覚めシナリオ少しかえながら
出合う音別れの音も忘れない

三田市　上田ひとみ

ああ晩夏ふと母の声聞こえ来る
きっちりと暮していたね父と母
けん命に前向いている美しさ
ぼんやりとしてきましたね未来地図
頑固さに磨きがかかるこの私

三田市　大西重男

この病院終の住処の予感する
緊急事態宣言しても民しらけ
反対した五輪テレビに齧りつく
子供の頃遊んだ川はダムの中
赤飯を炊いてもらった誕生日

三田市　尾﨑一子

身の丈をらしく生きよう美しく
送葬の儀一変させてゆくコロナ
どんな世も人でありたい伝えたい
成せば成るこころひとつにして未来
母さんを置いて死んではいけません

三田市　九村義徳

信念を曲げずに生きるへそ曲がり
月末の家計事情を知る財布
風任せのんびり余生過ごす夢
じっくりと待ちすぎチャンス見逃した
どきどきを求めて今日も街に出た

三田市　住吉美和子

この夏も世界の海山観て過ごす
夏バテに鰻の天ぷら瀬戸の味
通帳繰り今宵もロダンの溜め息か
夏みかん大福になり涼をよぶ
日当りのよい南部屋夏地獄

三田市　多田雅尚

記憶から嫌な過去だけ消去する
値切る時関西弁が役に立つ
六文字を逆さ読みしてボケ防止
祭典に汚点残したフードロス
猛暑日は浮かばぬ句より先ずビール

三田市　野口真桜子

死神を待たせて書いた遺言書
散骨で海に帰っていく畏敬
ライバルの背を押した僕おひとよし
効いたのは黒子がまいた金なのに
巣籠りの父うぐいすの歌に点つける

三田市　福田好文

抜け駆けが好きで天辺知らぬまま
二年ぶり本当のうなぎ食べました
神事中止神もコロナに勝目なし
本当の美人はマスクしたがらず
子が巣立ち書斎出来たが午睡だけ

三田市　村田博

メダルとの乾杯続くテレビ前
爺ちゃんの時計日付など無用
検温の前に二三度深呼吸
雨続く竜神雷神まだ若い
コロナ禍に端を発した怠け癖

高砂市　松尾柳右子

まん延のコロナへ突き進むヤング
青空へトンボ飛び交う目の保養
食欲の秋へ出番の栗ごはん
コロナ禍でシャットアウトの続く街
無観客オリンピックは奮闘中

宝塚市　丸山孔一

宗教が戦争の種何でやろ
売った株後の値動き気にかかり
どうしても萌やしのヒゲは取ると言う
優先席私老人障害者
コロナ禍でセアカゴケグモ　ヒアリ消え

丹波篠山市　北澤稠民

沈む陽に両手を合せありがとう
道迷い極楽浄土見当らぬ
ありふれた景色の中にある珠玉
賢妻でないから僕を言い負かす
想い出を紡ぐ柱のポチの傷

丹波篠山市　酒井健二

遠雷に蝉はら括り鳴き止まぬ
賢治さま酷暑の夏を歩きます
正論を聞かせて損な気にさせる
五輪見て司会者ほどに感じない
出不精もジシュク自粛に疲れだす

西宮市　緒方美津子

ごめんなさいお墓まいりができませぬ
知恵を絞れコロナにはいわれたくない
百歳が旅を楽しみましたとさ
亡友に会いたくて走馬灯をまわす
夫留守猫にへそくり見せてやり

西宮市　亀岡哲子

詐欺注意のお巡りさんと喋り込む
グリコのおまけ競った人も九十二
元気元気と言われ元気な振りをする
ワクチン予約あの騒動も過ぎて秋
祖母遠し桑の実のジャムむかご飯

西宮市　福島弘子

八月の心通じぬ読み損ね
おにぎりは鮭に梅干しゆるがない
猫の爪とぎぼろぼろのアームチェア
卵からメダカを殖やす老母の趣味
転び方上手だったとお医者さん

西宮市　福田正彦

検温で平熱告げる画面笑む
一念を心に燃やし頂点に
核廃絶成して平和を呼び込もう
平等を称える国も貧富に差
人の知恵買い被ってた隙だらけ

南あわじ市　萩原狸月

無観客とともかく燃えた五輪の灯
同窓会みな眩しくて楽しめず
参観日淑女もどきになった母
ワクチンのはるかへ電話幾十度
死神の死角に生きて八十五

奈良市　宇賀史郎

不景気下派手で露骨なコマーシャル
里帰り家電修繕草捲り
失敗は加齢の所為と自己弁護
手土産は賞味期限を先ずチェック
知らぬ間に時間が経って義理を欠く

奈良市　大久保眞澄

明日は晴れカラになるまで降ったから
モグリの猫だな私に歯を剝いた
ご飯くれたら用済みとネコ消える
巣の前でホバリングする親つばめ
猛暑日はアリもキリギリスもだらり

奈良市　加藤江里子

この瞬間が宝物だと気付く時
いつの間にか大きくなった三番目
気配消し帰省の車停まってる
行けるかな子供がくれた旅行券
ご住職は親しみやすい三代目

奈良市　高橋敬子

ばら鮨に昔話の盆の夕
クーラーを休ませたくて行くスーパー
とれとれの息子の胡瓜塩が合う
効き目ない規制を政府懲りずやり
チャンネルの梯子止まらぬ五輪の日

奈良市　辻内げんえい

ワクチンを打って退院憂いなし
運動音痴も五輪始まりゃテレビ見る
学生が多く乗るのに無人駅
俺に似て二番がいいと孫が言う
10分で化けて出てくる妻の技

奈良市　山本昌代

強がりの歩幅も敵わない暑さ
懸命に動くクーラーありがとう
心配をかけるなアゴを上げておこ
アハハハハちょっぴり若く飾ろうか
ばあちゃんの昔むかしに孫の膝

奈良市　米田恭昌

息子の白髪に僕への挽歌聞く思い
コロナ禍の五輪に集う汗涙
五輪に集うマスク姿もお国柄
血の絆姉妹で獲った金メダル
頑にスマホ拒んで一人ぼち

弱虫な私の前を蟻の列
キンコンカン今日のカラオケ採点です
マッサージ心のしこりまで解す
ハウスみかんキュートな甘さついつまむ
ガレットのランチ猛暑に打って付け

生駒市　飛永　ふりこ

戦死した兄に抱かれた日を想う
太陽がいっぱいなのに自粛中
デルタ株自宅療養できますか
感動の五輪わたしも貰い泣き
引き籠る心を空に解き放つ

香芝市　大内　朝子

ネジ巻けば大正からの時刻む
ワクチン2回済ませコッソリ古希祝
スパイスを混ぜて乗り切る倦怠期
くつの紐結び直してあと一歩
パスワード指先だけの重いドア

香芝市　山下　純子

構い過ぎ近頃妻とディスタンス
電話以外声にやさしさ消えている
気付いても直ぐに戻せぬ八十路坂
爺婆の昔ゃ良かった禁句とす
敬老の日できれば週に広げたい

奈良県　安福　和夫

絶食の治療は修行僧のよう
文化だった昭和の小屋がまた消える
コロナ禍の五輪選手は皆立派
郷里との電話方言すぐに出る
病から断酒せよとのお告げあり

奈良県　谷川　憲

地下七年地上で「第九」大合唱
四十度超すアスファルト　ポトリ蝉
補聴器をはずせば適音木立蝉
のの字形トンボの恋が飛行中
ホタル住む川に戻れとボランティア

奈良県　中原　比呂志

思い遣りは信号のない交差点
スポンジはすぐ吸うけれどすぐ漏らす
五線紙の上踊りゆく愛唱歌
時時は妻の仕掛けに落ちてやる
青い実もほどなく熟す時がくる

奈良県　中堀　優

ワクチン後も解放感のない自由
お帰りが似合うふるさと無人駅
無人でも駅の風情に花がある
もう逢えぬ友抹消の住所録
地産地消ここに生きてる自負がある

奈良県　長谷川　崇明

奈良県　渡辺富子

巣ごもりで伸び放題のひげはしゃぐ
マスクして喜怒哀楽を目で語る
冷や奴とビールの泡は仲がよい
泣きに来た里の山河にもらう喝
いのちみな宇宙の泡になる気配

和歌山市　上田紀子

人生百歳まだまだ焦る事はない
たっぷりと時間があって後回し
立ち位置を少しずらせば見える明日
猛暑日も平年並みになってくる
背を押してもらってやっと出す力

和歌山市　柏原夕胡

恥ずかしながら六十五歳になりました
微笑んでしまうよ水を撒きながら
陰口に付き合う暇はありません
隣の芝生もウチの芝生もみな青い
苗愛でて花は応えてくれました

和歌山市　古久保和子

消しゴムの跡ばかり追う午後の雨
カルチャーの欠伸を家に持ち帰る
主婦の知恵絞り尽したフライパン
ワイドショー私の時間食べられる
百合一本買って本日貴婦人に

岩出市　藤原ほのか

汗して励めばきっと報われる
コツコツと汗でかせいだ自分史だ
あの星に祈りをこめる終息を
星空にふるさと想い涙する
川柳の明かり灯した人が逝く

海南市　小谷小雪

花火へと誘う母の車椅子
曲がり角埴輪の顔で立ちつくす
ここからは羽根を広げて遊ぼうか
美味なので黙食なんて難しい
自粛中でも気まま旅してみたい

橋本市　石田隆彦

共白髪手を取り合ってラストまで
せめて五輪花火打上げラストシーン
多少距離おいて穏やか老い夫婦
リベンジの夢を持たせる銀メダル
三本の斧今の僕なら銀選ぶ

岩国市　上村夢香

若人の秘めたパワーに涙する
巣籠りはさだまさし聴くこれ日課
恋はまだ序盤行方は風まかせ
今頃になって告白間に合わず
空高い一年ぶりの女子会へ

宇部市　平田実男

オリンピック政治からんで輪が歪む
川柳をサプリメントに旬を維持
腹八分で箸が止まらぬバイキング
無駄骨もやがて血となり肉となる
お願いに行くたび敷居高くなる

防府市　坂本加代

抜け落ちた記憶フラッシュバックする
噂なら軽く笑って吹き飛ばす
三角の安定感を杖で知る
年齢を隠して年譜作れない
新聞と意見異なるネット界

鳥取市　池澤大鯰

入道雲俺の野心もかく燃えよ
開かずの金庫プロは易々と開け
地方では大御所と言われてる
わが家にも大御所ひとり財布持ち
南無阿弥陀仏居眠りしながら聞いている

鳥取市　加藤茶人

日本の恥部かも知れぬ路上飲み
総括はいかに五輪の十年後
毎日の料理はポッケからは出ぬ
結婚はパパと言ってた娘のくせに
もう少し迷って見るかこの先を

鳥取市　岸本孝子

土用干ししない着物が気にかかり
冷水の朝の抹茶に気をもらう
お題目だけは毎日唱えます
詫びてすむ事ではないが手を合わす
三回目のワクチン打てと言う政府

鳥取市　倉益一瑤

花丸を下さい頑張った介護
プライドを捨てれば羽根が伸びるのに
ジョーク連発きっと寂しい人なんだ
豪快な笑いに空が晴れて来た
十五歳の無口脱皮をする兆し

鳥取市　田賀八千代

月花美人咲いて眠れぬ夜過ごす
ずらりと靴が並んで今は夏休み
引きずった過去も終活しておこう
燃え尽きた五輪の汗に乾杯だ
コロナにも雨にも負けぬナスの花

鳥取市　棚田大

雨もまたたるむ心に活入れる
コロナ禍が日本全国引き締める
世の異変毎日起こりくらくらだ
手ごたえにこだわり過ぎてやつれはて
平行と平等心に歩もうよ

鳥取市　谷口回春子

テイクアウト家族団欒華添える
夏休み孫は天国爺地獄
亡父の声北風乗ってやってきた
秋茜　稲穂波をスーイスイ
金メダル砂丘の色と同じだ

鳥取市　永原昌鼓

スニーカーはくと心が弾みだす
冷麺の夏だ今年も旨いはず
毎日が一人テレビと泣き笑い
お互いをたたえて握手世界一
お互いにメダル掛け合う入賞者

鳥取市　中村金祥

金メダル取ると自分に暗示かけ
外出るな酒を飲むなと空の青
コロナ禍にあって悲しい夏休み
手ごたえがあった話も宙に浮く
ようやった何はともあれ火は消えた

鳥取市　夏目一粋

ゴキブリの吐息を聞いている深夜
時々は時間を止めて飲んでいる
変わりゆく街に燕も巣を探す
言い訳はしないがスペア持っている
魂をたまに息抜きさせている

鳥取市　副井ゆたか

丸虫に似た体型になって来た
争いを阿吽で避ける老夫婦
天候の予測能力少し萎え
黙食が長く続かぬしゃべり好き
三食のメニューを唱え床に就く

鳥取市　前田楓花

人が居て守り継がれる宮掃除
神様のレールに乗って花野行く
哀楽の人生模様見て学ぶ
帰省の子小遣いそっと置いて行く
順番は無いがゴシゴシ手を洗う

鳥取市　吉田孔美子

Iターン畑もゴルフも婆が教えた
おだやかでちょっと太めに憧れる
地球の青春を覆い尽くすコロナ
小綺麗に世話にならない叶え方
もういいよ　ぶらりぶらりと生きましょう

鳥取市　吉田弘子

役に立つ老人いつも胸に秘め
野菜食粗食に慣れた五臓六腑
どのチャンネルもコロナコロナの大合唱
花の苗交換しあい花談義
蛙かえる今鳥取は湧いてます

倉吉市　猪川由美子

戦時下かいコロナ長引く暗黒さ
肝腎の総理の顔が見えずいる
孫子にも墓へも会えず辛い夏
小池都知事マル秘転身またも練る
監視カメラをヒョイ見付けてはゾッとする

倉吉市　牧野芳光

腰痛の合い間合い間に草を刈る
反論ができないくらい疲れている
寒さにも暑さにも負け腰曲がる
赤鬼になって強行突破する
見られてもいいよと塀を低くする

境港市　藤原久直

新米をふっくら炊いて塩むすび
ユーモアがポンと出るうち二重丸
こつこつと貯めた知識を小出しする
守りから攻めに転じて華が咲く
粗末でも昔の背広お気に入り

米子市　池田美穂

温度計ついに体温計越えた
粗末でも見る人見ればビンテージ
求人欄年齢不問介護だけ
猛暑日の昼寝悪夢にうなされる
全選手金をあげたいよく耐えた

米子市　伊塚美枝子

短冊に五輪出るぞと書いた子は
五輪漬けここらでタイムお茶にする
全・米子燃えた入江の金メダル
感動の五輪コロナも新記録
五輪明けコロナが恐い片田舎

米子市　後藤宏之

雑草がにっこり石の割れ目から
メロドラマつい自分もと勘違い
地平線むこうに何かありそうだ
入れものでいろいろ形変える人
七転び転んだままで時がたつ

米子市　後藤美恵子

それぞれの枡で幸せ量ろうよ
亡夫に問う絵に見る世界ありますか
一夏のロマンが浮かぶ海遥か
ビタミンを丸ごと噛る自家野菜
補聴器が詐欺だとちゃんと聞き分ける

米子市　竹村紀の治

ややこしくなってから読む説明書
君が代と拍手で祝う金メダル
ワクチンが済んだら助走始めます
ぬか床をかき混ぜ今日の幕が開く
イベントはラジオ体操風呂掃除

米子市　中原章子

コロナ禍が日本を変える人変える
アスリート感謝の心メッセージ
国境を越えた絆の称え合い
昨日まで出来たことでも保証ない
助け合う心人間持っている

米子市　成田雨奇

検診日忘れて妻は菓子を食う
まだ立って歩けることが仕合わせだ
酒飲むかビールにするか迷わない
迷うのはまだ考えが浅いから
ピータンを初めて食ったガード下

米子市　野川宣子

粗食でも会話おかずにするふたり
粗末にはしていませんか神仏
ワクチン二回心配性が立ち直る
メダル無しみんなに上げる努力賞
ひさびさにもんぺ姿の亡母に会う

鳥取県　門村幸子

くじけまい五月は母の七回忌
蝉しぐれ夏のファイトを掻き立てる
できることできるだけして風まかせ
独りでも笑える本を側に置く
ポジティブの旗を立てたいわが心

鳥取県　斉尾くにこ

ITの世にくすぶっている私
人生の午後はお茶漬的な日々
ヒント出すように横槍出している
顔上げていれば日差しは降りそそぐ
友はみなコロナ対策上級者

鳥取県　竹信照彦

休んでも歩く生きるために歩く
月一回打つ囲碁力など付かぬ
二回目のオリンピックもテレビ見る
コロナ禍で無観客テレビ応援す
長崎を史上最後の被爆地に

鳥取県　本庄汪

自信作運も味方にトップテン
あこがれのロマンスグレー間近かも
呼ぼうかなコロナが阻む七回忌
横一線一夜漬けでは抜けません
明日がある宿題延ばす夏休み

鳥取県　山下節子

節約が過ぎてとうとうきらわれる
とんちんかん身ぶり手ぶりでわかり合う
コロナ禍にナースの孫を思いやる
ジャンケンはあいこ平行線のまま
手ごたえはあったと思う叱った子

松江市　石橋芳山

結論はきな粉にまぶしております
夜空から戻って来いよアルタイル
理不尽な話は酢漬けにしておけ
一日の終わりは音が丸くなる
右回りか左回りか今日の運

松江市　栂瀬みちを

デジタルとアナログ分ける団塊派
私まで消してしまった消去法
旨い酒飲むため耐える休肝日
少しなら延命治療般若湯
生きてさえいればもらえる良い国だ

松江市　松本知恵子

小学校ゴーヤ揺れてる夏休み
家一つ消してしまったブルドーザー
更地には立派な庭の家浮かぶ
ふくろうが来て鳴くコロナ禍の暗さ
コロナ禍に妙に明るい夜のバス

出雲市　伊藤玲峰

御院家様とみんな一緒に読経する
小さな掌合わす曾孫の可愛さよ
大雨の見舞いの電話一日中
コロナと大雨神の試練と耐えるのみ
新生児の初参りです雨も止む

出雲市　岸桂子

手造りの畑地球に席を置く
犬掻きでも私戸籍の筆頭者
的を射た子の反論に負けている
いくつもの面取り替えて生きて来た
まんねりの句想は思い切って捨て

雲南市　菅田かつ子

サンキューと言えばにっこり振り向かれ
わかったと言ったが当てになりませぬ
お洒落して友とひととき喫茶店
錆びぬよう脳を磨いているところ
アルバムの亡夫見付けた虫眼鏡

島根県　伊藤寿美

お元気ですか句会があれば会いたいね
「ゴメンナサイスッカリボケテ」と卒寿
長生きの淋しさ知るや夏椿
さやさやと風の囁き聞くいのち
黒い雨上がる井伏鱒二を読み返す（勝訴決定）

岡山市　大石洋子

思い詰めてものんびりしてもできない句
高齢者への御墨付き交通講習
肩凝りがとれたくさんの大根おろし
熊蟬も熱射病だろ死んでいる
向日葵が首たれている八月十五日

百日紅言いたい事は迷わない
ささやかれ少し揺れだす吾亦紅
ふる里の川に変わらぬ一銭橋
四国三郎今はすっかり好好爺
ストレスが溜るとお寿司食べに行く

岡山市　工藤千代子

来し方を問えばさらりと心太
もうこれが最後と句集渡される
おばちゃんと呼べばいいのよ肩が凝る
大らかな海をわたしにくれました
夕方はコロッケおばちゃんに変身

岡山市　永見心咲

朝の五時鶏が鳴きセミ騒ぐ
父母の墓参り娘の顔になる
水の中泳ぐ金魚と替わりたい
何事も続ける背中見せるだけ
魚の身猫が残せと夫に鳴く

岡山市　前田恵美子

今年も思う夏はこんなに暑いのか
百日紅だけ元気だせよと庭に咲く
這いはいと涎が笑い呼ぶ座敷
母さんのヒザで涎も鼻もふく
選手の涙やってよかったオリンピック

岡山県　高岡茂子

しがみ付く蝉の抜けがら捨てられぬ
体調を星をながめて取りもどす
巣籠りで五七五も出てこない
水飲んで今日一日をクリアする
ゆっくりと歩けば解る人間味

岡山県　田中恵

引き算すれば幸せ見えてくる
ひまわりの海泳いでる白日傘
スランプがスルリと抜けて旨いお茶
吉報が来なくて首が長くなる
朝からの猛暑に黙る老い二人

岡山県　藤澤照代

全米を虜にしてる翔タイム
老い二人会話ないまま日が暮れる
そうめんと茶漬が増える夏最中
百薬の長を飲み過ぎ薬飲む
ひど過ぎる国のコロナのミスリード

広島市　岸本清

倒れないように添え木をする余生
漫画からスマホに替えるお年頃
幕引いた裾から見えているシッポ
雑駁に生きる反省して生きる
窓開けて素地の私をお見せする

三原市　鴨田昭紀

三原市　笹重耕三

厚くなるカルテを覗き込む加齢
神様も悪魔も待っている廃炉
おもてなしは棚上げにしてする五輪
復興五輪を一蹴したコロナ
ちょっとした噂が裏口を開ける

土佐清水市　辻内次根

破調の句詠んで破調に届かない
ひとつある町の信号遵守する
生きているからこそ聴けるいい話
終点はきっと優しい無人駅
胃の薬四つ五つはすぐ言える

高知県　小澤幸泉

今朝もまた重い頭に起こされる
八月の空は戦さをよみがえる
原爆に散った祖父母の声聞こゆ
生き抜いてコロナ悪政止めさせる
6・9・15八月平和告げ続け

阿南市　小畑定弘

団塊の喜怒哀楽は我ままで
老人の煩悩さとす石地蔵
川風の夕べコロナを逃げてこし
恋をしていいのでしょうか鰥夫(やもめ)です
友達のままでと貴女は言うけれど

東かがわ市　川﨑ひかり

聞こえない笑って誤魔化す事にする
口角に泡飛ばす日を信じ待つ
解らない事は解ったふりをする
真実に嘘がからむとややこしい
がんばれがんばれ同じ日本の血が通う

松山市　大内せつ子

不協和音の中でお昼寝中なのよ
糸トンボの夢って知りたくないですか
それなりでいい自画像の美しい
まっぴらごめん深読みをする恋なんて
スクランブルエッグにみえた君の罪

松山市　柳田かおる

お寺さんも駆け足マスクしてお経
不満たまって鋭角三角形
味わってはいない独りの夕ご飯
久しぶりあらあら孫は声変わり
引き出しの記憶がすこし錆びている

西予市　西田美恵子

棚田の苦労知っていますかカメラマン
死んだらいくらと私を値踏みする保険
微笑みを返す優しさ倍にして
もう冬のカタログが来る熱帯夜
陽に干して極上物にする布団

北九州市　小松紀子

ぐうたらもまた楽しからずや部屋ごもり
超リアル案山子にびっくりほっこり
夏野菜よくぞ10軒お嫁入り
今置いたメモ紙またも神かくし
亡母の歳超えてまだまだ未熟者

唐津市　坂本蜂朗

診察日妻横にいて指示を聞く
診察日妻がいないとすぐ終る
検査値を手に酒は駄目肉は駄目
妻の指示駄目押しされて立ちすくむ
力仕事まだ女房が期待する

唐津市　山口高明

洞窟の壁に読めない象形語
花好きの妻に似合いの樹木葬
柩には行き先書いて送り出す
万年筆不用になった文筆家
君が嫌ならば他人も嫌な筈

熊本県　岩切康子

目薬に頼って世間牛歩する
八十五愛に囲まれ生きている
コンビニの近くに住んで有難い
せめて日に一キロ散歩続けたい
蜩に秋の気配驚いた

札幌市　小沢淳

戦中派と言われ骨髄軽く生き
筆舌に尽し難いは悲惨なり
老斑は罪のかけらが浮くと知る
アスリート無観客でも真剣だ
集会を批判テレビもついコンパ

男鹿市　伊藤のぶよし

似たもの同士ぺんぺん草にホッとする
あしたへの橋渡しならその笑顔
こぼれ種やっとこの世のなさけ知る
寝返りを打てる幸せかみしめる
締め括るなら任せてくれと茜色

弘前市　稲見則彦

ゴーヤ棚西陽を避けて余りある
一日一善とても無理です 無理
風呂敷はいつも特大持ち歩く
ヤーヤドーわたしの夏は来なかった
団塊は脱脂粉乳世代です

弘前市　今愁女

太陽と対峙草刈りをした熱い夏
冷たい牛乳ゴクゴク飲んで頑張った
自粛はいい甲子園観て読書して
墓参りみなマスクして疎らなり
戦後平和なんの恨みでコロナかな

塩竈市　木田　比呂朗

赤い羽根白いマスクに映える秋
ジョギングとヘルスメーター闘ぎ合い
あの海がでる朝ドラの視聴率
道端にコロナを防御したマスク
不手際は全て政府とする野党

上尾市　中村　伸子

マスク美人いたなあの人どうしてる
夏仕様五時半起きの散歩道
どうぞどうぞ無事に終ってほしい五輪
ぜいたくに家で五輪を見放題
当然と言われ取りこぼしたるメダル

朝霞市　前田　洋子

開幕で一気に五輪向く気持
巣ごもりを夢中にさせたアスリート
閉会までかじり付いていたテレビ
浮かれてしまった五輪へ衝くコロナ
台風ニュース閉会式のド真ン中

越谷市　久保田　千代

手術記念日二年間を生きてきて
ＢＧＭも身体に溶け込むマッサージ
横文字の氾濫わたし追い付けず
身を削り生きていますと痩せてない
胸深く吸って吐き出す今日の鬱

東京都　川本　真理子

遠い思い出ＢＧＭは明るめに
ノーコンの剛速球を持ち球に
原爆忌五臓六腑が重くなる
あの夏に思いを馳せる雲の峰
永遠に子等にあるはずだった時

東京都　まえで　とよこ

息吸うて息吐いてます今日も無事
かんがえごとつぎからつぎへ夜明けまで
朝のパンねむれなくてもおなかすく
マラソン72位沿道の拍手なおさかん
ひまわりもたたえています選手たち

八王子市　川名　洋子

破竹の勢い嬉しい翔タイム
生き様を刻んだ皺だそっと撫で
計画が今年も消えてまた籠る
ふる里へ立ちはだかっているコロナ
安心をさせてはくれぬワクチン後

11月本社句会は誌上句会です。
詳細は109頁ご参照下さい。

川柳塔の川柳讃歌 ⑳

上方芸能評論家　木津川　計

反省よりも恥ずかしさばかりなり

谷口　義

「恥多き人生なれど生き生きていつしかわれも九十四歳」、うろ覚えだから間違っているかも知れないが歴史学者・直木孝次郎氏の短歌だ。私はこの方の講義を大学で聴いた。三十代で新進気鋭の助教授だったが清廉潔白な生涯を全うされた。その直木さんが「恥多き人生」?、とすると私は恥ばかりの人生を送ってきた。とてもこの方に顔向けできない。生きていくことは、まこと、恥をかきながら成長する、には義さん、共に年をとりました。

家でころぶほんまにそんな事がある

きとう　こみつ

「ほんまにそんな事がある」のです。私の妻はスリッパにつまずいて目の前でころんだ。少し前は階段から転落して鎖骨を折った。「どんな降り方をしていたのか」と問うた私が家でころんで運ばれた病院で頭を四針縫った。「もう一センチ右へずれてたら難しいことになってました」。うーん、老境の日一日は終末と隣り合わせなのである。以降、家で私は歩くに慎重、ときに伝え歩きしているのである。こみつさん、お大事にされて下さい。

背をスーッと伸ばした人が前を行く

大羽　雄大

八十八歳で逝った桂米朝さんだが最後まで「背をスーッと伸ばし」ていた。ある日、私は背中が60度に曲がった年寄りを見て、こないなったらいかんなあ。翌朝から枕を背に、背中を伸ばすことに励み始めた。効くか効かんか、それは問わず、枕を背にして十分、二十分…、こんなことをするのも私は「木津川計の一人語り劇場」を主宰していまもステージで語っている。背をスーッと伸ばして舞台に出たい。雄大さん、共にがんばりましょう。

今日は何も予定がないという不安

田中　ゆみ子

寝る前に私は明日の予定を書く。毎週ラジオエッセイ（NHK）を担当している他この同人句評を始め、いろいろ書きものがある。それに今年は「木津川計大全集」で八月から毎月語るから忙しい。だから予定を立てずして過ごせない。だが本当は「何も予定がない」老後こそ制約からの解放区なのだ。その地で自由気儘に暮らせたらそれほど幸せなことはない。ゆみ子さん、働き過ぎ症候群から脱し「予定がない」日々をよろこぶことです。

化粧して行くとこもなく鏡みる

辻村　ヒロ

ヒロさん、僕は泣きたい。化粧して、せっかく綺麗になったのに「行くとこ」もないのが寂しい。辛いなあ。一つ前の欄でゆみ子さんが「何も予定がないという不安」を詠んでおられた。日本の老境は、行くところがなく何も予定が〝ないないづくし〟の日々を過ごしているのか。しかしヒロさん、あなたには川柳塔があるのです。仲間や同人の集まりには化粧して行くのです。皆さん、次の集まりでのヒロさんは一段ときれいですよ。

見舞客遠くから来て増す不安

斎藤　隆浩

この句、川柳とは何か、の教科書です。近辺の人が見舞に来てくれるのはわかるし、うれしい。が、ええーっ、そんな遠方から!?となると、事態は深刻になる。これが最後かもしれない、ではるばるやってきてくれたのだ。皆さん、遠方への病気見舞は慎重であるべきです。現に隆浩さんは不安になったのです。どなたの句だったか、「見舞客治った話ばかりする」。相手への気遣い、気配りです。

自選集

小島蘭幸

赤電話告白をした記憶あり
なにもなかった頃が恋しくなってきた
朝の櫛寝癖を直すだけになり
ここまでくるとぽっくり死もいいね
鬼瓦コロナと対峙しているか

三宅保州

古里が温かすぎて出遅れる
古くなるまで待てと言う骨董屋
またタッチアウトになった夢を見る
断捨離がなかなか進まない未練
人文字が少し曲がってご愛嬌

村上玄也

コロナに炎暑難儀続きなり五輪
ごたごた続きやっとこ灯る聖火台
冷めた目で迎えた五輪だが夢中
老いるって悲しい物忘れをする
楽観視すれば必ず裏切られ

森山盛桜

泥臭く生きた穴無し五円玉
爪先の傷は背伸びに致命傷
難癖をどうぞ私はムースです
埒も無い事が世情に効くのかも
北風と西日じわじわ攻めてくる

雨に咲く

八木千代

紫陽花白く未来を招くように咲く
うす桃色に咲くあじさいの思春期よ
水色に咲くとき空に溶けている
ふっと死を願う青衣(あおころも)まとうとき
本望(ほんもう)だよね咲き切ってから死ねるもの

山本希久子

変異株ワクチン打ってなお自粛
老いの浜水ひたひたと足もとへ
残り時間楽しむ言の葉いつくしむ
カビ生えた常識　嫁に笑われる
悩み少々それでも大地踏みしめる

板尾岳人

探さないでずぅーとずぅーと隠れんぼ（孫十三回忌2句）
隠れんぼしたまま鬼と同棲中
遠くから見てもキレイな亡母でした
なんでやねん亡母に逢えない風の盆
あの世から帰らぬ亡母だ逢いたくて

楠の息になるまでここにいる
死者生者スクランブルの交差点
天井を見ながら孤独死を思う
鉛筆の芯を飢えさせてはならぬ
生きなさいと天に命令されました

居谷　真理子

私ではないわたくしがいる鏡
こんなにも景色が違う右左
擦れ違い互いに知らん振りをして
時どきは座り直している山だ
改行をしてから走り出す心

川上　大輪

里帰り耳触りよい国訛り
ご先祖へ鉦を鳴らしてご挨拶
冷や奴これぞ料理のクールビズ
あぁコロナ英語忘れた奈良の鹿
老人力自力他力を縒り合わす

北野　哲男

行く夏をトートバッグに投げ込んで
だらだらと生きて閉まらぬ瓶の蓋
我楽多を詰めた昭和のみかん箱
慎ましく銀の時代を生きてきた
その一句が生まれるまでの油照り

木本　朱夏

雨の日は田圃見回りするなかれ
孫だよと微笑むポピー庭の隅
本日はトコロテン付き昼ごはん
ぐっすりと出刃包丁は寝たまんま
霧雨の波止よみがえる裕次郎

新家　完司

ガタン・パキン・ポキン友の欠ける音
画数がこんなに違う癌とがん
痛くない注射の注射ありますか
半鐘だろうか不整脈だろうか
逆転は可能長生きしたならば

高瀬　霜石

平凡な暮らしも良しとするコロナ
帯状の雨雲　神の啓示かも
生き延びて親へ感謝の出来る齢
戦争は知らぬ　戦後の辛い日々
故里を持たぬ私の恋うる里

竹治　ちかし

想い出の連鎖楽しくなる自粛
値札より現物を知る新鮮度
観戦へ熱いココアで自粛中
暑気払いどんどん用事見付けだす
国産の鰻手頃が性に合う

津守　柳伸

体力より気力が萎えてくる怖さ　西出楓楽

熱帯夜息をするのも面倒な
デデッポー鳴いて孤独が身に沁みる
むざむざと一日終えた夜の長さ
三回忌いまだあきらめなどつかぬ　仁部四郎

川柳も大事漢字の使い分け
高校生用の漢和辞典で事足りる
IとYOU英語は二つで済みますね
齢には「とし」の振り仮名だめですか
愛という文字の筆順乱れがち　福士慕情

大火扇今年も見えぬ夏まつり
ねぷたの灯消してはならぬねぷた馬鹿
町内運行　小型ねぷたが粛々と
町内で見得は切れない武者絵たち
園児らもコロナ退散ヤーヤドー　松本文子

心が折れる傷つく心って何だろう
もう止そう見えないものを追うなんて
飲めと言われて頂いたら水だった
どんな噂も大切にしています
いろいろ胸で組立てているが何もせぬ
ヘンシーンをしてコロナ奴が攻めてくる
お互いがコロナに見える哀しい世
勝敗に人間ドラマ見る五輪
やったぞブラボー十三歳の金メダル　三浦強一

名句選・この一句

女房を物さしにして棚をつり

宝暦9年（一七五九）桜

亭主が女房のために、現代風にいうと日曜大工で棚を取り付けてやることになった。出来合の棚や規格の寸法ではなく、女房の背丈に合わせ、作業のし易い高さに、との亭主の気遣いである。

もっともこの句の前句は「のそみ社すれ〳〵」だから、女房がただ「棚を取り付けてくれ」と頼んだだけかも知れないし「この高さに」と要望したのかも知れない。

いずれにしても、家庭生活の微笑ましい一風景である。男子専横の時代ではあったが、必ずしも全てに横暴だった訳ではなかろう。大方の夫婦は仲睦まじく暮らしていたに違いないのである。

江戸川柳は江戸庶民の生活を如実に垣間見ることが出来る文芸である。（清）

（江戸川柳5号より）

句集の森

『川柳塔創刊80周年記念句集』

高島啓子

ライバルが浮輪ひとつを投げてくる
気まぐれな美人のような京の雨
川を見ていると無口になってくる
マジシャンの箱から鷹は出てこない
今日生きる朝の空気を深く吸う
南海の島で日本語生き残り
原点に飢餓海峡を持っている
ひとさまのカバンは重いものである
分身の術で生きてるかすみ草
公園で見る先生のパパの顔
フラメンコ佳境となって風を蹴る
脱獄をする金鋸を買いにいく
盛り場の酒とは別に家で飲む
立て板に水で説教身に沁まず
金魚鉢置いて無口な人といる

（平成十六年七月十七日　発行）

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

ループタイむかし参謀だった人
キラキラと光る瞳はあざむけぬ
店員が美人で派手目の柄を買う
古くとも僕にはやはり巴里　羅馬
言い訳はやめよう傷が深くなる
雑草も野草と呼べば優雅なり
カタカナの職種でおんな縁遠く
星の名を教えてもらう山の宿

北京点景（三句）

絢爛の故宮　庭には朱の柘榴
紫電一閃　天安門を龍駆ける
天壇いま龍三郎の画帳から
天皇はどうあれ金貨の列にいる
愛錆びる花に終わりがあるごとく
風雪の過去生きている人情味
トップには届かなかった石礫
告白のできぬ戦記を抱いて老い

川上大輪選

鳥取市　吾郷天遊

毎日の余白を埋める酒と本
いい訳を耳にしながら爪を研ぐ
約束を取りつけたのかVサイン
君次第打てば響くという太鼓
価値観の違い切り捨てられる老い
シンバルを鳴らして雑魚を黙らせる

生駒市　饗庭風鈴

母眠る月の沙漠を往く如し
笑顔だけ胸の小箱にそっと入れ
ねむの花何やら急に甘えたい
はたち敗戦きらめく春を知らぬまま
もう自由空蟬よりも軽くなり
旅立ちは花火の浴衣あかね色

広島市　常國喜好

神様のお告げか鍵がぴたり合う
おだやかな笑顔に母の生き上手
どうみても相手も後期高齢者
読みかけの本が寝ているデッキチェア
大方は忘れてもいいことばかり
今日一日遊んで明日を生きる糧

岐阜県　喜多村正儀

うなずけば架かる縁の橋あまた
負けたから貰った次に勝つチャンス
似てるよりなり切っている馬の足
夏枯れの川が見せてる腹の底
雨あがる気配すずめの毛繕い
咄家のおちが深くて渡れない

大阪市　阪井恵子

精一杯幸せ顔のクラス会
溜め息にろうそく揺らぐ初の盆
子を想い巡る遍路の重い脚
何思う空を見つめる丸い背な
遠花火不完全燃焼の夏
歓声なき競技場には蟬時雨

尾道市　小川道子

神棚がだんだん高くなる齢
コツコツとノルマこなして自分色
デイケアー個性と老いの豊かさと
わたしには未だ未だすべきこと数多
瞬間を生きる軸足ぶれぬよう
金銀銅いずれ劣らぬ粒揃い

白河市　鈴木たけし

GoToも自粛も関係ない齢
手荷物を提げてバランスよい歩幅
何にでも掴まりたがる老いた腕
春も秋も短くなってきた日本
動物は逸る心を隠さない
祖父名義の土地に群がる孫あまた

西宮市　高橋千賀子

如意棒で入道雲を呼びつける
夕立があって一息つきました
ぎりぎりになって気がつく能天気
音楽に合わせて踊り出すインコ
裏切られて初めて分る人の道
ムームーが隠してくれる太鼓腹

安来市　原徳利

目頭の上に線状降水帯
激辛の話が少し足りません
出目金に戒名つけて樹木葬
一日を無言で過ごす白い壁
負けるまで分からぬトレンドの変化
混乱に拍車をかける辞任劇

明石市　瀬島流れ星

いい句だが抜けぬと注意された誤字
原稿を飛ばし読みしてから地獄
また一つ薬追加の不摂生
悪筆でいい句もきっと損してる
二度咲きの恋へ追肥のあれやこれ
四次会も振り切れず来るお邪魔虫

名古屋市　冨田末男

凪にするために余裕を常に持つ
ライバルを持ってから自負強くする
考えが甘いと正座したくなり
恩返しツルの心に教えられ
叱責の後でしている褒め言葉
健康へ誘ってくれるスニーカー

黒石市　石澤はる子

背を押す風を待ってる曲がり角
人間のブランド背負う肩の凝り
雑草の自己主張には泣かされる
厚着して防ぐ世間の風当り
落とし穴人間力を試される
高校野球戻りいつもの夏になる

神戸市　米田　利惠子

「きっと治る」名医も嘘をつくのかな
日日酷暑セミの元気が羨まし
万歩計歩きスマホに邪魔をされ
オリンピック見ながら脚を揉むわたし
診療日うきうき外出着選ぶ

神戸市　城戸　誓子

瞬間に忘れる今を生きる母
老母ひょいと眠れる美女になる
タモツサンまどろむ母は亡父といる
もう一度食べたい母の玉子焼き
母見舞い虚ろに過ぎる車窓の灯

芦屋市　荒牧　孝子

浴衣用意したけど花火また中止
年重ねてもますます燃える知識欲
記憶曖昧お酒のせいにしておこう
ふかふかの老後の座席あるのかな
最期手を握って欲しい人は誰

芦屋市　新阜　義明

抜けずともオリンピックの参加意義
ああしんどあんたどんだけ汗かいた
足止まり吸い寄せられた駅ピアノ
不揃いのキュウリ絶品舌を巻く
指のあとしっかり残る桃売場

尼崎市　宗　和夫

安全で安心だから自粛せよ
騒ぎたや一夜かぎりの祭なと
ええやんか東京五輪やってるし
メダルラッシュ歓喜のあとに来る恐怖
東京五輪どこにもいない責任者

尼崎市　清水　久美子

向日葵の首を襲った暴風雨
ロボットのオペで摘出した胃癌
奇麗事言った従姉妹が取る遺産
手に汗を握って残暑見舞書く
カキ氷自分で作る風呂上がり

伊丹市　延寿庵　野鶴

やりたいこと在庫沢山持ってます
わがままをつらぬき伸びる蔦の蔓
生きるとはデルタ株にも勝つことだ
朝一番エスプレッソが喉へ染み
やさしさに触れてやさしくなるヒト科

伊丹市　平井　富夫

秘めている思いのたけがうずいてる
爺元気介護はいらぬ酒の量
縫い合わす少しの知恵でほころびを
大あくび会場隅でワクチンを
元気ですはじける孫は夏休み

三田市　幸田厚子

プライドを捨てて小さな家族葬
ワクチン終えさあ出かけよう医者めぐり
オンとオフ切り替え冴えてまだ惚けぬ
八十路女も身なり心得出かけます
電車内スマホに挟まれ新聞派

三田市　中山昭美

ナナフシが急ぐ私に通せんぼ
どや顔がちょっとシャクです夫の家事
幼子も真似て揃えた赤いくつ
糸屑を取った背中がもう見えぬ
下山する遥かな景色愛おしい

三田市　森玲子

梅雨明けの大空に舞うバスタオル
老いて今子に教えられ気付かされ
イヤイヤ期可愛い孫に疲れ果て
新生児見ているだけで目もゆるむ
寝て食べて私もしたい里帰り

奈良市　東定生

裏白いチラシを溜める倹約家
亡き友を削除できない電話帳
Web会議地球の裏は寝ぼけ顔
空調の温度で分かる年齢差
今どきは悪人顔のワルいない

奈良市　尾畑なを江

午前二時この世の雨に起こされる
さつまいも芽が出てガラスビンに挿し
そう言えば毎度定位置座ってる
望まぬがスローライフとなりにけり
人生は永いようでも知れている

和歌山市　北原昭枝

百態の雲がゆうゆう空泳ぐ
ボーンボーンと鳴った昭和の古時計
戦争を知らぬ世代が持つスマホ
仏壇の奥まで届く灯が揺れる
盆送りいつかその川渡るまで

和歌山市　倉橋悦子

暑すぎる溶けないうちに避難する
安全を探す余生へ旅仕度
子等の絵と楽しむ夏の小宇宙
身にしみる猛暑酷暑のフルコース
謙遜も過ぎれば厭み持て余す

和歌山市　定松宏枝

独り居も何だかんだで忙しい
ひとり居は時間も食べて日々暮らす
巣ごもりを癒やす五輪の金メダル
挑戦をしても届かぬ母の味
ささやかに気持潤うショッピング

人類を笑ってコロナ進化する
老いていくお一人様を覚悟して
たいくつな赤い金魚の長いフン
さようならぐらい真顔で言いなさい
午後八時酔えないままで帰宅する

和歌山市　まつもと　もとこ

さよならを覚悟でそっと受話器置く
情見えぬ長い言いわけ聞く我慢
記念写真せめてマスクをはずしたい
老人会昔話を生き生きと
後世にマスク時代という写真

岩出市　村中悦男

あれこれと迷わぬ女翔んで居る
見栄はってエステに通い火の車
旬の味程よく舌に馴染む味
逆転もある人生長い道
忘れ物届ける老母の白い息

和歌山市　三枝眞智子

秒針が時を渡して行く未来
ひとしずく集めて今日の糧にする
来た道も来る道もみな書いてある
世間体ばかり気にして白い服
表向きの言葉に手を焼いている

鳥取市　山野すみれ

散らばったプライド拾う老いの日々
あれこれと終った今日を悩む夜
同窓会八十路の君を「チャン」で呼ぶ
誰も来ぬ集合日時間違えた
気が強く人情もろくすぐ涙

倉吉市　若松由紀子

手ごたえを加減しながら孫のもり
夏来れば虫が私を好きと言う
コロナ禍もカエルの唄は楽しそう
今年また星とホタルのファンタジー
老化とはこんな事かと思う日々

米子市　川本美津子

試着室の鏡上手に嘘をつき
普段からいい気になっていた兎
やさしい嘘だ黙ったままで受けておく
どん底を過ぎて夫婦は強くなり
人間は偉い子どもが親を看る

松江市　中筋弘充

暑中見舞もたもたしてて立秋に
花と水ご無沙汰でした墓そうじ
台風の爪あとむごい言葉出ぬ
ゴミ出しに親切な声嬉しくて
うれしくて花壇の手入れ褒めておく

松江市　山根邦代

美作市　岡本余光

もう少しこの世に居たい枯れ芒
過去を漉す残る精気で再起動
知らぬ間に乱れた言葉使い慣れ
オリンピック汚したコロナ忘れない
少しだけ汚れた過去は水洗い

広島市　田桑恵子

サルスベリ炎暑が好きと燃える紅
汗拭う峠の風が頬なでる
二人して何やかんやと探す日日
IT化ネット依存の子が育つ
台風に踏ん張る支柱夏野菜

尾道市　小畑宣之

酒は飲め飲んで酔うなと無理言われ
誘う友誘われる友宝物
今日は今日昨日は昨日引きずらず
青春の香る手紙は捨てられず
出来るだけ手紙にしますぼけ防止

竹原市　土井輝恵

喜びも悔し涙も美しい
じいちゃんにイライラ薬買ってくる
勘違いのまんまで過ぎたマスク顔
御意見として聞いておく読んでおく
関白風痴呆の風も吹いており

山口市　中前幸子

たらたらの未練断つ気の苦い酒
月の暈かすかに愛の脈が打つ
まぼろしの森ラストダンスは月影と
蒼天遊泳　紙ヒコーキに乗って
白い断章紺碧の海に浮く

大洲市　花岡順子

感染のニュース聞きつつ昼にする
のんびりにステイホームという味方
ファッションは心を飾るものでいい
ゆっくりぼんやり体の力抜けていく
いい顔になった仕上げの紅が言う

唐津市　前田廣幸

あやふやに聞こゆ読経の心地良さ
長生きを否定するかのごと弔辞
歯車が軋んで知らす夫婦仲
蚯蚓まで熱中症か行き倒れ
片付けへ後髪引くものがたり

佐賀県　真島久美子

第三のヒントここから奈落です
星の位置だけで他人を愛せるか
無防備なレタスと無防備なオンナ
嫌いです紙ストローの噛み心地
接種券届き私の夏終わる

宮崎県　惠利菊江

リスの真似して食べているアーモンド
豪雨からアリも避難に上がる家
マメ潰し鍬を持つ手が泣いている
定年後テレビの番で日が暮れる
ネクタイと格闘してる面接日

宮崎県　黒木栄子

まあまあに尖った口も丸くなる
母が逝く亡父に逢いに行くように
足元の注意に老いを自覚する
有りますと言えずに貰う御裾分け
休日も一番鶏に起こされる

青森県　月波与生

人生の縮図を枝豆で作る
素描画で泣いてる方が兄ちゃんで
野葡萄が転ぶ勝ち負けとは別に
仲直りしてから会わない人ですね
犬だけがですます調で吠えている

東京都　高岡弥生

良い姿勢保ってアンチエイジング
五日分おかず作りの日曜日
スイーツを止めて体調蘇る
ご機嫌の理由は彼女出来たみたい
コンビニのバイトで人間観察し

横浜市　巌田かず枝

参加した皆にあげたい金メダル
若者の活躍日本元気です
また来てねゆっくり日本見てほしい
パラ五輪テレビでエール送ります
子供等に青い地球を残したい

横浜市　加藤佳子

向日葵も頭を垂れる八月忌
始まれば五輪に夢中夏の空
感染増泣き言笑う変異株
五輪強行コロナの付けが口を開け
生き残りかけて巣ごもり高齢者

豊橋市　小松くみ子

台風の大型化また人が泣く
電気量節約兼ねて図書館へ
メダカ好きがオタク人生まっしぐら
知らなすぎこの歳で知る能天気
汗をなめ体調チェック炎天下

豊橋市　西郷紀美代

肩凝りも慣れてしまった老いふたり
好きなよう生きていたなら良しとする
色気まだ健在で塗る日焼け止め
夜の雨畑の水遣りありがとう
採りたてのキューリをかぶり付く若さ

大人世界魑魅魍魎の天下です
大人って欲が絡めばぐっちゃぐっちゃ
大人世界踏み間違えて地獄編
大人って迷える羊群れたがる
大人になんかなりたくなかった僕

石川県　堀本　のりひろ

朝顔の観察日記父が書く
ナンキンが切れぬと母が泣いている
大所帯でした麦茶はやかんごと
片恋は微熱で終わる夏の雨
こだわりは捨てた忘れることにした

大阪市　大沢　のり子

いい人をやめたら本音燥ぎだす
シナリオと違う女を演じてる
手のひらで転がしている夫の嘘
何やかやあっても横に居る亭主
いつからか我が家で育つ外来種

大阪市　岡田　恵子

背もたれに私の未来託してる
出口ない憤懣溜めた鬼あざみ
遠い日の母の優しさラムネ菓子
苛立った介護の日々が遠くなる
チャージした自由と時間もて余す

大阪市　折田　あきこ

人生の迷路出口が見つからず
あみだくじ人生ここにたどり着き
すりガラス向こうの空はきっと晴れ
風呂好きに孫を育てて温泉へ
原石はごろごろ磨く人おらず

大阪市　近藤　風羅

ワクチンはリスクあっても脱コロナ
エアコンの冷気すいとる熱帯夜
八月の空に核廃絶ちかう
琴線に触れて切ない蝉時雨
父母のローソクともる盂蘭盆会

大阪市　阪本　秀子

金粉をちりばめ屋久の海暮れる
前うしろ囲まれてます活火山
三角波ものともしない父の船
針の穴シッカリ見える術後の目
母娘げんか認知防止と言う娘

大阪市　柴本　ばっは

巣ごもりは自分を磨く良い機会
ごめんねが言える素直さ残ってる
陽気さが若さを保つ秘訣らし
喜びを心に仕舞い独り占め
寛解に感謝と不安入り交じる

大阪市　中村　民子

大阪市　東　敏郎

半額の食品だけを買う翁
日記帳なぶり書きして恋終る
塩胡椒いい加減やろ旨いやろ
土筆出る「ドレミの歌」を口ずさみ
目力の弱い夫に黒マスク

大阪市　樋口　眞

返信がないもう書けぬのか友よ
病院へ過密な街を通り抜け
夕焼けに感謝残暑を散歩する
コロナ禍の寂しさに耐え日が暮れる
帰省の子細かな話せぬままに

大阪市　森　廣子

楽しい時は雲も笑ってくれている
家ごもり心虚ろな猫になる
重なるショック神に何度も試される
叫びたい心を閉じて盂蘭盆会
他愛無い話をしよう 会えたらネ

池田市　上山　堅坊

老体になお潜む芽を探してる
老いた脳鍛える本を五冊買う
圧力釜買ってうきうき料理する
両親より爺に似ている孫の顔
星条旗繕っているバイデン氏

池田市　倉本　一弥

良い人悪い人もいるので生き易い
渡る世間鬼も観音さまもいる
法事終え礼服脱いで深呼吸
ジェンダーとか男も女も生きにくい
退役の電車と渡る大井川

貝塚市　吉道　あかね

風鈴も休みうとうと午後三時
メダルはないが完走といういい笑顔
検査結果マルを貰った一年目
お互いが薬飲んだと言い聞かす
あと少し夫婦芝居を続けましょ

柏原市　神崎　江

歳聞かれ幾つに見える期待込め
カーナビの声に感謝のひとり旅
山頂で来光を待つ息は白
騙されたふりして過ごし凪を待つ
帰り際またねの笑顔量りかね

交野市　山野　双葉

行き止まりばかりではないこの世界
はにかみつ茶摘む写真の母若く
形見分け涙ふきふき品定め
笠深く皆美しき盆踊り
干すタオル片っぱしから乾く今日

門真市　坂本星雨

オリンピックに浮かれコロナが踊りだす
自粛疲れを癒やしてくれている金魚
ぶどう狩り一粒ごとの子の笑顔
子育てを委ねるふるさとの自然
合掌へ血のつながりが脈を打つ

河内長野市　坂野澄子

高い夢買ったピアノが今はじゃま
恋の文字いつのまにやら半角に
熨斗袋せめぎ合いする義理と見栄
断捨離に値段ちらつくまだともう
きっと勝つ赤いパンツを穿いたから

吹田市　西沢司郎

五輪より翔平さんの二刀流
雑音に気を取られては失くす夢
黒雲の動きに目遣り急ぎ足
情けない方に委ねてやばい国
休刊の日には大事が起こりそう

高槻市　鳥居宏

梅雨去ってどうだと真夏現れる
五輪などと言いつつテレビ見続ける
痩身のピエロぶかぶか白パジャマ
果物が豊富になって壊す腹
青空に蝉の読経の原爆忌

豊中市　齋藤奈津子

蝉しぐれ遠い耳にも騒がしい
盆帰省できぬ今年も電話だけ
盆踊り今年も浴衣出番なし
冷凍みかん子供の頃の汽車の旅
スーパーで避暑する緩りお買物

寝屋川市　長尾千賀

アンチエイジング右脳は今もハート型
タワマンで人を見下ろす癖が付き
ハイリスク承知で触れてみるタブー
胸のクロス一日だけのクリスチャン
可愛い私もう一人居る酒の席

羽曳野市　黒木ひとみ

茄子紺の色鮮やかな一夜漬け
出揃った稲穂まっすぐ葉月の田
夏空に綿菓子のごと入道雲
静寂な境内にふる蝉時雨
あの雲に包まれ昼寝してみたい

大阪府　奥野健一郎

消しゴムは使わぬ主義でありのまま
もったいないもったいないもいずれゴミ
顔色を変えたら度量うたがわれ
長短あろうとも人生は一幕
追った夢胸にしまって老いてゆく

神戸市　青木公輔

恋のシグナル鳴り止みそうで鳴りやまぬ
捨て切れぬプライド今日もぶらさげて
手の内を見せてどこまで挑戦す
一泊二日の二日目恋が乱れ飛ぶ

神戸市　青山ひろし

特攻に思いを馳せる夏の雲
オフサイド　ライン下げよか星月夜
図書室も長居無用の椅子が無い
封筒の糊へ舌先ゆきたがり

神戸市　石川克美

スポーツの祭典なのに真夏の日
マラソンでボトル飛び交い路上ゴミ
宣言が惰性になっている空気
昼間にはせみも暑くて鳴けません

神戸市　輿水弘

亡父の歳ほやき方までなぜか似る
近くに寄るな触るなコロナ明けるまで
老い仲間先生役が一人いる
あの嫌なことホントにそうか棚卸

神戸市　田本古鈴

古稀くればビキニ水着はもういらぬ
今年また生きているぞと蝉が鳴く
コロナなどすっかり忘れ繁華街
酷暑の日出掛けることを悩みぬく

神戸市　みぎわはな

表彰台マナーに見えるお国柄
お手玉も五輪種目に如何です
テレビ漬け特等席でビール手に
冷房は苦手と言うておれぬ日々

伊丹市　岡村風琴

一枚の青空纏うスニーカー
マネキンがおいでおいでと秋モード
嫌なことレモン汁かけ消している
いいわけをまだつづけてるおじぎ草

三田市　生田えい子

夢は鷹ひと先ず鳩の調教師
またきてねツバメ見送り大掃除
ピアニカで指肺鍛え喜寿を越す
隠居部屋嫁がやさしく背中押す

三田市　辻開子

マスクする笑顔会釈が通じない
自粛中通帳残が嘆きかけ
菜園が旬も終わりと枝も枯れ
冷蔵庫食材も減りレシピ難

三田市　馬場貴美江

陽が昇る暑さ倍増蝉しぐれ
熱帯夜うなぎのぼりの電気代
オリパラの開催意義が不透明
アスリート努力の夢はメダル色

盛り土は何ら悪意を持ってない
根気よい巣籠り尻に根が生える
五ミリでも躓けますとカーペット
聴かれたくない質問は聞こえない

宝塚市　岸田万彩

終われない夏がことしもやって来る
夫の喪や楽しき日々のことばかり
朝シャンの気持ち上向く月曜日
握手ハグ喜び合った日々のこと

たつの市　江尻房子

炎天下仕事一筋気にかかる
コロナ禍で帽子ファッションしそこねる
札砕くつかの間小銭わんさかと
夫のケガ御朱印長が旅を待つ

丹波篠山市　澤良子

うっかりが気になり終日うわの空
無観客それでも五輪やり遂げる
具だくさん味噌汁今日もがんばれる
独り居もせっせと野菜日々きざむ

丹波篠山市　藤井美智子

気のゆるみ楽な方へと流れてる
毎日が転ばず過し笑ってる
曲り角ポイ捨てやめて婆掃除
朝の内作り置きする夕御飯

西宮市　高瀬照枝

快晴の真っ青な海無のこころ
砂浜の続く視界に人まばら
兄弟で燥ぐ波音父母の声
波の音いのちの音を聴く夕べ

三木市　山口ヨシエ

ともかくも感動くれた繋いだ火
十三年エースの気迫衰えず
マイク向け敗者を更に苦しめる
痛い目を学習せずに繰り返す

奈良県　室田行久

お・も・て・な・しオリンピックのお約束
コロナ禍は想定外の大障害
蔓延をオリンピックの所為にせず
無観客先ずは開幕ほっとする

和歌山市　佐藤まき

走り水陽炎の中日傘ゆく
曇天の薄日明日への希望かな
猛暑なか思考回路は迷子なり
掛時計休むことなく愚痴言わず

和歌山市　鍋嶋澄子

髪切ったぁ気付いてくれたレジの人
病院の薄切りパンはチト辛い
入院中猫が夫の世話をする
三流と言われて奮起する右脳

和歌山市　西川千鶴

和歌山市　福島一雄

エアコンに感謝と怠惰二本立て
趣味の道深みにはまり生きる糧
コロナ禍に五輪やり切る日本人
結婚を重荷と知った若い人

鳥取市　上山一平

立秋というも空しい台風禍
台風にさからい裂けたトマトの実
台風の先回りする高速道
進路予想外れ安堵の野良仕事

鳥取市　大前安子

無口ですアイスクリーム食べてます
人の味酒の味をも知る一夜
かたちから入る作法へ息しずか
夕凪へ足遊ばせて明日のこと

倉吉市　伊藤嘉昭

娘の小言耳は痛いが直に効く
「まだ仕事」答えはいつも「ボランティア」
孫娘二十才曾孫見るまで元気元気
コロナ禍で孫娘と語るもマスク越し

倉吉市　堀　かずこ

またひとつ年をとるのか誕生日
さっそうと歩いてみたい杖を置く
甲子園帰ってきたよ球児たち
ワクチンをしたってコロナ増えている

倉吉市　宮田風露

猛暑の畑でみみず干涸びてる
天変地妖地球地獄のようになり
コロナ禍にお盆も淋し墓参り
反応を見ながらぽつり小言いう

境港市　中井虎尾

寄する波その目の先に伯耆富士
立ちどまりなんで私はここにいる
青紫陽花人に見られて赤くなる
人の書く原稿総理飛ばし読み

米子市　妹能令位子

草に負け除草剤買いましょか
草枯らし浴びて数多の虫が泣く
BGM独りの居間をカフェにする
年金が出てとりあえず日帰り湯

鳥取県　下田茂登子

八十七歳ワクチン無事に終えました
病歴は数え切れない体である
生きている証し只々声は出る
女の子いればと思う今更に

鳥取県　橋谷静江

穏やかな暮しできたらそれでいい
冥土まで一緒に行きたい老夫婦
墓参り父母にたくさん頼み事
おはようと大きな声で雀の子

集まった義援金こそ愛である
文集の夢がキラキラ成長期
さわやかに生きてこころの荷を軽く
いつの日かあなたを包む存在に

松江市　相見柳歩

回り道長い道のり振り返る
コロナ禍のメダルラッシュに日本沸く
スポーツのチカラ五輪が見せつける
女子バスケ未来を照らす銀メダル

出雲市　黒目ひでお

会えぬ孫写真出しては話しかけ
気がつけばつい溜め息を出している
生け花にそっと氷を入れてやり
自粛している間に友の声細く

雲南市　永見安子

カサカサのお肌に欲しい一滴
美しい明日を知ってる紋白蝶
やりかけて止められないと老いの意地
踏まれても踏まれてもなお野辺に咲く

津山市　髙橋由紀女

句読点よりも絵文字の新時代
白足袋が生活感をゼロにする
ニュースより世論に強いワイドショー
図太さを見せない様に白いシャツ

山口市　兼崎徳子

同じ鍵持って集まるボランティア
ヘルパーの愛想笑いは砂時計
ブレないでコツコツこなす箇条書
繕いと言い訳上手へらず口

広島市　松尾信彦

次世代へつなぐ五輪の新競技
同じもの食べて夫婦の体重差
喧嘩しながらまだ続く夫婦旅
川柳で人生語る日々一句

尾道市　村上和子

何もしたくないのに川柳だけは別
初孫は14歳にいつの間に
初孫が一番やさしいように見え
遺産あってあっての苦労あるらしい

三次市　伊藤寿子

板の間に偏平足を投げ出して
ヒマワリが東を向いたままでいる
鶏頭の怒髪は天に向けている
爺さんが忘れたことにしておこう

府中市　岸田武

自粛してテレビで五輪楽ちんね
先輩はこの頃老いを口走り
アジサイは梅雨大好きの傘いらず
朝一に蝉が歌えば蝶は舞い

沖縄県　禱モモト

沖縄県　宮　すみれ

むかえ盆先祖マスクでやってきた
一合で悩みぶっちゃけ酔ったふり
私にもしゃべらない日はあるのです
マスクして笑ってくれと言われても

松山市　郷田　みや

どうしても切手三枚右上がり
夏の葉書おまけ付いてきた金魚
妹が施設の中で溶けている
イントロはゆっくり聴いてあげましょう

高知市　三谷　松太郎

山小屋も下界に負けず超猛暑
ひたすらにコロナと猛暑逃げるだけ
こまごまともう結構で老いの坂
またしてもハイは一度でいいですよ

弘前市　小山内　真由美

町内を回ってくれた中ねぷた
ごくろうさま祭り気分をありがとう
子の幸せは母の幸せ夏休み
最終章何のご褒美ふと思う

黒石市　北山　まみどり

今さらに望んでいない根競べ
生真面目に働きすぎはいけません
気の利いた土産話はないものか
ときどきはほったらかしも悪くない

富士見市　中島　通則

初対面覚えられないマスク顔
大吟醸の違いが判る下戸の妻
三日後にふと思い出す女優の名
買ったけど顔を隠して差す日傘

静岡市　渡辺　芳子

年月が足早過ぎる高齢者
文珠山大合唱のセミの声
カゴもってセミ取りをした幼き日
地球上の生きもの守って神様よ

浜松市　中田　尚

体内の水分汗に化けました
メダルよりコロナ気になる東京都
去年ならメダルの色が変わったか
八月に命の重さ問いかける

江南市　脇田　雅美

有意義に百年生きる夢でない
コロナ禍に気分的にはズル休み
忖度とたらい回しであやふやに
ギャルたちに口をはさんで無視される

八幡市　武田　悦寛

優柔不断一歩背を押す缶ビール
やきとりの串を数えて上げる腰
打ち水が似合う京都の裏小路
腹くくりスイカ選びで尻たたく

朝夕のお花献茶に仏笑む
青空で入道雲が海招く
ゴムぞうり履いて昔の道辿る
夏ジャンボ一発狙って海外へ

京都府　北野　クニオ

向日葵は夜になったら反省し
南国の気分になれぬ熱帯夜
蛇口からごくごくごくと昭和の子
手の平に掬った月は揺れている

大阪市　今村　和男

ロマンスは百歳時代これからよ
自分なりリッチと思うだけでいい
のみたいな心の悪魔顔を出す
土砂くずれ地底で閻魔おこっている

大阪市　尾崎　文子

ワクチンで命を守る高齢者
原発の恐さ忘れて再稼働
親介護人生変えての恩返し
人は皆希望無くては生きられぬ

大阪市　前川　善之

声かけてびっくり知らん人だった
焼けそうな暑さにせめてかき氷
無観客オリンピックに似合わない
めざしたのは復興五輪だったはず

大阪市　松田　聰

鳩時計捻子巻く音のここち良さ
ナツメロに想い出乗せて口遊む
コロナ居て未だにマスク忘れあり
妻手入れ紫陽花咲いて梅雨最中

堺市　古川　光雄

過去最多五輪の金と感染者
アドバイス他人事だから言えるのよ
ゆりかごの孫より婆が眠ってる
喧嘩して夫も他人思う時

泉佐野市　樫葉　良子

傘寿の祝今日から余生生きて行く
定年後罪悪感がある朝寝
引退をさせてください主婦の座を
のんびりいこう言うてた友の訃報知る

泉大津市　助川　和美

ワクチンの接種をめぐり仲違い
心のネジちょっと緩めて思いやり
まだ生きる子が早早と御膳立て
飲む点滴甘酒で勝つ茹る夏

河内長野市　穂口　正子

今年また別々に来る墓参り
ほんのりといちじくの味夏運ぶ
もういいかい指の隙間のかわいい目
盆休み行くとこなくて出社する

吹田市　岩口　のぞみ

女子会は夫をサカナに盛り上る
懸命に生きる姿を残しとく
いろいろと五輪の意義は後でつく
孫からの電話に幸せ感じます

高槻市　三谷白黒

コロナ禍で会えない娘家族ふえ
暇つぶしうまい話にそそられる
温泉のほっこり気分遠い夢
冷や汗でも水分補給忘れない

豊中市　荒木郁子

もう何も言うまい六十すぎた子に
朝の経蝉の合唱従えて
酒蔵巡り酔うほどはない試しのみ
良いことが無くても止めぬ夜の酒

豊中市　貝塚正子

街角に暖気吐きだす室外機
アスファルト剥がせば一度下がるかな
マスコミが先棒担ぐ温暖化
人間にはO_2植物にはCO_2

豊中市　松田蟻日路

すっぽんで健康自慢100までも
引っ越しで泣き泣き去った家族です
白桃を皮むきながらなめている
仏壇のメロン香って子と食べる

寝屋川市　坂本ミヨノ

勝組は感謝と謙虚無縁です
初恋の人の名よんで五十年
ユーチューバー真似てみたいよクソ度胸
忘れない私を嗤った上司たち

東大阪市　秀爷

マスク顔キレイと褒めて大失敗
コロナ忘れオリンピックに熱中す
蝉の声通さぬ網戸無いのかな
テレビ見るオリンピックとコロナだけ

八尾市　田邊浩三

励ましの言葉今は見つからぬ
君の傍いつもエールの亡夫居る
頑張った友よ悔やむな胸を張れ
今はただそっと応援負けないで

大阪府　大浦福子

お隣は納骨できぬ三回忌
入れ墨か将又タトウかアスリート
マスクずれ会話もずれる老い仲間
賑やかだ五輪コロナに雨あらし

大阪府　髙木道子

ひとこと募集

一行18字　25行まで　採否は編集部に一任の事

西尾栞句集『水鶏笛（くいなぶえ）』

姐さんのほめる女将の社交ぶり
はしゃいだあとの寂しさ妓にも
子持ち仲居もったいないが口につき
芸者の耳うち高いものになり
月ヶ瀬、吉野、長谷、生駒仲居のスケジュール
スカンタコという声が大きい仲居部屋
首筋から風邪ひきそうに舞妓居る
ああは言ったが心で泣いたと言う女将
若旦那女将が出ると他愛なし
段梯子女将眉間で何か言い
最初からこられまっかと捻られる
三味ひける姑で孫をよせつけず
舞妓がつけた渾名で旦さん嬉しがり
相場拳三つ指ついた妓と見えず
内幕を舞妓が話す派手なこと

「四　季」

元日や素直に鼻をふかすなり

辰年年頭所感

竜頭蛇尾となる一年の計を樹て
四十七になっても正月よろしおま
日曜のちょっと大きいおらが春
ポチ袋ませた御礼を言われたり
義理がたい人に元日起こされる
初電話向うもまわっているらしい
ポチ袋芝居好みを伯母は見せ
唯々諾々と燗の追加も三ヵ日
お祝儀という数の子のケチなかさ
三カ日明治生まれは寝るとする
蝿叩き一匹たたいて返事する
昼寝から起きてマッチをふみつける
心中のそれもセル着る頃だった
張板へ柿の若葉が柄となり
猿飛が現れそうな落葉焚く

誹風柳多留一三篇研究 14

細井龍夫・伊吹和男
高野範雄・山田昭夫
小栗清吾
清博美

105 **太平と書クと和尚につみハなし**

細井 家康は大坂城中の資財を減らすために、秀頼に京都方広寺の大仏殿を修造させたが、慶長十九年（一六一四）七月の開眼供養直前になって、鐘の銘文の結びの中に「国家安康」（家康を切り）「君臣豊楽」（豊臣家が楽しむ）を見付けられてしまい、怪しからんと難癖を付けられ、豊臣方の片桐且元が弁解に努めたが納まりがつかず、結局はその年の十月に大坂冬の陣に突入してしまった。この銘文は京都東福寺天得院の住持、文英清韓が撰したものであるが、「国家安全」とか「天下泰平」とでもしておけばよかったのに。事の起こりは、清韓が東福寺のためになることをあまりしなかった故の内部告発だったらしいとか。

鐘の銘切レが有のでやかましゝ　六二32
国家安全と書ぬが落度也　五三23
あらの出ル長カ口上ハ鐘の銘　八39

山田 賛。雨譚註「鐘の銘」。

清 賛。何と書こうと屁理屈は成り立つ。いずれにしても家康の勝ち。

106 **いらぬ事口とりこしをぶつくじき**

細井 馬の口を取る下僕が戯れに馬に乗って落ちたのか、それとも、馬繋ぎにつないでおけばよかったのに、横着をして自分の帯に手綱を結び付けて居眠りをしている中に馬が勝手に動いたので引きずられて腰を打って痛めてしまい真面に歩けなくなってしまった。何とも締まらない話だ。

口取りの落馬それ見ろなと、いふ　明五智5
口とりハ帯へつないでひる寝する　一六14

伊吹 賛。いらぬ事の語感から落馬か。

清 落馬でしょう。

107 **年よりハみな白ひげでまくつもり**

細井 正月元日から三日まで、向島の七福神詣りを行う風習があって、弘福寺の布袋、百花園の福禄寿、長命寺の弁財天、多聞寺の毘沙門天、三囲稲荷の恵比須、大黒と巡拝したが、白髭神社には寿老人を祀っていた。この辺りでもた〳〵しているお年寄り連中ははぐらかして、若者たちはさっさと対岸の吉原へと向かうのだ。

白髭ハ年寄をまく社なり　傍一28
しらひげを過キると道も若く也　安五梅1

伊吹 賛。「年より」と「白髭」の縁語。

小栗 伊吹兄補説必須。

清 同右。それが目的の句。

107 **もんさいがあつて若衆にたまされる**

細井 安国寺恵瓊は学問や政治に才幹があつ

たのに、秀吉の若衆上がりの石田三成に騙されて、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原合戦には豊臣方に加担することになった、という句意になるだろうが、実は、秀吉がまだ与助といっていた頃に矢作川畔の茶屋で、その非凡なる相を見出し、後に十万石も下賜されたくらいだから、誰に言われなくても西軍側についただろう。最後は哀れで、三成ともども京都三条河原で斬首になった。

手の筋の堀出し物ハ安国寺　一三二36
敗　軍の筋ハトせぬ安国寺　一五七7

山田　賛。「雨譚註」は「鬼市などか安国寺只よき出家也」とありますが、小生にはよく分からない。

小栗　「雨譚註」も一理あり。「鬼市」は「鬼一法眼」ならん。文武両道の陰陽師で、兵法書『六韜』を所持、義経はこれを見せてほしいと頼んだが断られたので法眼の娘をだまして手引きさせ、読んで暗記してしまう。法眼は妹婿に義経を討たせるが逆に討たれてしまうという話(『義経記』)。何となくつじつまは合いそうに思うが。

清　「史伝」では陰間の項に入れられている。「雨譚」説でいいと思うが。今一つはっきりしない。

108　うつくしいばつ壱両が壱歩ぬけ

細井　中七の「ばつ」は元本の『川柳評万句合勝句刷』(安四仁3)には「はづ」となっているので、「柳多留」へ転記する時に編者か彫師が間違えたのだろう。

一両は四分。そこから一分引けば三分、という簡単な数遊びで三分女郎を表しており、三分女郎は最上級だから美しいのは当たり前だわな、と見惚れている。

近くハ寄ッて目ても見ろ三分也　三九8
おもしろひはづ床代か三歩也　拾七32
かみしめて見れバ三分ハ三歩也　拾七4

清　賛。

110　上下て大屋とつくりさげて来る

細井　勅使下向のほか、将軍家に大慶事があると城内で能狂言が演じられ、江戸八百八町の家主が一町に一人の割で招待され、半数ずつ二回に分けて入城、拝見が許された。当日は裃着用で入城するが、梅干、香の物、おにぎり、菓子、それに傘を各人に渡される。その外に、数人に一本の割で錫製の徳利に入った酒を頂け、しかも、その空徳利は持ち帰ってもよいとされていたので、その争奪戦は大変だったようだ。我等が大家(家主と混同)さんは獲得した戦利品を得意満面で持って来たよ。

八百の上下を着るありかたさ　二〇28
ありかたさ錫やるまいぞ〳〵　三〇26
家の宝となさはやと錫徳利　二九29

山田　賛。雨譚註「お能拝昆」。

清　賛。

111　たもとにすかりてハ顔を見せなんし

細井　遊里での後朝風景。例によって例のごとく遊女は客の袂にとり槌って「では、もう一度お顔をよく見せなんし」などとアリンス国の言葉で別れを惜しんで媚態をつくっている。

きつとでざんすゥン忘れなんすなゥン　四六19

高野　後朝の風景、賛であるが、媚態とは少し異なったもののように思います。袂にすがって次の登楼日の約束を取り付けようと必死の遊女。

小栗　状況は高野説に賛。

清　「袂にすがり」は謡曲の文句取。幾つかの曲に見られ、常套句に近い。但し、句は主題句の一句のみ。

英語 de Senryu⑱

麻生路郎句集『旅　人』

英 訳　吉村　侑久代　Kim Horne

一口も聞かぬ強さを持つている
her strong will,
not to speak to me
for a while

妻や待たむ　靴音を　高めんか
my dear wife
waits for me
so I make loud sounds with my shoes

---

strong　強い　　*will*　意志　　*speak to*　話かける　　*for a while*　しばらくの間
wait　待つ　　*so*　それで　　loud sound　音高く

～リバーウィローのため息～世界の詩歌㊽　恩師とベサメムーチョ

司馬遼太郎の『街道をゆく』全43巻を読破しようと計画し、ちょうど23巻目の「南蛮のみちII」を読んでいた時でした。大学時代にスペイン語のクラスでお世話になった大島正先生が文中に出現されたのです。先生はスペイン文学者、同志社大学商学部教授で、サラリーマン税金訴訟原告で有名なかたでした。司馬氏に「スペイン人は、世界のどの民族よりも自分のボディを愉しむことを知っている。喋る、唄う、飲む、踊る・・・・」と語り、司馬氏の南蛮への旅に助言をされました。わたしは第二外国語でスペイン語を受講しましたが、本来二年次で終わるところを、三年まで持ち越してしまいました。先生は「まあ、スペイン語の歌でも覚えなさい。」と、おっしゃってくださいました。一番覚えやすい歌は、*"Bésame mucho"* (*Kiss me more*) で、歌の意味はあまり気にせずに覚えました。そして30年後にアメリカで再び *"Bésame mucho"* を歌うことになったのです。交換教授としてオクラホマの大学に一か月ほど滞在し、日本への帰国に際して大学はお別れパーティを開いてくださったのです。宗教色の強い大学で、校舎もスペイン風でありました。お別れスピーチの中に、その大学のスペイン文化を入れると、突然学長がスペイン語でわたしに話しかけてこられました。「お礼に歌でも。」と思い、とっさに口から出たのが *"Bésame mucho"* でした。*"Bésame, bésame mucho/ Como si fuera esta noche la última vez/ Bésame, bésame mucho/ Que tengo miedo perderte, perderte después"* 大島先生が蘇った瞬間でした。

130 没句再見

この10月号には「八月本社誌上句会」の結果が発表されています。私は課題「個性」の選をしていますが、「自信作だったのに没になっている」等と思われている方もおられるでしょう。没にした理由を発表する機会はあまりありませんので、ここで気が付いたことを記してみます。

それぞれの【　】で示している項目は、どのような課題にも共通する注意点ですので心に留めておいて下さい。

【成句を転用している】

どの花もみんな違ってみんないい
手を繋ごみんな違ってみんないい
どの花もこの世にひとつだけの花
良いじゃない蓼食う虫も好き好きで

一本気曲がったことは大嫌い

右、「みんな違ってみんないい」は、金子みすゞの詩の一節そのままです。「この世にひとつだけの花」は、SMAPの「世界に一つだけの花」を少し変えただけです。

また、「蓼食う虫も好き好き」は、言い伝えられている諺そのままです。そして、「曲がったことは大嫌い」は、「一本気」の人の性格を表現する常套の言葉です。

創作でいちばん重要なことは独創性ですが、このように多くの人が知っている成句を使いますと作者の独自性が失われて、右のように同じような句になってしまいます。

【同想句になっている】

個性的ですと微妙な誉め言葉
個性的ですと苦しい誉め言葉
個性的ってほめ言葉ですよね
個性的誉め言葉だと聞いておく
個性派と言って上げよう変わり者

右それぞれ「個性的が苦しい誉め言葉」であるという内容を詠っています。他にも5句ほどありました。いずれも川柳的で捨て難いのですが、これだけ同じ想いの句（同想句）が並びますと、どれか一つを抜くことなどできません。

一句が閃いたとき「同じことを考えている人が多いのでは？」と冷静になって判断する余裕がほしいものです。

【具体性がない】

個性ある彼の仕草に魅了され
個性的過ぎて世間が狭くなり
個性だと思えばどこか許される

最初の句は、「どのような個性か？」が分からないので状況が見えません。後の2句は、「そのようなものだ」という一般論で力がありません。具体的な入選句と比べてください。

【否定形は力が弱い】

傘寿越え静かに生きる没個性
個性とはほど遠い日々葱を買う
個性などなく凡人にして肩に風

面白い個性がたくさん出てくる中で「個性がない」という内容の句を見るとガッカリします。否定形はダメではありませんが、訴える力が弱くて不利になってしまいます。

愛染帖

新家　完司　選

（投句271名）

玉音と読めない平成のメガネ
（評）玉音放送で有名なのは昭和天皇による終戦詔書の音読。平成生まれには遥かに遠い昔話。どう見ても「たまおと」だよな～。
佐賀県　真島久美子

究極の空間うんこミュージアム
（評）うんこをテーマにしたうんこ型ミュージアムが東京・広島・福岡などで大盛況とのこと。観たいような観たくないような…。
広島市　岸本　清

ノーブラとすごく似ているノーメイク
（評）男性には解らない感覚。ノーブラもノーメイクも解放された気分であろうが、人前に出るには無防備過ぎるということか？
三田市　上田ひとみ

ダイヤ婚いくつ亀裂を埋めたやら
（評）小さな亀裂から思い出すのも嫌な大きな亀裂まで。その度に何とか修復して60年。お互いの「成らぬ堪忍するが堪忍」の賜。
河内長野市　村上　直樹

どこまでが無茶か果敢かアスリート
（評）腕白を叱る常套語は「無茶するな！」だが、五輪に出るアスリート達は無茶とも思える練習で「強靭」や「俊敏」を鍛えたのだ。
豊中市　水野　黒兎

反対と言ってた人も観た五輪
（評）絶対反対というプラカードを掲げて行進した人たちもいたが、いざ始まってみると日本人選手の活躍が気になるのは当然。
松山市　郷田　みや

階段の踊り場ホッとやわらかい
（評）足腰のために階段を使っているのだが、だんだん踊り場で休むようになってきた。ベンチがあればもっと有り難いのだが…。
池田市　上山　堅坊

金勘定ばかりしていた日記帳
（評）何気なく開いた古い日記帳。パラパラ見ただけでもお金のことばかり書いてある。今も同じようなものだが…。何だかな～。
河内長野市　穂口　正子

人生の終わりに見たい竹の花
（評）百二十年に一度しか咲かないという神秘的な竹の花。凶兆とも言われているが、人生の終わりなら何が起ころうと平気だ。
熊本市　杉野　羅天

死にたくはない　誰だっていつだって
（評）動き回っている昼間は「死」など遠い世界だが、静かな夜にはフト考え込んでしまう。近づく適齢期とコロナ禍の所為だ。
大阪市　古今堂蕉子

お隣の換気扇からセレブ風　豊中市　池田　純子
形にはこだわりません幸せ度　明石市　糀谷　和郎
相槌がないのに終わらない話　黒石市　北山まみどり
骨のある男は九分九厘無口　弘前市　髙瀬　霜石
台湾産パインを食べる助け船　横浜市　加藤　佳子
ゴミ袋スイカの皮が重すぎる　安来市　原　徳利
露天風呂顔だけだして蚊に刺され　豊中市　きとうこみつ
半額になる時間です急ぎます　米子市　後藤　宏之
ブランドの服でいそいそデイケアー　大阪市　岡田　恵子
八十代メル友だって減るばかり　大阪市　樋口　眞
劇的な恋など知らず八十路坂　尾道市　村上　和子
80の8横にすりゃ∞　奈良県　中堀　優
まだ生きるつもりのご飯食べている　大洲市　花岡　順子

鳥取市　岸本　宏章
議事堂の椅子は揺りかごかもしれぬ

弘前市　小山内真由美
何ひとつ変わらないけど今日もマル

伊丹市　延寿庵野鬱
スリッパの裏も私の世界です

松山市　柳田かおる
ていねいに生きようあとはロスタイム

大阪市　大沢のり子
新聞を穴があくほど読み日暮れ

豊中市　松田蟻日路
ひまわりも頑張れ俺もまだやれる

奈良市　加藤江里子
睡蓮が咲くよ灼熱のこの世に

札幌市　三浦　強一
住宅地昼の三時は都市砂漠

岡山県　藤澤　照代
猛暑日は猫としっかり昼寝する

三原市　鴨田　昭紀
忖度菌霞が関に蔓延す

大阪市　阪井　恵子
主に似て無芸大食漢のポチ

橿原市　居谷真理子
三色で命を守る信号機

堺　市　内藤　憲彦
消防車定位置にいて恙無し

河内長野市　森田　旅人
古きよき時代地球は青かった

弘前市　稲見　則彦
ポジティブな令和とネガティブな昭和

豊中市　松尾美智代
女子会の終わりを告げる大あくび

貝塚市　吉道あかね
神様もたまには昼寝したかろう

美作市　岡本　余光
おととしの芋が出てくるお雑炊

松江市　石橋　芳山
アンパンもカレーも好きな人といる

桜井市　安土　理恵
うまいうまい言ってる割にしゃべり過ぎ

大阪市　小野　雅美
巻きあげた髪に女を匂わせる

大阪市　岩崎　公誠
暑さにはとことん弱い津軽衆

長岡京市　山田　葉子
孫の来る日は唐揚げ酢豚オムライス

大阪市　江島谷勝弘
二人の夕餉煮物焼物お味噌汁

松江市　栂瀬みちを
後が無い割には暇がありすぎる

羽曳野市　徳山みつこ
ほどほどにせよとバッカスが叱る

京都市　清水　英旺
便秘薬よりも良く効く発酵乳

貝塚市　石田ひろ子
年金の繋ぎ賄う貯金箱

高槻市　松岡　篤
七人で暮らした家は広過ぎる

笠面市　酒井　紀華
日中は妻に忖度図書館へ

奈良市　山本　昌代
老い三人つながり散歩する六時

岡山市　丹下　凱夫
ばあちゃんもコンビニで買うお惣菜

ワクチンの副反応か腹が減る

6Bで殴り書きするコロナ鬱

孤独でも気楽さがあり朝湯あり

結局はゴロリとテレビ見る日課

三食昼寝規則正しい余生です

悩んだらひとまず覗く冷蔵庫

全自動まかせてパンは黒焦げや

冷ややっこまたかいう顔されている

京都まで旨いドラ焼き買いに行く

半額の元の値段が分からない

嫁さんと組んで息子をやっつける

老友の元気なTELにご同慶

一人乗るエレベーターで深呼吸

ガードレールに「当ててみろ」と書いてある

臨月の娘ますますママの顔

香を焚き光源氏を待っている

宝塚市　丸山　孔一
オリパラが旗日勝手に振り廻し

神戸市　みぎわはな
五輪テレビ始まり歩数計50

西宮市　福島　弘子
五輪テレビ夢中耳鳴り苦にならぬ

岩国市　上村　夢香
躍動するコロナ禍超えて選手達

朝霞市　前田　洋子
アア五輪勿体ないな無観客

三田市　福田　好文
執着が過ぎると逃げる金メダル

河内長野市　山岡冨美子
能力の格差教えている五輪

河内長野市　木見谷孝代
オリンピック愛国心を目覚めさせ

大阪市　宇都満知子
新体操長い手足の羨ましし

寝屋川市　川本　信子
綻びの五輪救ったボランティア

堺　市　奥　時雄
お蔭様五輪は飽きるほど見たよ

箕面市　出口セツ子
感染が五輪と比例して増える

大阪市　磯島福貴子
何や彼や終わってみれば五輪ロス

東大阪市　北村　賢子
何はともあれ無事に成功した五輪

鳥取市　上山　一平
真夏日も五七五の蝉時雨

寝屋川市　廣田　和織
川柳を刻むと僕が浮き上がる

枚方市　山口弘委智
去年今年歩ける足と文字書く手

神戸市　敏森　廣光
炎天下汗かく球児見て昼寝

和歌山市　上田　紀子
水欲しいほしいと胡瓜ひん曲がる

神戸市　冨永　恭子
能書きを付けて五色のミニトマト

横浜市　菊地　政勝
夜中にも蝉が聞こえる老いの耳

三田市　大西　重男
亡き妻の藪入りを待つ盆の月

大阪市　島田　明美
リモート墓参BGMは蝉の声

名古屋市　山本三樹夫
夏の間は家族全員アロハシャツ

和歌山市　まつもともとこ
温暖化カラカラカラと雨が降る

岸和田市　雪本　珠子
雨の日はボブディラン聴き脳癒す

宮崎県　惠利　菊江
雨が呼ぶコインランドリー稼ぎ時

東大阪市　佐々木満作
風鈴が悲しく聞こえ夏が行く

大阪市　平井美智子
お祭りは自粛　カラスが鳴いている

堺　市　村上　玄也
短くなった余生自粛で浪費する

富田林市　山野　寿之
カタカナ語新語コロナの置き土産

青森県　月波　与生
マスクして素顔隠してもう二年

鳥取県　山下　節子
ハイカラなマスクでコロナ鬱はらす

池田市　奥園　敏昭
皆美人帽子マスクの炎天下

神戸市　奥澤洋次郎
駅までに四枚落ちていたマスク

宝塚市　岸田　万彩
ワクチンの予約に運をつかい切り

広島市　松尾　信彦
接種してきょうは私の誕生日

大阪市　田中　廣子
ワクチンが二度すみました逢いたいな

弘前市　福士　慕情
ワクチンは二回打ったが自粛する

八王子市　川名　洋子
神風が吹かないままに変異株

堺　市　澤井　敏治
オメガまで完走めざす変異株

三田市　多田　雅尚
アラートが出ても懲りないのがヒト科

石川県　堀本のりひろ
スマートフォンこなせる妻は同い年

福井市　伊藤　良一
妻の愚痴減らすスマホに感謝する

岡山市　永見　心咲
しゃぼん玉まだまだ大きく産める肺

神戸市　槇田　次郎
捨てられず自分サイズに伸びたシャツ

越谷市　久保田千代
見事だな傷を晒してこの樹齢

鳥取県　本庄　汪
仏壇に今は鎮座の父がいる

岡山市　大石　洋子
蚊のエサになりつつ庭に水をまく

枚方市　藤田　武人
ベッピンの影映るからチラ見する

尾道市　小川　道子
この地球どこに住むのが安泰か

奈良県　室田　行久
贅沢な各停で行く一人旅

米子市　妹能令位子
猫にだけ猫なで声は許される

今治市　永井　松柏
シャワートイレのあるコンビニで用を足す

大阪市　大川　桃花
去年より小さくなって裾上げる

豊中市　上出　修
ドラッグで痩せる薬と菓子を買う

奈良県　渡辺　富子
ピーポーと熱の夫と闇を駆け

三田市　北野　哲男
三猿の真似もせぬまま卒寿越す

三田市　野口真桜子
あと十歳若返るため行くエステ

府中市　岸田　武
理髪師は剃りを離してから笑う

寝屋川市　長尾　千賀
才媛の嫁と向き合う肩の凝り

神戸市　城戸　誓子
捕虫網トンボも我も宙を舞う

三原市　笹重　耕三
口答え妻にはしない平和主義

鳥取市　前田　楓花
何のせい食べ物ポロポロとこぼす

三田市　堀　正和
ほとんどが病院前で降りるバス

西宮市　髙橋千賀子
愛媛まで五色素麺たべに行く

枚方市　栃尾　奏子
夫がいる喜び感謝ゴキ退治

大阪市　髙杉　千歩
好きな色刻々変わるのも若さ

西予市　黒田　茂代
家族葬ばかり新聞訃報欄

鳥取市　倉益　一瑤
死んでからかかる費用をふと思う

唐津市　坂本　蜂朗
コロナ禍を機に独酌の味を知る

羽曳野市　吉村久仁雄
一万歩のノルマ果たして飲むビール

箕面市　広島　巴子
猛暑日の水分補給泡が立つ

鳥取市　田賀八千代
面倒な話は後でまずビール

神戸市　上田　和宏
百薬の長と言うから飲んでいる

宇部市　平田　実男
梯子酒足も財布もくたびれる

江南市　脇田　雅美
飲みすぎて自転車乗らず杖代わり

藤井寺市　鈴木いさお
アル中じゃないアルコール依存症

尼崎市　永田　紀恵
難聴も飲むお誘いはよく聞こえ

大阪市　岩崎　玲子
ほろ酔いで好きな曲聴き溶けてゆく

大阪市　森　廣子
仲間と飲んだあの地下街のビヤホール

交野市　山野　双葉
泣き上戸あの日のままに一人酒

和歌山市　北原　昭枝
缶ビール一本飲んで眠る癖

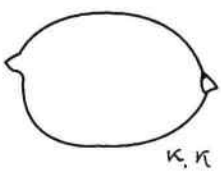
豊橋市　八甲田さゆり
飲食店時短にホッとしてる下戸

共選欄

檸檬抄

（薫風書、カットとも）

（投句３４２名）



「音」　楽原道夫選

聴診器心の音も拾てんか　池田市　倉本　一弥
扇風機で揺れる風鈴ぬるい音　羽曳野市　宇都宮ちづる
二人きり小さくなった朝の音　大阪府　米澤　俶子
水の音火の音させて独り住む　羽曳野市　徳山みつこ
音のする方は孫達いる所　鳥取県　橋谷　静江
スニーカーキュッキュと鳴って若返る　松江市　藤井　寿代
押さないで嗚咽が漏れてしまうから　大阪市　小野　雅美
桶の音響くコロナの温泉場　高砂市　松尾柳右子
果てのない自粛お膳も音を上げる　高槻市　初代　正彦
田舎には田舎　街には街の音　西予市　黒田　茂代
午前二時ちゃんと伝える古時計　伊丹市　岡村　風琴
イントロで分かる昭和の歌謡曲　犬山市　関本かつ子
鼻歌を歌うと猫が欠伸する　伊丹市　延寿庵野鶴
ボサノバを聴きつつお茶漬け食べてる　大阪市　原田すみ子

「音」　久保田千代選

写楽の絵ニューっと音が顔を出す　松江市　石橋　芳山
折れやすい人はポキンと音がする　弘前市　髙瀬　霜石
まろやかに本音引き出すナポレオン　三田市　村田　博
ビール栓昭和の音でポンと抜く　大阪市　高杉　力
茶釜の湯滾る音きく至福の日　大阪市　榎本　舞夢
プチプチプチ音から味へ名杜氏　奈良県　長谷川崇明
海鳴りに私の殻を脱ぎ捨てる　吹田市　太田　昭
レコードの溝はずむたんびに昭和の音　男鹿市　伊藤のぶよし
心まで浄化をしてくれる音叉　笠岡市　藤井　智史
オルゴール追慕の涙過去にする　和歌山市　松原　寿子
人生の怒濤を潜る津軽三味　生駒市　飛永ふりこ
駅ピアノのリズム平和の音で鳴る　神戸市　山崎　武彦
シューベルトこころを癒す駅ピアノ　伊丹市　延寿庵野鶴
オカリナの音色は旧き良き景色　神戸市　冨永　恭子

もう一度ちあきなおみと歌いたい　堺市　内藤　憲彦
落ちこめば植木等の歌を聴く　岩国市　上村　夢香
いつまでも宮城道雄の春の海　大阪市　笠嶋　恵美
ネギ刻む音は許すの合図だな　大阪市　川端　一歩
正直に生きていい音たてます　大阪市　柴本ばっは
音だけは出る初心者のバイオリン　奈良市　大久保眞澄
安らかなステイホームで聴く音色　豊中市　藤井　則彦
カラオケと不協和音が生じてる　富士見市　中島　通則
建前が本音の前でする欠伸　神戸市　槇田　次郎
言い訳に本音ポロリとこぼれ落ち　鳥取市　岸本　孝子
音立てずパパはごきげん斜めです　寝屋川市　平松かすみ
雨音が気まずい時を和ませる　奈良市　加藤江里子
妻の声半音上がる子の帰省　富田林市　山野　寿之
音痴だが孫は静かに寝てくれる　鳥取市　中村　金祥
故郷の川面を揺らす蝉しぐれ　大阪府　大浦　福子
せせらぎに寝てせせらぎで起きる宿　羽曳野市　吉村久仁雄
音もなく飛行機雲は空高く　雲南市　永見　安子
シュワーッとそんな始まり夏の恋　三田市　上田ひとみ
髪染めて幻想曲のなかにいる　富田林市　片岡智恵子
音の無い世界の音は澄んでいる　尾道市　小川　道子
無音の中で魂を休ませる　和歌山市　柏原　夕胡
足音が不愉快ですと言うている　藤井寺市　太田扶美代

わたくしを酔わせるフルートの音色　西宮市　髙橋千賀子
音だけは出る初心者のバイオリン　奈良市　大久保眞澄
バチ持てば大音量になる太鼓　大洲市　花岡　順子
ボンゴ打つその掌にある矜持　熊本市　杉野　羅天
口に緘押して交響曲響く　鳥取県　斉尾くにこ
海の砂持って帰れば波の音　土佐清水市　辻内　次根
幸せの音4Bを削る音　大阪市　田中ゆみ子
幸せの音だ　あなたの声がする　松江市　相見　柳歩
良心が試されている銭の音　堺市　柿花　和夫
「ことり」と音グラスの氷丸くなり　豊中市　貝塚　正子
足音が不愉快ですと言うている　藤井寺市　太田扶美代
砂場には子の足音が残ってる　長岡京市　山田　葉子
ドアを閉める音にいい事なんかない　大阪市　立蔵　信子
ハイヒールの音が女権を主張する　京都市　清水　英旺
三代の和音が楽し夕御飯　大阪府　米澤　俶子
ネギ刻む音は許すの合図だな　大阪市　川端　一歩
幸せの音だジュウジュウ肉が焼け　神戸市　山口　光久
スニーカーキュッキュと鳴って若返る　松江市　藤井　寿代
足音が迫り決断急かされる　大阪市　小野　雅美
ゴクゴクとビールが夏を通る音　弘前市　福士　慕情
恋をしたせいか半音高くなる　倉吉市　牧野　芳光
シュワーッとそんな始まり夏の恋　三田市　上田ひとみ

補聴器が聴かせてくれる歌謡曲　名古屋市　山本三樹夫
モスキート音で私を口説けない　和歌山市　まつもともとこ
棒読みの政治答弁ただの音　豊中市　水野　黒兎
カギの音ジャラジャラ街は淋しいよ　貝塚市　吉道あかね
半音が違ったままの老いふたり　横浜市　菊地　政勝
体温計の音はまだまだ聞えます　大阪市　大川　桃花
隣家から暫く聞かぬ派手な音　奈良市　宇賀　史郎
ありったけの音で子供ら夏休み　和歌山市　古久保和子
リモートの部屋へ神経質な音　犬山市　金子美千代
まろやかなゴム風船の破裂音　岐阜県　喜多村正儀
鉛筆をトントンこのへんにしとこ　大阪市　立蔵　信子
遠雷にうつらうつらを叱られる　大阪市　島田　明美
わが背骨和音の水が流れてる　池田市　上山　堅坊
反対と言いたい椅子がギーと鳴る　松山市　大内せつ子
割箸の音で男がする覚悟　寝屋川市　伊達　郁夫
雨音は百態こころ吐くように　岡山市　永見　心咲
惨敗に鼓舞する激しい雨の音　枚方市　藤村　亜成
ボンゴ打つその掌にある矜持　熊本市　杉野　羅天
冬の竹叩けば冬が弼する　松山市　栗田　忠士
天井ミシリ星の王子が来たのかな　神戸市　みぎわはな
難聴になってまわりがよく見える　広島市　有田　澄子
雑音が心地よいとは危ないぞ　黒石市　北山まみどり

良心の崩れる音を聴くニュース　和歌山市　上田　紀子
あちこちで地球の歪む音がする　八王子市　川名　洋子
音立てて築いた幸が崩れ落ち　鳥取市　山下　凱柳
涼を呼ぶ瀑布のしぶき頬濡らす　鳥取市　谷口回春子
水琴窟の音色 地球の息遣い　鳥取市　加藤　茶人
私はわたし雑音は受け流す　犬山市　金子美千代
雑音に耳を貸さないマイウェイ　堺　市　村上　玄也
雑音がないと不気味な大都会　奈良市　東　定生
補聴器が選る雑音の真と贋　富田林市　山野　寿之
海からの着信音を変えてみる　青森県　月波　与生
静寂に飽いて騒音聞きに出る　寝屋川市　伊達　郁夫
球音が冴えて虚しい無観客　米子市　竹村紀の治
無観客聞こえぬ音を拾い出す　神戸市　松倉　正美
ボランティア汗の滴る音がする　尼崎市　藤井　宏造
ざわざわと人波 掟破る音　桜井市　安土　理恵
終電車まぶた塞がる音がする　河内長野市　藤塚　克三
無になって音も消えゆく座禅組む　箕面市　出口セツ子
忍び音が柱の陰で洩れる通夜　豊中市　藤井　則彦
点滴を見つめた音のない時間　貝塚市　吉道あかね
棒読みの政治答弁ただの音　豊中市　水野　黒兎
正直に生きていい音たててます　大阪市　柴本ばっは
無音の中で魂を休ませる　和歌山市　柏原　夕胡

五感でねドーンと花火開きたいよ　大阪市　岩崎　玲子
風ことり晩夏の音を置いてゆく　山口市　中前　幸子
ファイティングポーズで風の音を聴く　大阪市　高杉　力
老いてなお不意に飛び出す鼻濁音　塩竈市　木田比呂朗
海からの着信音を変えてみる　青森県　月波　与生
海鳴りに私の殻を脱ぎ捨てる　吹田市　太田　昭
出来る子の鉛筆だけが走る音　三田市　福田　好文
音も無く私の影が付いて来る　宮崎県　黒木　栄子
雑音を雑音として聞いている　松山市　柳田かおる
幸せの音4Bを削る音　大阪市　田中ゆみ子
旧友と音階を越え再会す　札幌市　小沢　淳
草原に光の粒の跳ねる音　神戸市　村松　久江
音もなく風が流れる遊歩道　岸和田市　雪本　珠子
寂しいと友達になる音符たち　名古屋市　冨田　末男
シャボン玉ふわり音符になってゆく　鳥取市　倉益　一瑤
雨垂れと刻むキャベツはちょい太め　神戸市　城戸　誓子
五線紙を跳びはねている雨の音　奈良県　中原比呂志
心まで浄化をしてくれる音叉　笠岡市　藤井　智史
息止めて水琴窟の返事待つ　宝塚市　岸田　万彩

秀　句

写楽の絵ニューッと音が顔を出す　松江市　石橋　芳山
折れやすい人はポキンと音がする　弘前市　髙瀬　霜石
スッコーンと音なき音をたてる空　橿原市　居谷真理子

老いてなお不意に飛び出す鼻濁音　塩竈市　木田比呂朗
老いの家事指示してくれる電子音　三田市　堀　正和
ボリューム上げる夫と別に見るテレビ　東大阪市　北村　賢子
関節の音をきしませストレッチ　橋本市　石田　隆彦
カクンコクン関節の音聞く余生　香芝市　大内　朝子
破調でも自分の音を響かせる　三田市　北野　哲男
雨音が恐怖に変わる土石流　大阪市　近藤　正
五線紙を跳びはねている雨の音　奈良県　中原比呂志
雨音は百態こころ吐くように　岡山市　永見　心咲
ちりちりと夏の炎天地の乾き　三田市　尾崎　一子
夕風の瀬音に過ぎた夏の日日　神戸市　奥澤洋次郎
音立てて氷河崩れる地球の呻き　羽曳野市　徳山みつこ
長崎の鐘の音響け世界中　鳥取県　竹信　照彦
洗濯機忙しそうに夏洗う　豊中市　池田　純子
ぼやきつつ父の新聞めくる音　芦屋市　上野多恵子
回生の微かな音を逃さない　枚方市　藤村　亜成
リセットをしてわたくしに戻る音　大阪市　平井美智子
耳を当て生命の音を聴く大樹　河内長野市　中島　一彌
もう一度私の蓋を開ける音　富田林市　中村　恵

秀　句

パンパンと叩いてシーツ青い空　鳥取市　山野すみれ
スッコーンと音なき音をたてる空　橿原市　居谷真理子
限界を越えた我慢の破裂音　奈良県　渡辺　冨子

「米」

（投句　230名）

笹重耕三選

草刈りも心地よい汗田を守る　岩国市　上村　夢香
おにぎりを頬ばる青空の下で　東大阪市　佐々木満作
被災地に一息入れた塩むすび　羽曳野市　宇都宮ちづる
帰れないふるさと思い米を研ぐ　大阪市　高杉　力
新米のおこげ食べたくなりました　大阪市　柴本ばっは
真夜中のお米研いでる長い爪　大阪市　今村　和男
にぎりめしお好み焼きと仲が良い　西宮市　高瀬　照枝
米汁は四十五度が丁度良い　大阪市　江島谷勝弘
焼肉の隙間に入れる白ご飯　鳥取市　奥田　由美
米どころやっぱり旨い酒がある　鳥取市　岸本　宏章
このたびは世話になったと米が来る　岐阜県　喜多村正儀
母さんのエールもらった塩むすび　大阪府　大浦　福子
育て上げコマチを嫁に出す田んぼ　笠岡市　藤井　智史
黄金になる日夢見ている青田　橿原市　居谷真理子
炊立ての米の美味さがヤバイです　横浜市　加藤　佳子
うまい米作りたいから手をかける　米子市　伊塚美枝子
ニュールック纏う案山子が立つ田んぼ　八王子市　川名　洋子
平凡な暮らし二合の米を研ぐ　大阪市　平井美智子
米量る片手で足りる老いの膳　岡山市　永見　心咲
米櫃に苦労話は欠かせない　弘前市　高瀬　霜石

おいしいとも言わず新米3杯目　堺市　内藤　憲彦
ふる里の米が届くと手を合わす　河内長野市　辻村　ヒロ
今日の鬱きょうで収めて米を研ぐ　黒石市　北山まみどり
米作に欠かせぬ水が暴れ出す　三田市　多田　雅尚
一粒の米がいのちと説いた母　宮崎県　惠利　菊江
年金日先ずコシヒカリ五キロ買う　神戸市　能勢　利子
塩むすび食べて卓球美誠パンチ　大阪市　古今堂蕉子
背中にはもう新米の息づかい　大洲市　花岡　順子
母さんはまだ泣いている御仏飯　佐賀県　真島久美子
明日からの戦に備え米を研ぐ　弘前市　福士　慕情
若者のヤバイヤバイを問う米寿　津山市　高橋由紀女
米糠がみんな美人にしてくれる　海南市　小谷　小雪

佳　句

米国を征服したか翔タイム　宝塚市　岸田　万彩
米で育って最後もやはり白い飯　東大阪市　北村　賢子
次の世も女でいたい米を研ぐ　越谷市　久保田千代
ごはん大好き私に向かぬダイエット　貝塚市　吉道あかね
何よりも米の誘惑には勝てぬ　神戸市　冨永　恭子

人

焼飯ピラフたき込みご飯　米が好き　香芝市　山下　純子

地

日本語がうまくなるよう飯を食う　倉吉市　牧野　芳光

天

僕の芯を作ってくれたのはお米　松山市　栗田　忠士

軸

稲架干しを譲らぬ父の米俵

「へらへら」

（投句　230名）

上村夢香選

日本をジャパンと書いてチャラくなる　土佐清水市　辻内　次根
へらへらと膝も笑っている競歩　横浜市　加藤　佳子
へらへらの答えで逃げる時の人　三木市　山口ヨシエ
風見鶏西に東によく変わる　岡山市　丹下　凱夫
笑えないコロナを笑い叱られる　鳥取県　竹信　照彦
へらへらと擦り寄ってくる新コロナ　豊中市　藤井　則彦
へらへらと変異株まで御見通し　河内長野市　藤塚　克三
いざとなりゃノーコメントと薄笑い　三田市　堀　正和
へらへらと笑って芯のないコピー　大阪市　平井美智子
忖度と追従も要る宮仕え　三田市　北野　哲男
味方にも敵にも尻尾振っている　高槻市　原　洋志
ヘラヘラでカムフラージュをする本音　河内長野市　木見谷孝代
へらへらと見せて鋭い受け答え　和歌山県　三枝眞智子
へらへらで切り抜けた日の湯が滲みる　橿原市　居谷真理子
へらへらの仮面外して仕舞風呂　貝塚市　石田ひろ子
へらへらと笑い飛ばしてあの世まで　黒石市　石澤はる子
へらへらとしてもしっかりした気骨　池田市　上山　堅坊
へらへらの態度の裏にある愚直　東大阪市　佐々木満作
へらへらになっても守る意地がある　和歌山市　上田　紀子
異端児と呼ばれへらへら笑えない　熊本市　杉野　羅天
虚を衝かれへらへら呆ける年の功　西宮市　福島　弘子
へらへらと自嘲の笑い物忘れ　豊中市　水野　黒兎
為す術がなくてへらへら笑う脳　神戸市　冨永　恭子
へらへらの太鼓持ちにもある誇り　河内長野市　森田　旅人
有料でへらへらしないレジ袋　青森県　月波　与生
大胆にエヘラエヘラと被告席　唐津市　山口　高明
母さんがへらへら笑う皆笑う　名古屋市　冨田　末男
路地裏で集うへらへらした案山子　三原市　笹重　耕三
あいまいに笑うあなたに影がない　岐阜県　喜多村正儀
紙のごとく薄い安心安全　八王子市　川名　洋子
勝手なもんだなあ神さまってさあ　弘前市　髙瀬　霜石
へらへらは仮面強か団子虫　大阪市　石田　孝純

佳句

酔うたびに嫌い嫌いと言っている　大阪市　小野　雅美
へらへらな紙幅が持っている矜持　富山県　伴　よしお
軽薄に見せて何時かは下剋上　男鹿市　伊藤のぶよし
仮面だと気付かず寄ってくる仮面　佐賀県　真島久美子
軽薄な人間溢れ病む地球　奈良県　渡辺　富子

人

原発ノーへらへらなどはしておれぬ　堺　市　澤井　敏治

地

危機感も安定感もないのれん　黒石市　北山まみどり

天

AIにご機嫌取りは通じない　池田市　太田　省三

軸

風任せ植木等に学ぶ今

初心者教室

題 ― 匂う

居谷 真理子

今回もご投句をありがとうございます。大きな欠点を持つ句は見当たりませんでした。あとは視点をずらしたり言葉の選び方をみがいて、作者の個性を発揮したいですね。難しいですが楽しいことです。お互いに励みましょう。

（原は原句　参は参考句）

助詞はとても大事です。一字変えると句の雰囲気が変わります。まずは二句

原 懐メロで昭和の匂い嗅いでいる　(樫)良　子
参 懐メロに昭和の匂い嗅いでいる

原 縁側の西瓜の匂い遠い夏　双　葉
参 縁側と西瓜の匂い遠い夏

次の三句は少し言葉を変えてみました

原 手も口もお清めしてるアルコール　えい子
参 手も口もお清めしますアルコール

原 この匂い亡き母かしら妻かしら　のりひろ
参 ふと匂い亡き母かしら妻かしら

原 古里の匂い嗅ぎたく瀬戸渡る　勝　正
参 古里の匂い恋しく瀬戸渡る

原 悪だくみ秘密が匂う赤ワイン　次　郎
少々くどくなりました
参 乾杯の秘密が匂う赤ワイン

参 たくらみとともに飲み干す赤ワイン

原 化学品匂うイメージ大都会　蟻日路
この感じ、とてもよく分かります。断定して強い句に
参 合成の匂いばかりの大都会

原 かあさんの匂う扇子の萩桔梗　閑
参 萩桔梗母の匂いのする扇子

参 かあさんが匂う古びた扇子から

原 老臭を匂い袋でカバーする　風　露
匂い袋とは風雅、それに合わせて
参 老臭に匂い袋をしのばせる

原 パーマ液見た目を変えて照れくさい　照　枝
参 パーマ液見た目を変える照れくささ

原 内緒だと聞いて話が香りだす　(有)澄　子
「香り」ですから良い話なんでしょうね
参 内緒だと聞いた話の残り香よ

原 蓮開花先祖の匂ひ佛前に　ミヨノ
参 ご先祖に匂い届けよ蓮の花

原 この話なにか怪しいニオイする　崇　史
参 聞きながら何か怪しいニオイ嗅ぐ

原 耕やして汗の匂いで育つ娘ら　房　子
ごめんなさい、よくわかりません
参 耕して汗の匂いで育つ茄子

参 健康な汗の匂いで育つ娘ら

原 背伸びして胡散臭さが定着し　秀　爺
何か時事的なことを詠まれたのでしょうか。読み取れません、すみません
参 背伸びした胡散臭さが性となる

原 忘れ得ぬ一つや二つ火の匂い　(森)廣　子
「忘れ得ぬ」にポイントを置くと
参 忘れ得ぬ胸をこがした火の匂い
「一つや二つ」にポイントを置くと
参 みぞおちに一つや二つ火の匂い

原 まちなかで感じる格差匂いにも　江
参 まちなかで匂うものにも貧と富と

原 生きている地球の匂い草いきれ　(村)和　子
草いきれの句は他にもありましたが、面白いとらえ方をなさいましたね。「匂い」はなくても大丈夫です。

参 草いきれ地球確かに生きている
原 黒にんにく匂わないよとおすそ分け　(澤)良　子
うーん、もうひとひねり
参 黒にんにく匂わないよと貰ったが
原 隠し事下手にされても感じられ　ゆ　き
参 ぷんぷんと匂って下手な隠し事
原 無味無臭存在感のない男　行　久
参 無味無臭無害で影の薄い人
参 無味無臭そこにおったんかい君は
原 通勤車強い香水させる下車　開　子
参 通勤車強い香水降りました
原 擦れ違う知らぬ人の香シャネルココ　厚　子
デザイナーの名前はココ・シャネル。香水はシャネルココ、なんですね。
参 擦れ違う人がふりまくシャネルココ
原 星空の匂ひ感じるキャンプ場　(宗)和　夫
いいですねぇ、この感性
参 キャンプ場星の匂いが降ってくる
原 指先にトマトの匂いわき芽取り　紀美代
参 わき芽取りトマトの匂い指に染み
原 ジャスミンも溜め息を吐く夜明け前　誓　子
おしゃれな句。このままでもいいですが、比べてみて下さい
参 ジャスミンの溜め息を聞く夜明け前
原 その家にはその家の匂い立て籠る　道　子
参 それぞれの家に籠っている匂い
原 嗅覚は警察犬の妻の鼻　通　則
とうてい敵いませんね
参 嗅覚は警察犬に勝る妻
原 おでんの香赤ちょうちんが呼んでいる　風　鈴
参 おでん匂わせ赤ちょうちんが呼んでいる
原 年重ね男の匂いうすらいで　ひでお
参 年重ね男くささも薄くなる
参 もう僕は男の匂いしませんか
原 喪服着た妻にただよう清楚感　一　弥
参 喪服着た妻は清楚に匂い立つ
原 真白な気持ちで握る新車乗る　智惠子
参 真っ白な気持ち新車の匂い吸う
原 デパ地下の匂いに僕も引き込まれ　不二夫
参 デパ地下の匂いに僕もウキウキと
原 鮒寿司の匂い真逆の味を秘め　義　明
鮒寿司―食べたことありませんが、相当な匂いだとか
参 鮒寿司の匂いに負けぬ味を秘め
原 ドーナツの匂うパン屋は作り立て　菊　江
参 ドーナツの揚げたて並ぶパン屋さん
原 包まれたほんのり汗に湿布薬　弘
分かりにくいです。句意が変わるかもしれませんが
参 汗かいた仕事の後の湿布薬
原 花終り梅の実甘く匂い立つ　ひとみ
花も実もよい匂いです
参 花散ってやがて梅の実匂いだす
原 晩秋に冬の匂いが訪れる　弥　生
この句が発表されるのは10月号。川柳にもやはり季節感は必要です。
参 ふと秋の匂い感じる空の色
参 朝晩に秋の匂いが訪れる

[佳　句]

太陽の匂いまとって猫帰宅　令位子
風向きが雨の匂いを連れてくる　民　子
鰻屋の匂い振り切り立ち飲み屋　のぞみ
華やかなユリの香にある好き嫌い　くみ子

[今月の推せん句]

甘い匂いしそうイチゴのアップリケ　羽城　裕子
石鹸が微かに匂う人目指す　太田　睦子
ドローンが撒く農薬匂う夕涼み　上山　一平

川柳塔鑑賞

同人吟　藤井　智史

―9月号から

ゲーム機に別れた人の名が残る

髙杉　力

セーブ（保存）機能が付いたゲーム機か。恋人と自宅でゲームをする際、恋人は自分の名前をゲーム機に保存して、数日後、別れてしまった。失恋を忘れる為には、名前を消した方が良いかもしれない。

マトリョーシカのように空箱片付ける

片山　かずお

空箱は場所を取る。一番大きい箱を準備して、次に大きい箱を一番大きい箱の中に入れていくと、後は順々に少しずつ小さい箱を入れていくと、マトリョーシカではなかろうか。良い収納方法を教えて頂いた。

身に合うたハードル越えてきた自信

石田　ひろ子

自分に合った高さの目標を決定する。どんなに小さくても目標を叶えた達成感は自信に繋がる。次は、もっと頑張ろうと思う。上昇志向が見られる。

パソコンと本とテレビに眼の謀反

山岡　冨美子

目が疲れてきたなあ。今度は、音楽を聴いて耳を味方につけよう。

ストレスがないと浮かばぬ僕の詩

丹下　凱夫

平穏すぎると逆に詩が浮かばない。かといって、ストレスはしんどいが…。

押入の救急箱の半開き

桒原　道夫

あれも必要、これも必要と常備薬として買ったつもりが使わずに押入に仕舞い込まれ、忘れ去られてしまう。更に、半開きなので閉まらないくらい買ったのだろう。作者の後悔が滲み出た句である。

向日葵も休暇願いを出す猛暑

石田　孝純

向日葵の笑顔もあまりにも暑すぎて、顔がひきつってしまい、「今日は、笑えません」と言っているように見える。

断捨離をもったいないが邪魔をする

坂本　加代

結局、どんどん物が増えてきている。

念を押さないで君を忘れてあげるから

小野　雅美

失恋の句だろうか。お互いが忘れようとしているのだが、上八が逆に忘れられない作用をしているように思う。

カニ缶を開けて独りの誕生日

平井　美智子

誕生日だから、普段より贅沢にカニ缶を開けて、ビールを飲もうか。孤独感を物凄く感じる。

有名なブランド品が安過ぎる

富田　保子

安いことは有難いが、あまりにも安すぎると逆に疑いたくなる。バッタもんじゃないかと。

ダイエット刑務所行けば出来るかも

西村　哲夫

非常に精神的不健康なダイエット。行きたくありません。

お試しは無料それからぼったくり

山野　寿之

「今ならお試し無料」その後小さく、「○か月後から月額○万円」と書いている。怖くて試せない。

ゆったりとした自粛にもある焦り

澤井敏治

自粛で外に出られず余裕があるはずなのに、なんだか落ち着かない。何故だ。

ウィキペディア愛に定義はありますか

栃尾奏子

思わずインターネットで確認してしまった。

おいしいとは言ってもまずいとは言わぬ

岸本孝子

「まずい」と笑顔で言えるのは、キューサイの青汁。

買った苗にも当り外れがあった

牧野芳光

買って育ててみないとわからないこともある。

知らなくていいことはそのままにして

斉尾くにこ

知る必要がないことは聞かないことがお互いに幸せかも。

上位句を繰り返し読む掲載誌

副井ゆたか

素晴らしいと思ったり、逆に、なんでやねんと思ったり。ただ、他の人の句を読むことは勉強になる。

没句にも言いたい事がたんとある

池田美穂

天の句よりも素晴らしい没句はあるはずだ。

西日照る海へとフェイドアウトする

石橋芳山

今日あった仕事のことを忘れて、のんびり過ごしたい。

日常を押しつけられているLINE

工藤千代子

LINEに縛られて、日常に引き戻されている感じがする。

路線図をはみ出す少年の翼

鴨田昭紀

枠にはまらず、色々なことに挑戦してほしい。

朝カレー昼カレーパン夜キーマ

磯本洋一

カレー好きなら大丈夫。

生きてゆく赤青黄を見極める

島ひかる

今日は攻める日、明日は守りに徹すると考えながら生きることを信号機の色で表現されている。

片思いふたつ並んで愛になる

藤田武人

お互いが愛の復活戦の勝者。

忘れないように名前で妻を呼ぶ

成田雨奇

私の家も名前で呼んでいる。

クリエイティブな仕事をすると孫五歳

山田厚江

川柳もクリエイティブかもしれない。

役どころちょうどパセリの位置かしら

柳田かおる

脇役ではなく、名脇役だと思う。憧れるなあ。

トイレで長考あの彫刻に似る

木田比呂朗

時々、トイレで句が浮かぶが、ロダンの考える人になられているのか。

自粛してまだ埋まらない朱印帳

萩原狸月

神社や寺に行きたいのだが、緊急事態宣言などで行くことができない。早くコロナが終息してほしい。

水煙抄鑑賞

—9月号から

紫　しめの

ひからびた夢がゴロンと冷蔵庫

岡田　恵子

次の休みに新しい料理を作ろうと買っておいた真っ赤なパプリカが、気付けば萎びて冷蔵庫の奥にゴロンと転がっている。書棚にもクローゼットにも同じような夢の欠片が沢山眠ってる。

入れ替り財布で密になる諭吉

西沢　司郎

入れ替わり立ち代わり、常に密になっていて欲しいものです。渋沢さんになったとしても。

入籍を済ませば女強くなる

大浦　福子

「何もしなくてもいいから」と妻の故郷へ移住した三男坊の夫。「何もしないのはヒモと同じ」と義母に言われて妻の陰謀に気付く。

性善説幾度乗ったか尻拭い

瀬島　流れ星

果たして善人ばかりの世界に開発や発展があっただろうか。今世の人類は尻拭いや詐欺に遭わないために、常に疑心暗鬼で生きる術を身に付けた。

生ゴミで家の格付けするカラス

東　定生

わたしはご近所の庭先にとめられた車を見て、格付けをしている。

コロナ禍に眉だけ書いてあとマスク

若松　由紀子

コロナに右往左往させられるのは御免だが、良いこともある。化粧はテキトーで済むし、気の進まない人との付き合いもサラリと断れる。

紙粘土むぎゅっと夏は変形す

真島　久美子

「むぎゅっと」で粘土が柔らかくなるほどの暑さが伝わる。子どもの頃は手が汚れることなど気にせずに遊べたはずだが、汚れることが面倒になって長い時間が経ってしまったなぁ。

自販機でガソリンよりも高い水

岡本　余光

確かに！（笑）蛇口を捻れば安全で美味しい水が飲める田舎では、同じ値段なら色の付いた飲料、味の付いた飲料を買うはずだと思うのはわたしだけか？

テレビだけ話続ける台所

恵利　菊江

相槌を打つでもなく、それを期待されるでもなく流れ続けるテレビの声。時計代わりでもあり、子守歌でもある。それが日常。

黄信号都会の犬は渡り切る

東　敏郎

さもありなん。都会に住む人は都会の時計で、田舎に住む人は田舎の時計で生きている。都会の犬が信号の歩行者用ボタンを押す頃、田舎の猫は雀狩りに興じている。

嫁の骨抱いてやってと墓に入れ

村中　悦男

親より先に逝った息子の墓に、またしても先に逝ってしまった嫁の骨を入れてやる。「抱いてやって」が悲しい。

第35回 国民文化祭・みやざき2020（7月11日）

本年度国民文化祭は宮崎県「宮崎市民プラザ オルブライトホール」で開催された。事前投句 A 1,468名、事前投句 B 1,229名（当日投句は、新型コロナ感染拡大等諸事情により事前 投句方式に変更）。大会各賞は下記のとおり。

文部科学大臣賞

少しずつ忘れて朝食がうまい　宮崎　中武　弓

国民文化祭実行委員会会長賞

もう誰も憶えていない花吹雪　大阪　赤松ますみ

宮崎県知事賞

お砂場に太陽がある森がある　栃木　荻原　鹿声

第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞

趣味の掌にいのちの欠片遊ばせる　岩手　小田　治朗

宮崎県教育委員会教育長賞

還暦の少年が飼うカブトムシ　岐阜　喜多村正儀

宮崎市長賞

高千穂の霊気がくれた立ち直り　宮崎　藤井　英坊

第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術文化祭宮崎市実行委員会賞

人間の煮凝りでした神でした　青森　岩崎　雪洲

宮崎市教育委員会教育長賞

牛舎からぴかぴか光るイヤリング　鳥取　川上　澄子

一般社団法人　全日本川柳協会理事長賞

伝説を裏返したら愛がある　愛知　佐藤　陶猿

宮崎県現代川柳協会会長賞

伝統の神楽を親子継いで舞う　大分　佐々木憲道

第70回　東北川柳大会（誌上大会）

令和3年9月26日（日）に東京エレクトロンホール宮城で開催予定の大会は、新型コロナウイルス感染症が未だ収束に至っておりません。皆様の健康を配慮致しまして昨年に続き、誌上大会に変更致します。宿題・選者に変更はありません。投句済みの方はそのまま受け付けます。

宿　題（各題2句・自由吟は両選者に各2句、同一句は禁）

「間　隔」　三浦蒼鬼　選
「すっきり」　大石一粋　選
「ポイント」　熊谷岳朗　選
「助ける」　山口まもる　選
「　宴　」　小林左登流　選
「自由吟」　木本朱夏　選
「自由吟」　雫石隆子　選

用　紙　投句用紙自由（ただし投句用紙有ります）

投句料　1000円（現金・小為替）

投句締切　10月29日（金）消印有効

送り先　〒981－8007
仙台市泉区虹の丘1－6－3　田村　富夫宛
大会事務局　川柳宮城野社
電話・FAX　022－227－0575

主　催　河北新報社・川柳宮城野社

『麻生路郎読本』余滴 (66)

「商業之大日本」の頃 ②

桒原道夫

「商業之大日本」大正8年7月号(創刊号)から見ていく。

大きさは菊二倍判。横22㎝×縦30㎝。本文の頁数は100頁だが、その他広告が約50頁。

トップ記事は、高橋是清の「事業家の組織的結合を促す」。高橋是清は、大正10年から11年まで総理大臣。大正8年当時は大蔵大臣。

また、「廣告の批評眼と作製眼」と題して桃谷順天館広告部長の長野晴浜が執筆している。大正11年4月以降、路郎は長野晴浜の紹介で桃谷順天館広告部に就職した。「商業之大日本」が縁で交際するようになったのだろう。「川柳雑誌」を創刊した大正13年以後も交際が続き、晴浜は「川柳雑誌」に何度も原稿を寄せ、昭和3年1月、路郎の長男・ロンドンが亡くなった時には葬儀委員長を務めた。なお、『麻生路郎読本』の年譜の大正7年の項に、〈(株式会社桃谷順天館創業百年記念史』(昭和60年6月・桃谷順天館)の「百年史年表」によると、この年に「川柳の岸本水府、麻生路郎、広告部に文案家として入社」とある。月給二百円。「麻生路郎物語(11)」の「葭乃書簡」に、「路郎が桃谷へ入社したのは夕凪橋へ移転してからのことです」とある。桃谷順天館が営業所と研究所を市岡元町に移転したのは大正11年4月であり、葭乃の記憶違いか〉と記したが、路郎は大正7年にはまだ葵書店を営んでいたので、「百年史年表」の記述は路郎に関しては誤りである。水府は大正7年に入社、9年に退社して、福助足袋に就職している。(『番傘川柳百年史』参照)

創刊号に路郎の記事はないが、川柳漫画の欄がある。川柳漫画については、別の回でまとめて紹介する。和歌・俳句・川柳欄があり、川柳欄は路郎が選者を務めている。各題各人一句ずつ挙げておく。

「創立」

創立の時の寫眞に残る人　結晶

創立の噂を残す新開地　松窓

創立に大きな時計かゝえ込み　半文錢

叔父さんに鑑査役になつて貰ひます　登久坊

創立事務所大きな地圖が貼つてあり　路郎

「商賣」

葬ひのあと商賣を一つへらし　路郎

「荷車」

荷車の來る迄話す立話　花樂

「店開き」

店開き隣の店が邪魔になり　堀河

「五日拂」の題で川柳を募集しているが、8月号は現存しないので、どのような句が入選したのか不明である。なお、9月号以降、和歌・俳句・川柳欄はなくなる。

9月号を見ていく。本文112頁。

吉野作造が「大阪商船株の生める罪悪」、風見章が「産業的海外發展の前提」を執筆している。

路郎は「外国後廻電報と商業的關係及用法」を8頁執筆している。また、江戸堀幸兵衛、あるいは幸兵衛の号で、「色彩鑑識上の魔室に入る鍵」「類似商品と商品問題」「市井遍路」を執筆している。江戸堀幸兵

衛は、路郎が大正7年に発行した「土團子」で使い始めた号で、当時住んでいた西区江戸堀の地名に、落語の「小言幸兵衛」をくっつけたもの。本名の幸二郎の「幸」も掛けている。「市井遍路」を挙げておく。

市井遍路（一）　幸兵衛

五歳の子供に蓄音機教育をしてやらうと思つて蓄音機を買ひに難波の驛の近くへ出かけた。先づ機械を買つて扨て盤を買ふことになつた。蓄音機屋の店員は一枚のレコードを鳴らして聞かせた。それは筑前琵琶の譜であつた。そして何うですといつた。自分はつまらないからもつと外のを鳴らして見たまへと註文を出した。大體賣る積りなら鳴らす前に客の趣味をきくべき筈である。いくら筑前琵琶が音響の上に於て宜い音色を出すとしても客の趣味外であれば十割の損がある。客が浄瑠璃が好きであるのへ浄瑠璃のレコードを聞かせれば既に買はぬ先から三分の得がある筈である。そして夫を常に使用する人の子供であるか老人であるか、婦人であるかをも先づ聞く必要がある。でなければ何枚鳴らして見ても夫は徒勞に歸するではないか。時間の點からいうても大に不經濟である。だから客自身が面倒臭く感じたらいゝ加減にして出て了ふ。

斯ういふことは大に店主も店員も考へなくてはならない。

單に新聞や雜誌や停車場に廣告だけして置けば客が來ると思つてゐるのが間違つてゐる。いかにも來るには來ても買はせなければ最後の目的は達しられないのである。廣告料の無駄費ひは斯ういふ點に多くあるのである。

市井遍路（二）　幸兵衛

友人から中元に壜詰を二本貰つた。包裝には白玉ソースの廣告が一面にしてあつた。はゝアこれは豫てきゝ及ぶ白玉ソースを頂戴に及んだのであらうと思つてゐた。

それから二三日して友人○氏の宅へあそびに行つた。そして○氏の奥樣とは至つて心やすいので友達から白玉ソースを二本貰つたから一本あげますと豫告をして歸つて來た。

さて翌日になつて四合壜らしいのを一本○氏の宅へ届ける積りで包裝を解いてみれば白玉ソースとばかり思つてゐた壜詰はウヰスキーとポートワインに化けてゐる。

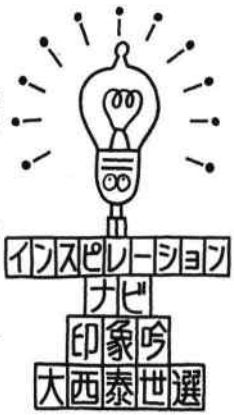
我輩も男であるとこんな處で天川屋（筆者註―『仮名手本忠臣蔵』の「天川屋の儀兵衛は男でござるぞ」のもじり）をきめるのではないが、兎も角約束丈は果す事にした。

その後のことであつた。こん度は自分が中元にウヰスキーを持つて行く積りでその店へ行つた。頗ぶる無愛憎（ママ）な店で客の待遇法を知らない。

その店の妻君が自分の方へ煽風機をねぢむけてお客樣たる我輩を閑却してゐる。大いに怪しからんと思つたが、暑くるしい店の中に突つたつたまゝ待たされてゐた。かけるために椅子一脚を出さぬのである。狹まくるしく商品が積みあげられた中にウヰスキーの包裝がすむまで可成長い時間を待たされた。

我輩は風呂敷を持合はさぬから上包みをして呉れるやうに頼んだ。その時例の包裝紙を出して我輩はかつて經驗したことを話して注意をした。でなければ、この店で買つたものは皆白玉ソースの必要を感じぬ人には意外な曾我の家（筆者註―曾我の家といえば仇討ち。ここでは、もめ事ぐらいの意味か）を生ぜぬとも限らぬ。

（次回に続く）



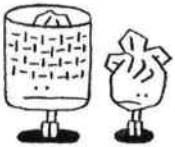
（投句２０３名）

どこまで続くヌカルミぞ、じゃなかった非常事態宣言でした。

多くの国民が慣れっこになってしまい、緊張感も薄れている中で、仕事によっては中止になったり延期になったりと振り回されてしまいます。

長いマスク生活のお蔭（？）で、私のお顔も緊張感が無くなってしまい、あれれ、こんな所にシワがあったかなあ、なんて驚かされることが多々あります。

では、ナビを。



文豪のクズ入れ気位が高い　橿原市　居谷真理子

（評）このクズ入れ、ただのクズ入れじゃあーりません。文豪サマのお書き損じしか受け付けないのでございます。

かくれんぼ見つけていないふりをする　和歌山市　柏原　夕胡

（評）なんてかわいいウソでしょうか。もう少し隠れている子をワクワクさせてあげたい一心なのですね。

夫婦別姓それがどうしていけないの　松山市　栗田　忠士

（評）結婚したからと言って姓を変えていては仕事に差し支える人もいます。でも中々実現しませんよねえ。

昭和一桁出来ぬマスクの使い捨て　札幌市　三浦　強一

（評）そうそう、洗えばもう何回か使えるのでは、なんて未練がましく思うのです。あの、昭和二桁もですヨ。

お互いに疲れましたなほんまやな　大阪市　柴本ばっは

（評）何に疲れたとは書かれていないけれど、顔見合わせてつい呟いてしまうことが多々あるんですよねー。

おはようと男同士がゴミ置場　高槻市　富田　保子

（評）ゴミ収集日の朝、出勤のついでにとゴミ袋を持たされたご亭主をよく見かけます。結構サマになっておられます。

坊さんが先祖の為というお布施　三田市　谷口　修平

（評）何事もご先祖様の御為でございます、なんて言われると値切れませぬ。ましてやお坊さんのお口から出れば…。

何者にもなれる魔法を持っている　箕面市　出口セツ子

（評）まあ、何と羨ましいことでしょうか。ちなみにセツ子様が一番なりたいのは何か、メッチャ知りたいです。

人間の思い通りになるもんか　寝屋川市　廣田　和織

（評）これ、動物が言っているのか、はたまた植物が言っているのか。人間の思い上がりを戒めてくれるようですね。

ステイホーム嵩高いなあうちの人　犬山市　金子美千代

（評）ホント、黙っていても嵩高いのにあれやって、これやってと大変。かと言って居ないとさみしい、ですって。

手びねりの茶碗に湯呑み重すぎる　大阪市　宇都満知子

塩あめとロックで夏を乗り切った　弘前市　稲見　則彦

どうどう巡りひとつの欲を捨てきれぬ　米子市　八木　千代

さりげない手抜きも長生きの秘訣　高槻市　初代　正彦

禁断の恋もワクチン終えたあと　奈良県　長谷川崇明

世間には負けない茄子の小紫　藤井寺市　鴨谷瑠美子

分別をキチンとしたら笑みもでる　松江市　相見　柳歩

台風に譲り渡した窓掃除　鳥取市　奥田　由美

そう言われても昨日が思い出せません　三原市　笹重　耕三

名古屋市　山本三樹夫
脱炭素老原発が動きだす

唐津市　仁部　四郎
恋文の下書き始末安全か

西宮市　亀岡　哲子
増水の川を見に行くおじいさん

大阪市　平井美智子
予定とは少し違っていた余生

佐賀県　真島久美子
言の葉はいまも執行猶予中

羽曳野市　吉村久仁雄
仮面夫婦ほら目を合わせない二人

大阪市　江島谷勝弘
涼しそう今宵は読書親しむか

弘前市　髙瀬　霜石
ワープロとガラケー長いおともだち

松山市　柳田かおる
見かけ倒しよ体力は落ちている

尼崎市　藤田　雪菜
今日終る何かにひとつ感謝して

松江市　石橋　芳山
寝る場所も決まって星を撃つ準備

黒石市　石澤はる子
金持ちと貧乏人の違いだよ

貝塚市　吉道あかね
断捨離の中から元に戻る服

大阪市　石橋　直子
おひねりを用意して行く旅芝居

香芝市　大内　朝子
殻脱いでごらんよ世界広いわよ

箕面市　酒井　紀華
再婚します大きな胸に惚れました

丹波篠山市　酒井　健二
気まぐれに風が吹くからふと孤独

松山市　大内せつ子
僕の横だと変顔ばかりしてるんだ

神戸市　みぎわはな
鷹が鳶生んで番長ドラ息子

枚方市　栃尾　奏子
騙されたあたりで愛になったかも

岩国市　上村　夢香
はみ出して自由に生きる術磨く

尼崎市　近兼　敦子
そんな顔するから私移っちゃう

大阪市　田中ゆみ子
丁寧に包んだ過去が解け出る

西宮市　福島　弘子
ダルマさんが転んだするうちの猫

松山市　郷田　みや
きっかけを探しています仲直り

奈良市　山本　昌代
あの日から火花を散らす好敵手

大洲市　花岡　順子
倦怠期かもね意見が食い違う

防府市　坂本　加代
隠しても隠し切れない片想い

襄屋川市　平松かすみ
丸ごとに買うたキャベツを持て余す

今治市　永井　松柏
まだたぎる思い紙ヒコーキになる

弘前市　福士　慕情
巣立つ子へ親の思いを乗せてやる

交野市　山野　双葉
嫌ですと言えたためしが無い私

岡山市　永見　心咲
揉め事は嫌いよコーヒーが冷める

富田林市　片岡智恵子
嘘とうそぶつかり真実が笑う

河内長野市　梶原　弘光
チンドン屋商店街の華だった

貝塚市　石田ひろ子
ゴミの中から人間が見える

鳥取市　永原　昌鼓
かくれんぼこんな所にキャンディーが

塩竈市　木田比呂朗
洗濯機換え時ですとコマーシャル

唐津市　前田　廣幸
罵った年金さまに今土下座

鳥取市　竹信　照彦
老いの酒ちびりちびりとノンアルで

豊中市　上出　修
また宣言酒も出せずにバー閉める

12月号発表
(10月15日締切)

(平本　霧石人　画)
柳箋に２句

二〇二一年（令和三年）

八月本社誌上句会

投句者219人

兼題「ラスト」

斎藤　さくら　選

しんがりで風の流れを見極める　島根　伊藤　寿美
全力で駆けたビリでも良しとする　大阪　鈴木いさお
成田発ラストチャンスに賭けて見る　大阪　富田　保子
思いも掛けぬどんでん返し来たラスト　大阪　森　廣子
ラストチャンス生前葬で飾れたら　大阪　今井万紗子
人生のラストオーダー樹木葬　大阪　長尾　千賀
最後まで是是非非主義で生きた人　大阪　古今堂蕉子
毎日をラストチャンスにする米寿　大阪　上山　堅坊
ラストから読む癖ついた推理本　兵庫　永田　紀恵
この話最後にしようこのへんで　兵庫　荒牧　孝子
自粛八時ラストオーダー間に合わず　和歌山　佐藤　まき
自分史のラストページの嘘まこと　大阪　小野　雅美
ラストスパート電池を換えてネジ巻いて　奈良　大久保眞澄
醍醐味は九回裏にあるドラマ　大阪　長髙　俊雄
わ行から時には書いてくれ名簿　大阪　水野　黒兎
どうしてもどん尻になるわが家系　宮城　西　恵美子
しんがりを見たことがない蟻の列　愛媛　栗田　忠士
人生のラストがチラリ見えてきた　兵庫　住吉美和子
猛練習ラスト一周天の声　鳥取　本庄　汪
最高裁そしてだあれもいなくなる　青森　髙瀬　霜石
ラストシーンの余韻を壊すコマーシャル　大阪　村上　玄也
靴紐をしっかり結ぶラストラン　和歌山　木本　朱夏
これ最後これが最後と柿の種　大阪　原田すみ子
ラストにはまだある余白スクワット　鳥取　大羽　雄大
ラストには笑みでこの世にするサラバ　大阪　油谷　克己
今月も閉店セール大繁盛　兵庫　斎藤　隆浩
親友はラスト争う好敵手　兵庫　村田　博
行きつけの酒場でラストまで粘る　鳥取　新家　完司
黒枠に閉じ込められたのか君も　奈良　居谷真理子
神様の優しさ終の日は秘密　大阪　宇都満知子
ラストまで大地踏みたし靴みがく　大阪　山本希久子

頭下げたラストダンスを断られ　大阪　坂上　淳司
白寿までラストダンスは取っておく　広島　鴨田　昭紀
ラストまでいてねに寿司も奢らされ　兵庫　中岡千代美
なんやかやあった五輪のラストラン　大阪　内田志津子
ラストだと張り切り過ぎたのが誤算　大阪　山岡冨美子
ラストだと思えばもっと頑張れる　宮崎　黒木　栄子
ハッピーエンド小さな幸を積み重ね　大阪　吉村久仁雄
いつまでもこれが最後と子の無心　奈良　米田　恭昌
温暖化地球のラスト見え隠れ　大阪　奥村　五月
天寿終え乙女のように眠る母　大阪　美馬りゅうこ
わたくしのラストを決めるのはわたし　大阪　平井美智子
マラソンのラスト五〇で追い抜かれ　東京　井上つよし
ラストまで聞かず夫は大あくび　兵庫　近兼　敦子
エンドロールの終り辺りに私の名　大阪　西出　楓楽
最後かも知れぬと思う切手貼る　兵庫　冨永　恭子
実直に生きてラストは無位無冠　大阪　川本　信子
延長はありませんよと閻魔さま　鳥取　竹村紀の治
堂々とラストを飾る唄に酔い　兵庫　山内　迪
予定ではラストチャンスでホームラン　大阪　森田　旅人
ラストページやっと一輪咲きました　大阪　太田扶美代
人生のラストを父母に教えられ　大阪　平賀　国和

佳

人生のラストスタート楽しまん　大阪　安田　忠子
ラストラン生きたあかしの五七五　兵庫　槇田　次郎
感動はエンドロールが呼ぶ余韻　大阪　山野　寿之
逆転を胸に秘めてるラストラン　宮城　木田比呂朗
ラストチャンス開けてみようか玉手箱　島根　中筋　弘充

人

原爆に残るドームの血の叫び　岡山　藤澤　照代

地

人生のラスト見送る野辺の花　兵庫　吉村めぐみ

天

文庫本一千冊を処分する　大阪　江島谷勝弘

軸

急かんでも迎えの車やがて来る

兼題「すいすい」　萩原　狸月　選

ノーヒットノーラン九回裏までついに来た　大阪　藤村　亜成

案ずるよりオリンピックはすいすいと　兵庫　青木　公輔
すいすいと自動運転待ち焦がれ　島根　原　徳利
雑魚のまま定年までを泳ぎ切る　大阪　廣田　和織
若い頃未来描けたすいすいと　大阪　穂口　正子
年金の池で何とか泳いでる　兵庫　緒方美津子
すいすいと運ぶ話の落し穴　奈良　大内　朝子
結婚も離婚もすいすいと若さ　兵庫　米田利惠子
すいすいと生きるつもりがハイ左遷　大阪　秀　爷
渋滞なし調子に乗ってネズミとり　大阪　澤井　敏治
荒波もすいすい越える七光り　兵庫　谷口　修平
めだかすいすい何処へ行ったや子供達　兵庫　奥澤洋次郎
すいすいと嘘が勝手に走り出す　大阪　伊達　郁夫
帰り道すかんぽ食べたランドセル　兵庫　北野　哲男
人生のパズルすいすい解けぬまま　奈良　渡辺　富子
ママチャリがボクをすいすい抜いてゆく　大阪　川端　一歩
世は過ぎたぼくを残してすいすいと　鳥取　成田　雨奇
ウーバーが人の間を縫って行く　兵庫　羽奈　和子
すいすいと来たのが不思議闇の中　兵庫　山内　迪
まだ泳ぐつもり八十路へ紅をひく　埼玉　久保田千代

三猿になってすいすい世を渡る　大阪　石田ひろ子
すいすいとはいかぬワクチンのその後　広島　笹重　耕三
雑踏もすいすい昔話のハイヒール　奈良　安土　理恵
フリーパス天下御免の金バッジ　大阪　長髙　俊雄
すいすいと追い越していく若い靴　大阪　藤原　大子
ワクチンですいすい人をかき分ける　大阪　今村　和男
指揮棒はすいすい五線譜を泳ぐ　広島　田辺与志魚
六十路まですいすいそれから医者通い　大阪　山本希久子
良い星の下で百年生かされた　兵庫　上野多惠子
ネオン街昼は迷って立ち止まる　大阪　柿花　和夫
人生にすいすいなどは夢の夢　大阪　齋藤さくら
どんなサプリ飲んではるのと膝がきく　兵庫　野口真桜子
梅花藻の下に流して恋終わる　大阪　島田　明美
合格へ手応えありの走るペン　兵庫　上田ひとみ
ルーキーが遠慮もせずに追い越した　大阪　小野　雅美
めだかすいすい宿題は済ませたか　山口　中前　幸子
かなづちがスイスイ泳ぐ夢の中　愛知　小松くみ子
水槽のメダカと遊ぶワンルーム　大阪　長尾　千賀
聡太君もう九段に上り詰め　兵庫　福田　好文

すいすいと社長になったわけでない　大阪　松本あや子
渋滞の車追い越す二本足　兵庫　村田　博
躓けば素早く靴を履き換える　兵庫　生田　頼夫
容姿はメタボでもワルツは軽やか　宮城　木田比呂朗
拡大鏡かけてすいすい針仕事　大阪　齋藤奈津子
秋あかね稲の出来栄え見て廻る　岡山　古山はつ子
微分積分クラスにひとりいた博士　大阪　美馬りゅうこ
遠泳をこなし少年海語る　宮崎　惠利　菊江
おかえりなさい池江瑠花子が水を切る　青森　福士　慕情
すいすいと世渡り上手　嘘上手　大阪　森　廣子
すいすいと泳いだ頃のネオン街　大阪　太田　昭
世渡りの上手い男の常備薬　神奈川　加藤　佳子
地下街の出口迷わぬ都会人　兵庫　岸田　万彩

佳

君の待つ街へ信号も青ばかり　大阪　吉村久仁雄
ニッポンがスーダラ節で踊った日　徳島　小畑　定弘
すいすいと頭に入るまだ若い　京都　清水　英旺
二次会があるのですいすいと決まる　兵庫　山田　耕治
年月日すいすい書けてホッとする　鳥取　山本ふみ子

人

夕焼けを背に乗せて来る赤トンボ　岡山　藤澤　照代

地

すいすいと人波を縫う子の背中　大阪　阪井　恵子

天

札束がすいすい通る針の穴　大阪　平井美智子

軸

連休を避けて稼いだ時間距離

兼題「多　少」

電話口多少の嘘が混ざってる　島根　岸　桂子
嘘少し混ぜて善行光らせる　北海道　三浦　強一
世渡りへ多少の嘘をスパイスに　大阪　西出　楓楽
愛かしら多少の嘘に目を瞑る　和歌山　木本　朱夏
女です多少の嘘は混ぜてます　兵庫　中岡千代美
笑わせてなんぼ多少の嘘を混ぜ　大阪　田中ゆみ子
君となら多少の毒は食べられる　奈良　木嶋　盛隆
分量の多少によらず毒は毒　大阪　榎本　舞夢
親送る多少の安堵胸に秘め　大阪　山野　双葉

稲見　則彦　選

名前みな忘れていても母は母　奈良　饗庭　風鈴
多少でも介護する子に残したい　大阪　奥村　五月
妻一人看取るくらいはある覚悟　広島　田辺与志魚
消費期限多少切れても食べる母　大阪　齋藤奈津子
同窓会多少の見栄を身に纏う　兵庫　上野多惠子
再会に生きざま少し粉飾し　大阪　原　洋志
半分っこ目利きの早いやんちゃっ子　広島　元吉　慶子
師の思い多少は分かる歳になり　奈良　髙橋　敬子
不揃いも愛嬌庭の夏野菜　大阪　栃尾　奏子
口数の多少魅力とは別物　大阪　原田すみ子
愛情は隠し味だと笑う妻　兵庫　宗　和夫
夫婦して似たりよったり記憶力　兵庫　稲角　優子
募金箱僅かわずかを積み重ね　大阪　内田志津子
あまり風だろうか鞦韆が揺れる　大阪　平井美智子
ウチの子だ多少のことは目をつぶる　大阪　片山かずお
自分史の余白へ赤を足しておく　愛媛　栗田　忠士
程々の意味が分らず恥をかく　鳥取　本庄　汪
二千万目指しコツコツアルバイト　山口　上村　夢香
多少ゆがんでます胡瓜も私も　大阪　島田　明美

たまゆらの命ちょっぴり光らせる　奈良　渡辺　富子
酒飲めば多少美人に見える妻　兵庫　能勢　利子
肩の荷を少し降ろした子の巣立ち　兵庫　谷口　修平
目分量きょうは甘めの母の味　大阪　宇都満知子
化けるのに多少予算も要るおんな　大阪　美馬りゅうこ
財産の多少は問わず行くあの世　大阪　岡田　恵子
多少色つけてと要求お小遣い　京都　清水　英旺
封筒の多少で変わる椅子の位置　大阪　川本　信子
菓子折が多少の工面匂わせる　大阪　長尾　千賀
褒められて多少の無理を聞いている　岡山　岡本　余光
出来る奴多少の縁も無駄にせず　神奈川　加藤　佳子
モデルも妻も多少違えどええ女　兵庫　敏森　廣光
甲乙と決めつけられぬ人間味　兵庫　山内　迪
返り血は多少覚悟で蚊を叩く　大阪　今村　和男
好調が微妙に力入れすぎる　兵庫　福田　正彦
ネジ一本多少のズレも命取り　青森　福士　慕情
仕事人間午睡するにも理由つけ　岡山　大石　洋子
アリバイが多少気になる昼下り　兵庫　生田　頼夫
立小便ほどの違反は多少ある　鳥取　新家　完司

些かの曲がりも鞘は許さない　大阪　中村　惠
翻訳の「多少」難しい日本語　兵庫　長川　哲夫
あと少し待てぬ大人が多すぎる　大阪　西村　哲夫
常識に少し疎いが詩人らし　兵庫　北野　哲男
それ位だんなも我慢してはるで　大阪　古今堂蕉子

佳

あなたの手当たって意識してしまう　大阪　小野　雅美
臓器にも多少遊びが要ると酒　大阪　水野　黒兎
金額の多寡を問わない募金箱　大阪　佐々木満作
妙薬あれば多少と言わず試しとく　大阪　今井万紗子
秒針のずれはこせこせしていない　兵庫　青木　公輔

人

人生のスタート僅差だったはず　宮城　木田比呂朗

地

抜け目なく多少大きい方を取る　広島　鴨田　昭紀

天

けっきょくは人生あみだくじらしい　青森　髙瀬　霜石

軸

規格外それが自慢の産直所

兼題「銀」

山崎夫美子　選

いぶし銀きっちり主役立てている　大阪　油谷　克己
さりげなく銀の指輪が光ってる　奈良　加藤江里子
青春をまだ追っている銀やんま　大阪　松尾美智代
銀婚へ二人の愛は弛みだし　兵庫　中岡千代美
銀髪の紳士に赤がよく似合う　奈良　菱木　誠
メンタルの脆さに負けて銀メダル　兵庫　清水久美子
銀行とは年金だけのお付き合い　兵庫　斎藤　隆浩
銀幕のスターが並ぶセピア色　大阪　岡田　恵子
何処だろう銀河鉄道始発駅　大阪　阪井　恵子
銀舎利も死語となったかスマホ族　兵庫　吉村めぐみ
銀山にもコロナ羅漢もマスクする　島根　伊藤　寿美
シルバーシート空けて学生立っていた　大阪　宇都満知子
森の奥トトロに降った銀の雨　奈良　木嶋　盛隆
苦労した事は語らぬ燻し銀　兵庫　谷口　修平
六月を銀色に染め孫嫁ぐ　大阪　太田扶美代
ミツバチも蝶も眠っている銀座　大阪　藤田　武人
大銀杏結って帰れば過疎の村　大阪　丹後屋　肇

シルバーマーク前後に付けて加速する　兵庫　山田　厚江
恐竜も親子で見たか夏銀河　奈良　髙橋　敬子
隆盛の時をふつふつ銀の匙　埼玉　久保田千代
勝者とは呼ばれぬ銀に記憶あり　大阪　太田　省三
じれったい恋のベンチに銀ヤンマ　徳島　小畑　定弘
もう一つ試練をくれた銀メダル　岡山　藤井　智史
銀髪の淑女の歳を推しはかり　大阪　藤原　大子
銀行のカメラに微笑みを返す　兵庫　米田利惠子
淋しさをゆっくり掬う銀の匙　大阪　平井美智子
銀盃のわたしの愛を召し上がれ　愛媛　黒田　茂代
お迎えに来た銀色の宇宙船　奈良　居谷真理子
銀の字を入れさえすれば売れたけど　鳥取　成田　雨奇
金よりも銀の渋味が好みです　京都　清水　英旺
一本の銀のスプーンと恋がたり　奈良　安土　理恵
ちっぽけな銀河系でのにらめっこ　熊本　黒川　孤遊
いぶし銀などと言われてみたくなり　鳥取　池澤　大鯰
銀皿のテイクアウトが威張ってる　大阪　小川賀世子
シルバーと呼ばれ括弧でくくられる　広島　田辺与志魚
飽食の中で銀しゃり捨てる罪　神奈川　加藤　佳子

鯵うろこ取ってつましい夏夕餉　兵庫　冨永　恭子
銀山に夢の骸の如き穴　和歌山　三宅　保州
銀髪になっても妻は葱刻む　大阪　柿花　和夫
博学の君は老いても燻し銀　大阪　山野　寿之
銀髪がやさしい顔にしてくれる　京都　山田　葉子
私の銀輪時速12キロ　鳥取　新家　完司
剪定を頼めばシルバーさんが来た　兵庫　山田　耕治
分別の行方悩ます銀ラップ　広島　笹重　耕三
再会は銀河の果ての居酒屋で　島根　岸　桂子
板チョコの銀紙めくるカタルシス　奈良　稲葉　良岩
銀河行き片道切符渡される　宮城　西　恵美子
銀髪なびかせ髭蓄えて騎士になる　大阪　藤村　亜成
銀のスプーン父の指紋が消せぬまま　大阪　石田　孝純
ルンルンでシルバーエイジ謳歌中　鳥取　伊塚美枝子
銀河系から私一人を引いてみる　東京　川本真理子
梅雨寒のかしこで結ぶ銀のペン　和歌山　木本　朱夏

佳

銀幕の向うにエキストラずらり　兵庫　青木　公輔
形見にと義母からもらう銀狐　青森　稲見　則彦

嫉妬心アルミホイルで包み焼き　大阪　島田　明美
棚田にはほろりほろりと銀の雨　奈良　饗庭　風鈴
魂がひしめきあっている銀河　兵庫　生田　頼夫

人

寝たきりの母とつながる銀の鈴　奈良　渡辺　富子

地

トマトですそうです僕の銀行名　大阪　吉村久仁雄

天

手の届く銀河よ父の肩車　大阪　米澤　俶子

軸

名刺交換さりげなく浮く銀の文字

兼題「個　性」　新家　完司　選

宇宙から見れば個性的な地球　和歌山　三宅　保州
前向きな個性のひかるバラ五輪　奈良　大内　朝子
個性派がとても苦手なマスゲーム　兵庫　谷口　修平
多数派から変わり者だと誉め言葉　大阪　石田　孝純
何故かしらつい仕切る癖直らない　兵庫　新阜　義明
せっかちがじゃましていつも生き急ぎ　奈良　饗庭　風鈴

雨のち晴きりかえ速いあまのじゃく　大阪　古今堂蕉子
ありがとうは大声で言うおじいちゃん　兵庫　能勢　利子
居るだけで満座和やかお人柄　北海道　三浦　強一
じゃじゃ馬も跳ねっ返りも捨て難い　兵庫　みぎわはな
筋を曲げられない質で損ばかり　大阪　片山かずお
司会業へ活路を開く口達者　大阪　丹後屋　肇
算数は苦手木登りなら勝てる　大阪　原　洋志
真似できぬ父のくせ字は父のもの　兵庫　緒方美津子
校門の外では自分色になる　奈良　菱木　誠
乳足りた子猫の寝相それぞれに　大阪　山野　双葉
似て非なる黒毛和牛と黒猫と　鳥取　斉尾くにこ
よく聞けばカラスの「カアー」にある個性　兵庫　永田　紀恵
宵っ張りも寝坊助もいる金魚鉢　和歌山　木本　朱夏
浪速のおばちゃんアニマル柄に負けてへん　兵庫　山田　厚江
世に一つだけの原石ひからせる　大阪　阪本　秀子
変哲もない石もオブジェとなるアート　大阪　長尾　千賀
ユニークな太陽の塔永遠に　大阪　米澤　俶子
似顔絵になると個性がもろに出る　愛媛　黒田　茂代
似顔絵を見れば私とすぐ判る　広島　田辺与志魚
ピストルに和服ブーツという竜馬　兵庫　村田　博

座っているそれで絵になる笠智衆　大阪　酒井　紀華
へたうまで魅せる色紙は武者小路　大阪　長高　俊雄
松園に女と母の縮図みる　大阪　片岡智恵子
ひねくれ一茶されど俳句は愛らしい　大阪　平賀　国和
サトテルは得な個性を持ち合わせ　大阪　江島谷勝弘
サトテルの魅力三振かホームラン　大阪　油谷　克己
恐いけど個性を伸ばす鬼コーチ　大阪　奥村　五月
遅咲きを気長に待っているコーチ　京都　山田　葉子
剪定の枝毎にある自己主張　埼玉　久保田千代
紫黄橙白梅雨来たりなば梅雨の花　熊本　杉野　羅天
長い首もてあましてるチューリップ　大阪　阪井　恵子
苺にも斜に構えてる奴が居る　奈良　稲葉　良岩
ひまわりの二本横向く登校日　大阪　太田　省三
ザ・シェフの一味となる生野菜　兵庫　長川　哲夫
玄関脇の花壇にネギを植える家　奈良　大久保眞澄
曲がりねぎ味が取り柄と自己主張　宮城　木田比呂朗
らしさにもちょっと拘る夏帽子　大阪　初代　正彦
正直に風に逆らい重い靴　大阪　岩崎　公誠
冥土への旅は真っ赤なスニーカー　大阪　中村　惠
紫にヘアダイしてはみたものの　岡山　大石　洋子

親父酒息子ケーキで語り合い　大阪　松岡　篤
飲み物と肴ばらばら三世代　兵庫　瀬島流れ星
あま酒で乾杯ダイヤモンド婚　兵庫　上野多恵子
たこ焼きは丸くない奴先食べる　大阪　今村　和男
たこ焼きを十個食べてもまだ不安　熊本　黒川　孤遊
伝統の苦さで迫る陀羅尼助　大阪　柴本ばっは

佳

アブラゼミ無邪気ヒグラシ人見知り　大阪　島田　明美
だらしない男で切手蒐集家　鳥取　竹村紀の治
ニュースにはなくてはならぬ渋い顔　岡山　岡本　余光
無口だが眉と目玉がよう喋る　奈良　居谷真理子
人柄が結び目にあるゴミ袋　大阪　小野　雅美

人

ぼくはチェロきみは第一ヴァイオリン　青森　高瀬　霜石

地

絶対に2回検算致します　大阪　内藤　憲彦

天

カルピスとマヨネーズだけあれば良し　兵庫　**上田ひとみ**

軸

お気に入り自由気儘なゴミルーム

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願いいたします。
編集部

大山滝句座（鳥取）　新家　完司報

脱ぎ捨てた今日が洗濯機で回る　正人
ちょび髭のチャップリン対ヒットラー　くにこ
もう何も脱ぐ物がない風呂の中　照彦
靴下を脱いで自由な足にする　楓花
ねばっこい話はどうも性合わぬ　八千代
しかめ面ちょこの一つで脱皮する　雄大
金メダル流した汗に兜脱ぐ　幸子
よく似合うライバルの服ほめ殺し　余光
店員がお似合いですと攻めてくる　紀の治
赤い服似合う私の自己主張　小鹿
人間は着たり脱いだり忙しい　石花菜
ネバネバの納豆オクラ夏に良い　富隆
ふる里のしがらみ脱いだジャンプ台　麦青
よく似合うソフトボールの金メダル　重忠
秋アカネ青い空飛ぶ爽やかさ　清明
年重ね似合いの二人だったのに　希楽良
温泉場見知らぬ人と丸裸　コスモス
三十年前の服でも似合う妻　規雄
くつしたを脱ぐと必ず臭い嗅ぐ　完司

和歌山三幸川柳会　西川　千鶴報

カルチャーから茶房へ針のない時計　菜摘
真っ直ぐな子を曲げている世の歪み　敏照
生き上手少しアンテナ低くする　智三
目覚ましの前に朝日に起こされる　まき
あの人が逝って浴衣も色褪せて　理恵
この道と信じて決めた靴の向き　八重子
アマリリス色鮮やかにラッパ咲き　一雄
怠けてる時計に喝の電池替え　起世子
友達のように令和の父が居る　碧
ネジ巻きの時計と共に早や白寿　昇
犬だけが父の言い付けよく守る　日出男
秒針の音にも老いを急かされる　富香
信じようそんな優しい嘘だから　昭枝
次の世もやっぱり父の子でいたい　宏枝
信じればすんなり出来る綱渡り　純子
残された余白へ時計遅らせる　幹子
あの日から止まったままの腕時計　当代
ニンゲンを信じるなよと檻の猿　和子
この人と信じて渡る丸木橋　ひろ子
しあわせな自分サイズにする暮らし　俶子
逆算もするから前に進めない　准一
いつとても未来を向いている時計　保州
身の内を信じることの家族愛　美枝子
父想う血が繋がっている自覚　彦弘
質問はまだまだあると見る時計　義泰
日時計と過疎に暮らして満ちたりる　明子
地下足袋をはきたいと寝たきりの父　あき子
ずるいなあ遺影の父は若いまま　知香
母だけがボクを信じて風に佇つ　眞智子
恙なく今日も終えるか聞く時報　悦男
寝過ごして時計に罪を着せている　和美
核ゼロの世界信じていいだろう　ダン吉
父さんの名前の一字子につける　康則
戦争がなければ父といた私　俊介
最強の愛とは信じ通す事　千鶴

川柳塔みちのく（青森）　稲見　則彦報

つぐ所作も大吟醸の指となる　隆樹
雨上り水玉の傘ぴょんぴょんと　初枝
水玉がはち切れていた君がいた　則彦

ネクタイの水玉が好き夏が好き　のぶよし
蓮の葉で瞑想してる露の玉　黙人
ドット柄少女に似合うワンピース　真由美
二年間出番待ってる豆絞り　柳子
夏休みテントウ虫を日記に　ふさゑ
天空を衝いてごらんよ豆の蔓　劦
ビンテージ水玉模様のしみ作り　孝子
水玉のホームドレスの出番来る　京子
水玉の飛び散るしぶき初夏の虹　重虎
水玉のスカート青春グラフィティ　霜石
孫の大泣き鼻ちょうちんがいとおしい　洋子
水玉のそろいの浴衣夏祭り　一呑
渓流のミストに肌を遊ばせる　風来坊
水玉の汗がしたたる親父の背　義明
水玉のリボン気分はヘップバーン　和香子
水玉のように川面を跳ぶホタル　慕情
水しぶきあげて復活瑠花子さん　美鈴
告白の鼓動を聞いていた水着　規子
水玉のレンズに火傷したカエル　ひとし
蜘蛛の巣を豪華に飾る菜種梅雨　吹喜
水玉のかんざしを買う旅の僧　龍馬
葉の上で水玉プルン革秀寺　ひろ
眠ったりカンペ見ながら予算会　友二
玉の汗勝者の肌を輝かせ　英子

川柳塔打吹（鳥取）　斉尾くにこ報

我ながら度量狭いと反省し　悦子
日本地図・鳥取県は狭いなあ　石花菜
狭い部屋大の字で寝る粗大ゴミ　清
散髪に松は金食う狭い庭　龍枝
狭い国コロナ禍豪雨民は耐え　照彦
避難先狭くて呼吸遠慮する　貴恵
夢を抱く前頭葉が狭まった　節子
たたいたらちりや埃でうんざりね　久江
昼飯が今日も焼飯うんざりだ　紀美恵
二日酔うんざりしてて迎え酒　大鯰
片付かぬゴミからゴミが生まれ出る　三津子
不協和音とどかぬ耳にうんざりだ　美知江
死に急ぎせぬよう仕事程々に　芳江
空にらみ雨までにせにゃ畑仕事　久芽代
待ち遠し特急列車行ける旅　紀子
急いだら喉に詰まるぞパンや餅　陽之助
論吉君いつも急いで去ってゆく　重忠
ワクチンを急いで打てとネオン街　義人
急いではいないが道路が良過ぎます　玲坊
救急車の中では時が進まない　芳光
上りより下りを急ぐ登山靴　富隆
ワンシーン憧れ今宵夢の中　裕子

辻内次根選

東京で買えないものがたんとある　紀の治
手のひらの皺がわたしの履歴書だ　重忠
話題にもならずこの世の隅にいる　芳光
教会に命を洗う歌がある　千賀子
少しずつあなたを知っていく風と　ひとみ
自分史を書けば会いたい人ばかり　(谷)修平
マンネリの池に小石を投げてみる　堅坊
生き残るために雑草にもなろう　瑠美子
露草の碧は故郷の空のいろ　俶子
去る者は追わず棚田の月が友　哲夫

佳句地十選　（9月号から）

西田美恵子　選

日が昇る街を殺菌するように　吹喜
ふところの深いところで許してる　黙人
ひょっとして天才かもと思った子　哲男
道半ばなお拾うもの捨てるもの　ヨシエ
手を挙げるたとえひとりであろうとも　ひとみ
頂上の勇気をほめる風がある　鬼焼
せんたくきがおこってからとまったよ　さや
中心がぶれると円が描けない　まつお
うふふふふ内緒話は袋綴じ　博
コロナ禍の街は無色になっていく　ひろ子

再放送古い映画ほど身近　余光
名画観てスター気取りで夢心地　滋
手の平のスマホの中の映画館　紀の治
斜陽する映画にアニメ活を入れ　重利
何を急ぐか大海を飛ぶ魚　くにこ

わかやま吟社　小谷　小雪報

不器用な顔ぶらさげた子の帰省　八茶
迎合しわたしの核が削られる　佳子
「先逝くで」「迎えに来んでええからな」　敦巳
静寂が客を迎える無人駅　和宏
入梅にレイングッズが弾みだす　知香
共存へ迎えるコロナへ変異株　小雪
思いっきり惚れた仕事に玉の汗　晶子
暫くは無風でいたいシャボン玉　紀子
失敗にウインクしてる目玉焼き　あかね
白黒をつけると孤立してしまう　夕胡
シャボン玉浮き世人生教えられ　准一
一万歩暑くなったな玉の汗　光
身構えて時に受け取る変化球　寿子
曖昧な答弁ばかりする政府　秀夫
くつ下の毛玉を取っていざランチ　精子
気兼ねなく友を迎える春よ来い　よしこ
曖昧にせずに家計簿きっちりと　明

ハイという日本語イエスかノーか　徑子
曖昧の底にちらりと出る本音　ふりこ
曖昧な態度のせいで縁逃す　なおみ
曖昧な返事の付けが手厳しい　冨美子
真贋のほどは曖昧蚤の市　日出男
曖昧にうなずき返事引き延ばす　ほのか
曖昧な返事許して遠い耳　悦男
お手玉にするには丁度いい男　大輪
玉子酒病む子にそっと母の愛　信勝
あめ玉一つおばちゃんの社交術　俶子

竹原川柳会（広島）　古田比呂子報

セーターベスト編み替え着せた子育て期　慶子
三つ編みがしてみたいのに男の子　白狐
竹原の竹で見事なカゴを編む　昭紀
七人を育てた母の背中撫で　淑子
姿見に曲がった背中夢の跡　節生
肩書が取れて背中もホッとする　節夫
自己暗示かけて背中をピンと張る　敬子
背中で物言う男にはまだなれず　蘭幸
山も川も海もつながる地球環境　千代美
母の海楽し鼓動を聞く胎児　弘子
海広し帽子はどこへ行ったのか　笑子
追いかけてみつをの海を浮遊する　夢香

深海魚空飛ぶ夢を捨て切れぬ　輝恵
深海に沈めておこう涙壺　比呂子
海に居るような気がする亡夫の部屋　栄香
海が凪ぐやっと便りを書き終わる　鬼焼
反抗は成長したと受け止める　歩美
悔しさも笑いに変えてシャボン玉　厚子
花一輪私一人の勝手口　初音
昭和の句集みんな平和で優しくて　貞子
前向くと私の上にかかる虹　史子
きぬさやはなまえがおなじだからすき　さや
かみなりでおへそがきえてしまうかも　六歳　ちか

はびきの市民川柳会（大阪）藤原　大子報

胃袋も小さくなって食細り　正義
夏野菜袋につめておすそ分け　かつ美
継ぎ接ぎだらけ僕の堪忍袋　まつお
一言が袋叩きの種となり　久仁子
風呂敷が今の時代に七変化　洋一
堪忍袋ストレス逃す穴も開け　大子
戸袋は頑固祖母しか従わず　久仁雄
捨てるには惜しくて溜る紙袋　ちづる
有料化何度も使うレジ袋　ひとみ
風呂敷は自由自在のエコ袋　勝弘

断捨離の迷いを詰めた大袋　理恵
三円の袋やっぱりやめておく　専平
味噌汁が冷めても電話終わらない　さくら
はやる店列の長さがその証拠　千鶴子
三十路でも支払い続く奨学金　冬のト
用あれば一日なんて長くない　フジ
長い道のりだったアスリートの舞台　シルク
天寿生き母はながーい旅に出る　いさお
穴あきのジーンズ好む長い足　瑠美子
長すぎる生命線がちと不安　扶美代
焦らずに気長に終着駅目指す　みつこ
長い髪ばっさり切って過去にする　こみつ
一合が三合になる秋夜長　一文
母からの電話に椅子を用意する　宏造

南大阪川柳会　松岡　篤報

三合で狂い五合で寝てしまい　篤
やっぱりなあ狂い咲きした竹の花　ばっは
突然の鉄砲水に狂う街　柳右子
狂うほど呑み騒ぎたいコロナ明け　克己
緊急宣言もう慣れっこになったのか　直子
から揚げを一つ食べても胃にもたれ　一筒
料理もできぬ情けない娘が嫁に行く　シマ子
頼りない男が総理してる国　蕉子
副作用怖くて予約できません　実
止めときと言うても聞かぬ路上飲み　東風
別れましょじっと聞いてたのは男　昌紀
官僚が取り込み詐欺をやりますか　勝弘
情けない銃声絶えぬ世界地図　弘委智
顔のない子供ぞろぞろ塾帰り　あや子
ワクチンの列へぞろぞろ高齢者　いさお
スマホからぞろぞろこぼれ出るフェイク　敏治
赤木ファイル怪しい事がぞろぞろと　国和
断捨離にぞろぞろと出る罪と罰　常男
安住地求めて難民の長蛇　満作
オリンピックぞろぞろと来る変異株　憲彦
卓袱台でみんなで決めていた時代　弘子
献立に昭和が残るメリケン粉　柳伸
破れてない流行知らぬ妻平気　よしみ
デジタル化昭和が余計懐かしい　大子
饒舌もコロナ時代が無口にし　ひさ乃
肩パット取ってみたけど古くさい　通江
いい時代だったな父も母も居た　楓楽
スマホ手にやっぱり今がいい時代　峰子
夏ヤサイ出来過ぎ困り無理にあげ　ルイ子
母の事まだ断ち切れぬ形見分け　志華子
日本でワクチン出来ぬ訳はなに　一歩
一分が意外と長い待ち時間　加代
ゴミ箱に知られたくないメモがある　亜成
叱るのを忘れて無事を涙する　俊雄

川柳ささやま（兵庫）　北澤　稠民報

音のする賽銭神は寝たっきり　(北)哲男
野良仕事お茶が欲しいが小銭ない　稠民
禍をひっくり返し福としよう　善輔
入院は人生変えたよい時間　剛
マスク顔見てたら素顔忘れたよ　重男
子の出世期待しないであくびする　良子
川が好き蛍の頃はもっと好き　(長)哲夫
忘れない亡母の味炊くなす丸煮　美智子
下校時に好きな人との雨やどり　智恵子
歳のせいなどとは言わず自信持ち　几代
広島を忘れないでね盆がくる　すみえ
夕食後はずす入歯で五等身　凛繪

川柳茶ばしら（愛知）　金子美千代報

無残に積んだ私の本が攻めてくる　雅美
まろやかな冷茶の味に癒やされる　三樹夫
気にしなくなって慣れとは恐ろしい　遡行
ほどほどの暮らし文句は言えぬ今　かつ子
ウイルスの生き延びる策変異株　まみ子
エアコンを付けて膝掛け欠かせない　美千代

ブラザ川柳（大阪）　穂口　正子報

まだ青だ足はもつれる気は焦る　正子
風鈴のよき音色する団扇風　景子
古希過ぎて尚勝ち負けに固執する　五月
負けるが勝ちよやさしい母の子育て論　清乃
山登り勝ち負けなしが病みつきに　園子
案じたがメダルラッシュで盛り上がる　悦夫
所帯持つ決断させたいい笑顔　一彌
コロナ禍でテレビに拍手オリンピック　和代
多趣味から川柳のみに決めました　靖子
延命を固持するカード持ち歩く　淳司
薫風が頬を掠めて立葵　政夫
断仰ぐ社長トイレに立ったまま　弘光
シャッターが賑わう街を覚えてる　克三

川柳ふうもん吟社（鳥取）山下　凱柳報

爺さんのよだきい小言しゃんとせい　一平
よだきいな十年前の話だす　八千代
よだきいが妻の意見は無視できぬ　みゆき
咲き誇るバラに重なる友がいる　(久)千代
報復はせぬが少しの距離を置く　鐘馗
失恋にパーッパーッと散る花火　智史
皿に盛る愛という字のかくし味　美智子
入道雲この白さには嘘つけぬ　(門)千代
よい耳だよい事だけを聞いてくる　桐子
平行に歩いていない老いの足　茂登子
平行にコロナと五輪始まった　善平
反り合わぬ平行線の茶番劇　回春子
平行線くっつきたいな愛の線　勲章
平行に競った馬の鼻に負け　蟹郎
父親と息子はいつも線状降水帯　観洋
平行線のままでも女めしを炊く　拓治
手ごたえがあってやる気に火をつける　真智子
へろへろと押せば女房もへろへろに　野蒜
手ごたえをやっとつかんで深呼吸　恵美子
持つべきは友てごたえの親身な辞　栄策
手ごたえはあったと思う叱った子　節子
返信は笑顔笑顔の踊る文字　欣之
手ごたえは努力の一歩先で待つ　月満
手ごたえにあしたの夢をかけてみる　一瑤
世の異変毎日起こりくらくらだ　大
毎日は止められてます休肝日　茶人
食べながら次のメニューを考える　みつ子
毎日がごくらく地獄思いよう　蛙鳴
空白がホットなニュース「大谷さーん」　武之
空白が続く日記と睨めっこ　金祥
ポジティブを武器にしゃっと生きぬく日　紫陽
大器晩成今日も鏡に問いかける　毅
どっさりと毎日氷河溶ける音　何事
毎日がラストチャンスという命　無限
退職後妻と毎日口バトル　凱柳

富柳会（大阪）　山野　寿之報

初恋の訳閉じ込めた青い瓶　恵
あけすけなポーズ笑顔の隠し撮り　武人
あけすけがテレビ画面を占拠　和子
泣く度にやさしく風は話かけ　高鶩
盛夏過ぎ釣瓶落としの秋夕焼　壽峰
足跡を残す豊かなペンの先　あかり
弱法師の所作に涙の薪能　欣之
ペンだこの厚さで決まるノーベル賞　清
金平糖五色の小瓶ドレミファソ　文重
プライバシーあけすけにする週刊誌　きみ子
嫉妬心呻き心を癒す酒　由夏
つい昔ペンとインクで帳簿書き　正義
電柱の影で信号待ちをする　篤
丸いお金四角い義理に泣き笑い　優
叱れない童に戻り笑う母　きよみ
手花火を持つと子供になる私　章子
歌一二三ふたり育てた親に金　圭
青い日の夏が飛び出すラムネ瓶　寿之

ほたる川柳同好会（大阪）水野　黒兎報

八月の夕立男らしく降れ　正子
子供らに葉月八月はしゃぐ月　黒兎
コロナ禍に一期一会となる句会　則彦
会う度になぜなぜビーム出す五歳　純子
運命を感じる出会い心待ち　郁子
十代のわたしに会えるクラス会　宏造
友に会う約束だけで月日過ぎ　信子
会いたい人たくさん居てる走馬燈　勝弘
通夜の席遠い親戚名をあげる　奈津子
今の私梅田が遠い所です　契子
耳遠く会話減ってく老二人　直子
最後までハラハラさせて五輪ゆく　春代
最高だメダルの君の泣き笑い　一弥
生ビール最もうまい一口目　守啓

きゃらぼく川柳会（鳥取）後藤　宏之報

リメイクでほめられ弾む八十路行く　治代
潮風にあたり悩みは二割引き　俊久
草に愚痴聞かせ遊んで小半日　恵子
免疫の予約しました旅します　多美子
ローン済み心にゆとり春が来る　久直
まだ喉が乾いた感じわかります　雨奇
ダメ押しのつもりのギャグで二度スベル　紀の治
吠えるもの残して家を出る離儀　日枝子
コロナ禍でじっとがまんの食事会　博子
断捨離に勿体ないと横槍が　令位子
ホタル舞う幻想かいや現実だ　菜々
没句にも言いたい事はたんとある　美穂
見守ってくれてる神がいる気配　宣子
何食わぬ顔の貴方は何か有る　ひろし
こまりごと開いてる箱に投げ捨てる　宏之
空は青天気ごちそう遠足日　瑞枝
アプリにもクーポンにもくたびれた　美緒

川柳ねやがわ（大阪）　籠島　恵子報

句読点外し喚いている序文　仁
燃えさしの想いちら付く語り口　千賀
デジタルの波に溺れるアナログ派　和織
カレンダーに小さな○をつけている　弘子
トンネルの向こうはきっと虹が立つ　祥昭
八月の混乱今も物語る　ルイ子
発言の自由がまねく命取り　義広
混乱もなく被災地の水の列　寿之
ご自分の言葉に酔ってしまってる　銀杏
乾杯の泡がだんだん消えていく　武人
外国語混ぜて得意の名調子　秀雄
国民の命守るも聞き飽きる　かすみ
スピーチに泣いて笑って輪になった　かこ
ハラハラと息子の弔辞聞いている　あかり
膝下の水に溺れた事もある　鈍甲
濁流の命へ長い長い竿　欣之
溺れても魂だけは泳ぎ切る　武彦
溺れてる割には下手な五七五　勝弘
溺れそう笑って寄ってくる魚　博泉
葦折れて溺れ縋った歓異抄　信子
一本の藁に神通力がある　茜
ワクチンを打った夜呑んだのは内緒　博麗
歳月が内緒の話聞きたがる　
言うまいと決めたら腹が空いてきた　一歩
身について戻れなくなる青テント　高鷲
逆縁に母の涙が乾かない　寿子
老いの身に生きてる事が大仕事　朝子
清濁でこれほど違う水の価値　弘委智
生活にあなたがつける句読点　弘一
オリンピックコロナ倒して金メダル　清
ぎりぎりの線で理性が蘇る　堅坊
思い切り命を燃やせ蝉しぐれ　賢子
空蝉やたった七日に継ぐ命　壽峰
別れ道どれも迷った跡がある　常男
惚れている分だけレモン厚く切る　郁夫

川柳塔鹿野みか月（鳥取）福西　茶子報

詫びたくて花一輪と帰り道　友真
神様の決めた顔だと諦める　楓花
金銭の貸し借り避けてお付合い　ゆたか
キッチンの小蝿にいらいらがつのる　美ッ千
今の世は蝿一匹が気にかかり　甚禄
詫びる事心に仕舞い朝迎え　草文
肘タッチ様になる日はまだ遠い　宏章
電話では変りないかとまずたずね　孝子
上様と呼んで夫を奉る　茶子
蝿叩き持ってあなたを追いかける　小鹿
蝿一匹いても気になる膳の上　弘子
銭取らぬお日様だからありがたい　すみれ
蝿叩きしてもコロナは叩けない　照彦
医療者にこつこつ貯めて義捐金　一平
道迷う心の里を訪ねたい　慎一
生きているか鼻に手をあて様子みる　文道
さあ選挙銭がいるいるいくらでも　白周
たずねよう老いを恥じても始まらぬ　孔美子
詫びごとは聞きたくないし泣きごとも　重忠
止めようか思い悩んだ訪ね人　弘六
あんた誰わしが尋ねとるあんた誰　俊幸
揉み手する動作が蝿に似てきたぞ　盛桜
ご先祖を尋ねてみれば護摩の灰　完司
政治家と蝿が飛び交う甘い汁　恒
わびるのが上手になっている上司　正道
ハエのようしぶとく生きて嫌われる　かおる
人間模様折りなす街のネオン消え　八千代
蠢いて銭はあちこち旅をする　茜
真意問わず噂で破る友情に詫びる　実満
地酒飲む地方の意地で地酒飲む　大鯰
反対の拳がずらり通せんぼ　蟹郎
様々な暮らしを見ても自分流　瑞子

川柳花の輪（大阪）　岡本　薫報

追い風に乗ったはいいが元の位置　泰子
心地良い楚々と囁く風の私語　信子
囁いて人生パーにした親子　笑子
その顔でささやいた日もあったなあ　薫
無駄ばなし元気もどったおばあちゃん　やすの
騒念の波囁きからうねる　亜成

川柳塔まつえ吟社（島根）相見　柳歩報

ワタクシを剥ぐとゴロゴロ欲ばかり　美智子
反省を次にいかすと銅像に　柳歩
影ながらなんて流行りませんよ今　吹喜
影ぼうし私も捨てたもんじゃない　富紫美
まとってる影柔らかく破れそう　とも子
まずいこと知らぬ振りしてしじみ汁　みちを
おしゃべりの怖さを知っている無口　桂子
親分の不思議不思議な暗黙知　徳利
今僕の不倫相手は八重桜　芳山
しっかりと二重封筒ハート入れ　米估
一日が終り安堵の重い腰　邦代
胃の重さつばめ来る頃軽くなる　知恵子
たっぷりと暇はあるのに名句出ぬ　豊仙
たっぷりと反抗させよ反抗期　弘充
だぼだぼとソースをつけてうまいカツ　瑞人
ごぼう茶をたっぷり飲んで結果待つ　モナカ
たっぷりと入れたコーヒー無重力　雪代

川柳塔さかい（大阪）　内藤　憲彦報

テレビから世界一つにする五輪　ひろ子
テレビなら「昆虫やばいぜ」マイトップ　みつ江
コロナ禍でテレビなければ何します　世紀子
美智子妃の御成婚見た初テレビ　朝子
繋がった歴史に合点プラタモリ　佳子
付けっぱなしテレビは文句言いません　光雄
握っても広げてみても武骨な手　俶子
そんなにきつく握らなくても分かってる　憲彦
手話同士握り拳で称え合う　満作

そう言えば誰とも握手していない　勝弘
いまわの君のかすかな悪手忘れない　みつこ
ピラミッドの頂点に立つ一握り　進
おどろいた足のかたちに靴歪む　ばっは
手ひねりの茶碗歪にある温み　満知子
酔うほどに満月なぜか楕円形　清
いびつでもとても美味しい茄子胡瓜　ゆみ子
展示会歪な物に見とれてる　廣子
権利ばかり主張し義務はしらん顔　雅明
正論が負けて歪んだ道を行く　玄也
お互いの歪に慣れて共白髪　さくら
家計簿を握る妻には敵わない　志津子
無理が利く俺は弱味を握ってる　としお
政権を握ってからの茶番劇　憲
夕食の献立握る五割引き　堅坊
握られて握り返したのが返事　尚邦
孫眠る夜店の指輪握り締め　和夫
無茶苦茶に路上飲みして咎められ　美津子
昔良く路地で遊んだ友と合い　舞夢
ムラサキのロマンチックなトリミング　敬子
麦藁帽の六歳はしゃぎ蜻蛉とる　八千代
無駄ばかり浪費の癖が止まらない　いさお
無駄ではない老人力も友達に　万紗子
虫の音が廊下からする通り雨　敏治
胸底のロマンに灯り点される　扶美代
胸のすく論理で上司説き伏せる　時雄

川柳さんだ（兵庫）　酒井　健二報

裂けた日が記憶に残る三宮　修平
D51がいまだ走っている海馬　和郎
貧しさの記憶が疼くフードロス　紀恵
来し方の傷は時々夢にまで　行兵衛
脳底に火乗るの墓が刷りこまれ　義博
猿だった記憶とどめる尾骶骨　利尚
ボケテスト先ずは昨晩なに食べた　万彩
また明日ケアマネさんは優しいね　正和
優しさを包む風呂敷大きめに　稠民
優しさはいつかあなたに併する　優子
困ったら優しい人がすぐ判る　高志
オンライン優しい母の目に涙　一良
一合で優しく銚子とりあげる　耕治
懐にほんに優しい冷や奴　堅坊
汚れ役買ってシャワーを浴びている　義徳
里山に眠る亡夫に星が降る　一子
冷ややかな批判浴びてもやる五輪　勝士
声援のシャワーが欲しい無観客　盛夫
ぎゅうと詰まった記憶の束に君と夏　真桜子
星のシャワーあなたと浴びた青春譜　おさむ
副反応あって安心効いている　勝正
小遣いで空飛ぶ車買うつもり　博
切れたのが最期になった買い言葉　洋次郎
お気に入りの花を買います仏さま　哲子
まだまだと大きな夢を買いに行く　修
お買物ポーター役はいつもボク　かずお
苦労して買ったチケット無観客　雅尚
元気です医者のはしごがまだ出来る　哲男
健診の度に身の丈ちぢこまる　好文
誰を探して歩いているのですか　哲夫
ここんとこ話し相手はレジ係　寅男
夢売りと南の島ですれ違う　健二
的うまく外し優しい流れです　恭子
一階で笑い二階で泣いている　厚子
どの辺で待っていますかおかあさん　ひとみ

倉吉川柳会（鳥取）　竹信　照彦報

炎天の畑に非常ベルが要る　完司
畑には赤いダイヤの花盛り　次男
畑の草炎天なんて平気です　雄大
畑には野菜作らず花植える　紀美恵
ぞっとした茗荷畑にいた蝮　重忠
炎天下畑仕事に目眩する　風露
無農薬畑の虫と日々戦争　日出子

戦時中ジャガ芋南瓜飯の畑　恭子
ひまわりが私を囲み吠えている　麦青
見応えのあった男の変わりよう　凱柳
千秋楽見応えもなく張り手見る　茂夫
堂々と見応えのある決定戦　智恵子
気の緩み今も生じるクラスター　龍枝
生じるは人が壊した自然から　けいこ
豪雨来て災害生じるわが村も　酔芙蓉
ぐらりともビクともしないダイヤ婚　石花菜
飲み過ぎたふりしてぐらり君の胸　由紀子
仁王様ぐらりとなさる二日酔い　萩江
足入れた泥田にぐらり絡まれる　祐子
大鯰大欠伸して大地震　大鯰
酔っ払い帰途ぐらりして田んぼ落ち　道春
風呂上がり見応え無しのわが裸体　照彦

あかつき川柳会（大阪）　磯島福貴子報

鬼退治鬼はわたしの中にいる　一歩
退治するそれはコロナか人間か　昌紀
侵略の美化に手を貸す桃太郎　古池蛙
退治した夜叉がくるりと変異する　緑
私の四隅に退治できぬ鬼　栄子
やり遂げて何か空しい鬼退治　將文
ワクチンに負けじとコロナ変異する　和子
ランドセルの中味はこの国の負債　美晴日
読み飛ばしではありません本音です　勝久
すごいなあマラソン選手のメンタル　(立)信子
76年掛けて勝訴の黒い雨　壽峰
草取りの汗を励ます蝉時雨　ゆうこ
ナガサキを憶う鎮魂鐘の音　高鷲
ほどほどにせよとバッカスが叱る　いさお
ほどほどにできぬ政府の無為無策　章
善し悪しは誰もわからぬほどで　蒼水
古希過ぎて妻の勤務はフルタイム　(樓)秀夫
分に足る幸せでよし花を摘む　楓楽
身の丈に合った暮らしの熨斗袋　ひろ子
ロボットはヒューマンライフほどほどに　満智子
いい加減にしろとコロナを叱りつけ　穏夫
ほどほどにアダムとイブで居る二人　心平太
夕焼けを見ると湧き出す里心　朝子
無医村に医師来る話まだ未定　比呂志
里神楽守る覚悟のUターン　克己
三世代繋げ東京だって里　和大
兄嫁の仕切る実家の遠い距離　紅絵
帰省待つやさしい母と鬼瓦　敏治
目を閉じてみれば古里そこにあり　まさあき
陀羅尼助心の里の常備薬　黒兎
ライバルを倒し目標見失う　保州
モリカケをほどほどにしてなるものか　風子
ほどほどにさせぬサプリのお取り寄せ　寿子
政憲のコロナ対策五里霧中　敏
安全安心むなしく響く夢の跡　(松)敏子

西宮北口川柳会（兵庫）　緒方美津子報

自責点払拭出来たホームラン　正彦
弱虫もここ一番の腕まくり　ひとみ
紫陽花を誉めてあと押す車椅子　野鶴
世にありて押してはならぬ核ボタン　千賀子
冷蔵庫うちの暮らしを知り尽くす　和宏
冷蔵庫家族の帰り待つプリン　恭子
元気かと回覧板が戸を叩く　武彦
望郷の右脳に響くハーモニカ　敏子
知恵の輪をゆっくり解いていく自粛　哲子
背を押され迷い払拭月も冴え　(福)弘子
冷蔵庫首をつっ込み暑気払い　千代
確執がゆっくり解けた日の清か　修
コロナ禍に雑草だけは生き生きと　りこ
冷蔵庫警告音がやかましい　康弘
青空のような政治はできぬのか　勝弘
解雇した払拭できぬ心傷　昭九朗
鳥の声に背中を押され外へ出る　美香
賞味期限過信するなと冷蔵庫　紀華

冷蔵庫休日もなくありがとう　いわゑ
イエスノーはっきり言える百一歳　利子
コンビニは私のでかい冷蔵庫　廣光
終章の海はゆっくり漂うて　はな
人災が容赦をしない土石流　盛夫
祝日も変更させる五輪とや　正和
義母さんにゆっくり合わす相槌を　みよし
クラス会思い出ゆっくり引き寄せる　邦男
まだ生きるパンツ十枚買ってきた　靖夫
アルバムの手形足形父母の愛　一徳
モンローがスカート押える旋風　野薫
巣立つ子の背を押す母のいつくしみ　弘委智
押しよせる観光客のいない夏　敦子
合掌の中を通ってゆく柩　哲男
長い目で見れば芽も出る花も咲く　俊雄
虚と実を確かめたくてちゃんと生き　真桜子
雑念を取り除いてる滝の音　光久

長柳会（大阪）　辻村　ヒロ報

体力のギャップ埋めてる好奇心　ヒロ
古着出しワクチン接種袖なしで　おくみ
ワクチンの効果気にして休肝日　秀子
今風はひもづけはやり不安です　弘美
年重ね友の話しに泣き笑い　由子
巣ごもりに装う楽しみない暮らし　光弘
鬼はいる神は居るまいこの世相　邦夫
姿勢良く東海林太郎は動かない　孝
丸い背な鏡に姿勢諭される　三和子
善くももったとなかば呆れるダイヤ婚　ゆき
紐として役に立てない預金残　洋二
夢見た未来蕾のままで落ちました　敬二
失敗を今日も風呂場で流してる　福子
迷わずに決めたこの道いばら道　隆明
愛想よいあるじの店に足が向く　和代
居酒屋でちょっとの筈が午前様　隆彦
バイバイをイヤイヤイヤと拗ねる足　純風
無観客クライマックス元気なく　克己
コロナ禍にはらはらしつつファンファーレ　直樹
派手な服着て微笑んだ試着室　孝代
微笑みの訳を知りたい雨しとど　和子
毎日の薬は俺の命綱　靖博
背伸びした暮しをやめて得た余裕　登美子
黒塗りの記録に深い闇がある　正美
やっと出た赤木ファイルもマスクされ　淳司
初デートソーダー水が弾けてる　正博
愛してるひさびさ妻に言うてみる　幸子
わたしを選んだあなた大当り　由夏
モナリザを真似て夫には怖がられ　ふみ
ひらけごまあなたの心覗きたい　千代
枯れる身の五感へ亡母のわらべ唄　澄子
雷はあばれた詫びに虹の橋　たけし

川柳塔すみよし（大阪）　田中ゆみ子報

サイレンより早い目に鳴く腹の虫　一歩
娘には虫コナーズを持たせてる　時雄
腹の虫納まり付かぬ遺産分け　ふりこ
本ボシは虫も殺さぬ顔でいる　克己
本の虫言うてはるけど週刊誌　ダン吉
泣き虫もキラリ育って跳びました　ばっは
ここという時に弱気の虫が出る　いさお
老いてますます雑学拾う虫メガネ　万紗子
連弾の十指十指がよく弾む　満作
やさしさに触れると弾むマリになる　理恵
一言が弾んで元に戻れない　哲夫
八十路とて胸も弾むしときめくし　はな
今日がある限り心を弾ませる　保州
一円玉貯めていつかは船の旅　こみつ
目標へ千里の道も一歩から　比呂志
熱燗でじっくり今日を振り返る　佳子
大切にしてもちびちび減る命　堅坊
ちびちびの雫集めてそそぐ海　崇明
やっとこさ路郎読本読み切った　勝弘

ちびちびと貯めて手ぶらで逝きはった　ひろ子
八時閉店ちびちびやっていられへん　まつお
祖母の金もうちびちびも出さないぞ　シマ子
ちびちびと飲んでちびちび愚痴を吐く　大子
嫁姑峠超えれば血が通う　たかこ
義理があり中味分からぬ署名する　篤
義理だけで押した判子に泣かされる　(奥)五月
紙一枚に託す思いの遺言書　寿子
義理と見栄捨てて身軽な駄斗袋　寿之
義理深く寄らねばならぬ法善寺　舞夢
蜘蛛の巣にかかったような義理である　進
割り切って肩の荷ろす義理と見栄　萠
創業の時とおんなじ仕入先　克博
熱燗ちびり淋しくないと言いながら　雅美
お互いに歳暮中元止めにした　さくら
無農薬食べるは虫の食い残し　俊雄

川柳塔なら　大久保眞澄報

趣味の世界羽ばたく空が広くなる　希久子
空を飛ぶ夢を見ているアヒルたち　昭
恋をして夜空の君に願うこと　羅天
力闘に空のスタンドをも熱く　行久
大空を仲良く並び燕飛ぶ　裕之
「モッタイナイ」が空き箱を積み上げる　みつこ
ラジオ体操押し上げる腕天を突く　風鈴
大臣が空恐ろしい事を言う　まつお
うかつにも一升瓶を空にする　盛隆
漆黒の空に砂金のような星　純子
天皇賞色即是空空財布　俊雄
孤独ではないよと空が包み込む　雅美
自慢好きの奴とばったりケアハウス　堅坊
偶然を装っている曲り角　(平)美智子
金貸した途端見えなくなった友　保州
ばったり会ったと言おうと決めて逢う二人　かずお
ばったりに見せて仕組んだシンデレラ　敬子
倒れ方工夫重ねる斬られ役　すみ子
連絡がばったり途絶え訃報くる　大子
ばったりとニュース途絶えた拉致家族　則彦
ばったりを求め男の一人旅　武人
ばったりの埋み火ポッと遠い恋　寿之
任命拒否日本はどこへ行くつもり　一歩
省略をして楽しんでいるスリル　恭正
堅苦しい挨拶は抜きまず一献　いさお
押印を省くと何か頼りない　篤
夫婦でも詫びる言葉は省かない　和郎
無駄みんな省くと味気ない暮し　美智代
キャッシュレス更に省力セルフレジ　史郎
手間省く厄介な人遠ざける　万紗子
コロナ禍の血縁省く家族葬　ひろ子
人間を省き続けている戦　惠
省くもの省いた隙間にある伏せ字　弘子
不要不急いまはしずかに待機中　崇明

六甲川柳会（兵庫）　糀谷　和郎報

傘寿の日孫からピザが十枚も　(歳)洋一
子や孫に期待をしても親が親　利子
長い名のランチ注文指でさす　崇史
理想だが明日なら困るピンコロリ　和郎
隣りから鰻の臭いして困る　博
せみ合唱朝っぱらから暑苦し　克美
まちがい電話困ったもんだ午前二時　真桜子
曖昧な返事に断を下せない　光久
困ったな地球が怒る音がする　廣光
内科歯科耳鼻科皮膚科をはしごする　隆浩
風いっぱい吸い込み泳ぐ鯉のぼり　美穂
この一杯心にしみる年となる　正彦
背中にはごめんなさいと書いてある　ひとみ
ブランデーグラスに聞かす思慕追慕　武彦
菅総理へんなウインク送ってる　洋次郎
ウインクに感電をして今がある　哲男

アシストへ礼のウインクストライカー　ひろし
ばあちゃんにウインクすれば開く財布　狸月
ウインクをしたら目薬渡された　正和
今と昔上手にまぜてある料理　公輔
コロナ漫談ワイワイ雑魚の吹き溜り　弘
東京五輪テレビ漬けです2週間　盛夫
早起きをすれば空気が味方する　恭子
豚饅と熱いおしぼり暑気払い　美津子
書かんでもよい追伸に誤字ひとつ　利惠子
踏襲へ維新起こるか兵庫県　義明
この国はコントロールができぬ国　勝弘
迎え火に浮かんだ父母の影偲ぶ　正美
戦争を昔話にして平和　和宏
のんびりと目立たぬ位置で咲いてます　千賀子

岸和田川柳会（大阪）　石田ひろ子報

約束が重たくなった午後の雨　扶美代
保育士も息抜きします子ら午睡　カズ子
お迎えのママチャリ急ぐ日暮れ時　みつ江
急なお誘いさっとウイッグつけるだけ　世紀子
官邸にビールのお化け出るらしい　恵子
お化け屋敷勢揃いする永田町　眞澄
どう化けてみても尻尾は隠せない　保州
仕事柄仮面いくつも持っている　珠子
凹んでも励ましくれる友がいる　康信
お祭りも花火も中止この夏も　信子
ミャンマーの民心凹まない祈る　三成
振られても少し凹んでまたトライ　勝久
一滴の努力の汗が岩を打つ　信二
凹む数だけ人間が磨かれる　ダン吉
自粛して家がオアシスだと気付く　いさお
草津の湯まるでオアシス湯もみ唄　隆雄
客集う笑顔やさしいママのカフェ　喜代志
もの言わぬ駱駝オアシス探し当て　ふさゑ
朝散歩午後は昼寝のルーティーン　律雄
小さな出逢い余世の小さなオアシスに　理恵
人生のオアシスそれは趣味タイム　しげ子
ほっとする主婦のオアシス台所　ひろ子
凹んだら亡母の笑顔を思い出す　朝子
寝袋がオアシスですと山男　航太郎
幼子のオアシス母の胸の中　玄也
オアシスに思えて集うケアホーム　はこべ
オアシスと思うおうちに居場所なし　常男
出張先がオアシスの父　香代
川柳は心のオアシスまず一句　愛子
癒されるジャズの流れる喫茶店　憲彦
ワクチンがコロナ沙漠のオアシスに　万彩
炎天下スマホで探すオアシスを　明
凹む日は遺影の母と長ばなし　晶子
年重ね出来ぬ事増え凹む日々　麻子
老いたなあ少しの凹み足挫く　節子

川柳藤井寺（大阪）　鈴木いさお報

明日にはええ風吹くと妻笑顔　みつ江
腕ききのシェフにも負けぬ妻の味　かずお
ライバルのピンチはわたくしのチャンス　扶美代
神の手に委ねた命今生きる　ちづる
腕ききの努力知ってる道具箱　大子
不況にも匠の酒は海外へ　みつこ
腕ききの大工は自慢などしない　一歩
母は腕ききき一夜で着物縫い上げる　シマ子
耐えるしかないのかコロナ禍のピンチ　瑠美子
あったなあ給料前のお客様　喜代子
奇数月ピンチは続くいつまでも　まつお
ずっとずっとピンチは続くお小遣い　勝弘
敏腕社長オンリーワンの町工場　俶子
何度かのピンチ私が試される　ダン吉
ピンチからチャンスへ風向きが変る　いさお
ピンチにも強い昭和を生きた母　ひろ子

豊中もくせい川柳会（大阪）初代　正彦報

古アルバム私にとって無二のもの　武彦
終息を妻と一緒に待ちわびる　憲央
戦国の籠城想い過ごす日々　健二
小吉で私十分生きられる　英三
昼寝の児の大の字なぞるうちわ風　公子
待ったかい有った私に運がつく　時子
もう一人の私未来図くれました　公輔
ほつれ紐必ず直す人が居る　義明
スイーツと知らず戦後に食べたイモ　敏昭
慎ましく静かに生きるひとりの灯　ヨシエ
終章はみんな仲よく鬼になる　野鶴
血液がさらさらになる老いの恋　堅坊
もう来ない分かっているが母は待つ　千賀子
宝船七福神の意を辿る　(福)正彦
サーフィンで北斎の波いどむ夏　弘委智
待ちあぐむ赤い灯青い灯の巷　肇
シナリオのとおりに行かぬ五輪劇　英旺
弱虫の私自身が宝物　ふりこ
年齢制限があり子宝の湯　眞澄
年の功さすがさすがの知恵袋　美津子
終息しドーンと花火待つ五感　(岩)玲子
さすがやと言われたことがない私　勝弘
長寿国自死もトップというお国　一歩
表紙だけ替えて変わらぬ政　黒兎
平凡な日日の暮しが宝です　(初)正彦
勿体無いと諭すさすがは戦中派　則彦
雨に負け風にもよろけつつ卒寿　哲男
電話口ひとときショパン聞かされる　洋志
友だちは私に注意してくれる　ひとみ
コンマ差も世界の壁は厚かった　満作

城北川柳会（大阪）　近藤　正報

マザコンの夫に残る蒙古斑　久美子
目でものが言えて静かな阿と吽と　千賀
耕して青い地球を子につなぐ　洋志
青春と日本の夏よ千枚田　朝子
おばあちゃんに黙っといては無理ですよ　志華子
饒舌を無口にさせる請求書　博
沈黙は金とは言うが喋りたい　正彦
黙黙とエクモが人の命継ぎ　野鶴
いつかオレ目指すその先木鶏へ　義明
黙った妻心当たりをさがす僕　廣光
黙っても言い訳しても叱られる　実
ほぼ全員の中に入っていないボク　星雨
結果など問わぬ情熱たぎらせる　堅坊
副反応大きい方が得意顔　篤
丹精の見事な花に礼を言う　賢子
さようならの一球に沸く甲子園　弘委智
虹の橋明日の結果を問うてみる　郁夫
真面目も良し道草も良し結果主義　優
ワクチンを打っても油断できぬ今　満知子
受付を増やして煽るコマーシャル　満作
自粛して諭吉財布でまだ寝てる　五月
捨てて置いてください涙枯れるまで　恭子
明日あることを信じて生きる今日　黒兎
日本の国技のはずの大相撲　和夫
あれこれと思い乍らもごーろごろ　廣子
菅さんに金銀銅は見当らぬ　一歩
猛暑日に冬の寒さを恋うている　福貴子
ワクチンを三回目にもすると聞く　ルイ子
老い二人半切りスイカ持て余す　宏造
見るだけで憂鬱夏の晴れマーク　かずお
ワクチンの結果が出ずに焦る国　利子
毎日のおしゃべりあって今日も吉　万紗子
まだ続くウイズコロナのサバイバル　信子
デルタ株不安を煽る蝉の朝　肇
寝転んで終の住処ぞ青畳　俊雄

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳大阪	15日(金) 事務局必着 誌上句会 夕焼け・情・苦手	〒636-0144 奈良県生駒郡斑鳩町稲葉西2－4－23 中原比呂志 TEL 0745-75-3655
川柳 ねやがわ	15日(金) 置き去り・訪問・引き出し 自由吟	〒572-0063 寝屋川市春日町9－9　高田博泉
川柳 たちばな	15日(金) 13時45分締切 席題・嘘・ゆっくり・自由吟	東園田町総合会館　3F 阪急「園田」駅北へ徒歩1分 〒661-0953 尼崎市東園田町3－49－5　藤井宏造
川柳塔 みちのく	16日(土) 17時締切 毒・品・整う	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛　TEL0172-36-8605
川柳 藤井寺	17日(日) 14時締切 追い付く・夕暮れ・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5－8－20－303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	18日(月) 14時締切 ふらふら・地図・選ぶ・雑詠	大阪市立住まい情報センター　5F　研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901　松岡　篤
豊中 もくせい 川柳会	18日(月) 13時50分締切 納得・走る・どうぞ・自由吟	豊中市立中央公民館　3F 阪急宝塚線「曽根」駅　徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5－26　初代正彦
川柳塔 すみよし	23日(土) 14時締切 薬・抱く・サービス	住吉区役所内　住吉公民館　2F 〒580-0026 松原市天美我堂3－130－2－404 森松まつお
和歌山 三幸 川柳会	23日(土) 13時15分締切 いろいろ・スポーツ・目 投句締切14日	和歌山商工会議所　4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市民 川柳会	24日(日) 14時締切 名刺・企む・たっぷり・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車　北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8　徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	24日(日) 13時から 自由吟・ひとまず・奥・読書 席題	県民ふれあい会館　4F　鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2－171－3　中村金祥
岸和田 川柳会	4日(月)締切 第70回市民誌上川柳大会 クリーン・進む・線・ずばり・遠い・力(各2句)	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2－13－19　中岡香代
川柳 さんだ	投句句会　6日(水)締切 へそくり・涼しい・ レストラン・会う・自由吟	〒651-1545 神戸市北区鹿の子台南町4－46－5 冨永恭子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

10月各地句会案内

（開催日順）

句会名	日時と題	会場と投句先
倉吉川柳会	2日(土) 14時締切 名指し・目くじら・出す・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072－17 谷口次男
川柳塔まつえ吟社	2日(土) 13時30分締切 嘘・海・操る・はらはら	投句先 〒690-1233 松江市美穂関町笠浦221－1　相見柳歩
川柳塔なら	4日(月) 名残・もしも・本気 誌上	〒636-0341 磯城郡田原本町薬王寺150－21　中堀　優
川柳塔さかい	7日(木) 投句締切 目立つ・ろくでなし・黒 折句：た・け・お	投句句会へ変更
六甲川柳会	7日(木) 誌上句会 平行・押す・こつこつ・上品 自由吟	〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4－11－11　上田和宏
あかつき川柳会	8日(金) 14時締切 こっそり・面・約束	大阪保育運動センター（新谷町第1ビル2F） メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3－6　木村ビル2階 あかつき川柳会
城北川柳会	投句句会　2日(土)締切 月・気まぐれ・あっ・医者・自由吟	旭区老人福祉センター　3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先　〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14　江島谷勝弘
川柳とんだばやし富柳会	9日(土) 顎・トップ	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ 200 m 〒584-0064　富田林市不動ヶ丘8-31　山野寿之
川柳塔打吹	9日(土) 13時30分締切 棚・軽い・まあまあ・席題	倉吉市上灘町9　上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637－3　牧野芳光 方 川柳塔打吹　事務局
八尾市民川柳会	10日(日) 14時締切 下手・にっこり・走る・雑詠	八尾市安中町3－5－1　渋川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2－1－7　土田欣之
川柳塔わかやま吟社	10日(日) 14時10分締切 兼　題＝照る・場・コメント 課題吟＝約	和歌山商工会議所　4階　和歌山市西汀丁36 兼　題　〒649-6253 岩出市紀泉台366　藤原ほのか 課題吟　〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桒原道夫
川柳あまがさき	10日(日) 14時締切 掘る・節約・ひっそり・自由吟	東園田町総合会館　3F 阪急「園田」駅北へ徒歩1分 〒661-0953 尼崎市東園田町3－49－5　藤井宏造
西宮北口川柳会	11日(月)14時締切 席題・汚れる・用心・柔らかい 自由吟	西宮市立中央公民館　6F　講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830　福田正彦
ほたる川柳同好会	12日(火) 13時30分締切 美容・包む・柔らかい	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール蛍池　蛍池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曽根2－4－1　水野黒兎

柳界展望

▽訃　報△

○遠山　唯教さん（同人・堺市）　8月5日死去享年88

▽訂正とお詫び△

○七月号P139上段右、松倉正美氏の住所の訂正

東・雲・通→雲・井・通

○九月号P65中段26行目

松・岡・正美→松・倉・正美

▽新誌友紹介△

太田市　星出　冬馬
紹介者　小島　蘭幸

神戸市　村松　久枝
紹介者　西出　楓楽

今年の高野山合祀は中止いたします

今年は高野山合祀の年ですが、コロナ禍のため再度中止といたします。

各位、ご了承くださいますよう、お願い申しげます。

2021年（令和3年）10月

川柳塔社

第40回　鳥取県　没句川柳供養誌上大会

課　題（各題2句）

「あせる」　中村　金祥　選
「昨　日」　牧野ねえね　選
「矛　盾」　久保田千代　選
「命がけ」　土田　欣之　選
「上書き」　木本　朱夏　選
「苦　手」　新家　完司　選
「敗者復活吟」　小島　蘭幸　選

（復活吟＝この1年間で没になった川柳2句）

投句締切　11月30日（火曜日）当日消印有効

投句料　1000円

（野口英世さん・定額小為替・切手可）

賞　各題　天位賞　洋々賞　総合得点10位まで賞品

投句先　〒689-0202
鳥取市美萩野2-171-3
中村　金祥　宛
電話　0857-59-1056

主催　川柳ふうもん吟社

句会部よりお知らせ

川柳塔本社11月句会は、下記の要領で誌上句会と致します。
皆さまのご投句をお待ちしております。

記

『川柳塔』誌１０月号に投句用紙を同封します。
（未読の方は川柳塔事務所にご請求ください。）
投句締切　１０月３１日（日）消印有効
入選発表　『川柳塔』令和４年１月号
投 句 料　１０００円（切手不可）

兼　題	「ペ　ー　ス」	西田美恵子　選	（愛媛県）
兼　題	「木 製 品」	矢倉　五月　選	（大阪府）
兼　題	「攻 め る」	藤村　亜成　選	（大阪府）
兼　題	「　前　」	板垣　孝志　選	（奈良県）
兼　題	「場　　所」	新家　完司　選	（鳥取県）

（各題２句出し）

問い合わせ・送り先

〒543－0052　大阪市天王寺区大道１－１４－１７
花野ビル２０１　川柳塔社
TEL　06－6779－3490

☆感　謝☆

たくさんの御投句ありがとうございました！

☆発表誌は10月上旬発送予定です。
もうしばらくお待ちくださいませ☆

おりひめ☆ひこぼし川柳会

編集後記

★雲と征くあれは唐三彩の馬　薫風

★いや～人間って素晴らしい。いきなりなんのことかと言えば、9月5日に閉幕した東京パラリンピックのこと。誤解を恐れず言えば、開会式はオリンピックよりはるかに良かったし、スピリットが感じられた。パラリンピック独特の競技などもルールを知ったうえで楽しむことができた。力強い競泳、火花を散らす車椅子ラグビー、頭脳戦のボッチャ、そして車椅子テニスの熱闘…在宅編集の無聊を慰められた。

★もう一度誤解を恐れず言わせて頂けば、トラックを駆ける義足や装具の美しさに目を奪われた。パラリンピックは国を超え人種を超え、言葉を超えてコミュニケーションを深め、お互いを理解し合えた素晴らしい機会であったと思う。高校生のころ、50メートル走12秒という運動オンチの私も、勇気と感動と元気を頂いた大会だったが、閉会式は涙、涙だった。

★「木は仲間と会話し、助け合う」のキャッチコピーに惹かれて思わず買ってしまったのが、ペーター・ヴォールレーベン著『樹木たちの知られざる生活』（ハヤカワノンフィクション文庫）。帯には「樹木には驚くべき能力と社会性がある。子どもを教育し、助け合い、熾烈な縄張り争いをする」とある。嘘だろうと思いつつ読み終えた。著者はドイツ在住の森林管理官。長年膨大な森林を管理し、樹々の声に耳を傾け愛情をこめて観察する。読んで納得。私も森の声を聴きに行きたくなった。

ひとこと

おかげ様

私は三十年間、通院をしています。原因は、朝になると高熱が出て夕方になると平熱に戻るという、訳のわからない病気になったのが始まりでした。現在は何とか平熱を保っており、川柳大会にも出席できるようになってきました。

○○賞とか、上位に入選していい気分になろうとかいう気持ちにはなりませんが、皆さんと同じ会場で投句箱に、自分自身の句を投句できることが、何よりも幸せに思って川柳を楽しんでおります。「川柳」が無ければ生きていたいと思わなかったでしょう。

困ったことはすべて病気に関する句しか出来ないことです。そして同じ年代の人の話題がさっぱりわからないことです。川柳の人々も主治医も、50歳の私よりも年上の方々なので、病気の話は理解しても、スマートフォンやコンピューターの話は全く分かりません。

20錠の薬が6錠になったのは、川柳のおかげ様です。（中田　尚）

★NHKの「世界ふれあい街歩き」はお気に入りの番組だ。コロナウイルス感染症が終息したら…とガイドブックや時刻表を開いたり、スニーカーを履いてみたりと、旅心をそそられる。外国の街並みを眺めながら「行った、見た、買った」と思い出を巻き戻している。（朱夏）

□「川柳雑誌・川柳塔」誌（電子化）を繙いている。主に本社句会の流れを調べている。①開催日、②会場、③出席者名・数、④お話・柳話、⑤題・選者、ついでに雑誌・塔誌のページ数などである。

□分かってきたことは、①「川柳雑誌」時代は、路郎師の組織なので、本社句会の選者も路郎師がすべて決めていたこと。②毎月七日の本社句会は、路郎師の命日ではなく、以前から七日を基本に固定してきたこと。③ときどき句会の記載漏れがある。前月号に句会の予告があるのに記載されず、句会があったかどうかが分からないこと。④入選句に天地人佳が採用されたのは、1990年（H2）四月句会からであること、⑤句会出席者名が、1992年（H3）4月句会から記載されなくなっていること、などが分かってきました。まだまだたくさんありますが、次の機会にします。（勝弘）

きりとりせん

川柳塔誌新規購読申込書

年　月　日

氏名	フリガナ
住所	〒　－
電話	－　－
紹介者	（無記入でも可）
○○	年　月から半年　5000円
○	年　月から一年　9800円

該当の方に○をつけて下さい

川柳塔のホームページアドレス
https://senryutou.net

〒543-0052
大阪市天王寺区大道1丁目14番17号　花野ビル201
川柳塔社（電話　06－6779－3490）
振替　00980－4－298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

お知らせ

変異株デルタ型が猛威を振るい、コロナウイルス感染症の収束の見込みが立ちません。

11月5日（金）に予定しておりました本社11月句会は誌上句会として開催の運びとなりました。詳細は109頁をご覧ください。

ワクチンを二回接種しても感染する例が多数報告されています。油断することなく三密を避け、ディスタンスを守り、消毒、マスク、換気を忘れず、ご安全にお過ごしください。

本社11月句会は誌上句会です

投句締切日10月31日、発表令和4年1月号

兼題「ペース」「木製品」「攻める」「　前　」「場　所」

作品募集

12月号発表（10月15日締切）

川柳塔（8句）　小島蘭幸選
水煙抄（8句）　川上大輪選
愛染帖（2句）　新家完司選
檸檬抄「波紋」（2句）　桒原道夫　久保田千代　共選
インスピレーション・ナビ（2句）　大西泰世選
一路集（2句）「首」　福田好文選
「ピクピク」　鴨谷瑠美子選
初歩教室「幸」（3句）　高瀬霜石担当

初歩教室「幸」は1月号発表

1月号

檸檬抄「盛　る」
一路集「節　目」「アドリブ」
初歩教室「器　用」

川柳塔柳箋

3冊　送料共 1,000円

事務所あてお申し込み下さい。

定価　八百円（送料100円）
半年分　五千円（送料共）
一年分　九千八百円（同）

二〇二一年（令和三年）十月一日発行
発行人　小島和幸
編集人　木本朱夏
印刷所　美研アート
発行所　川柳塔社
〒543-0052 大阪市天王寺区大道一―一四―一七 花野ビル201号室
電話（〇六）六七七九―三四九〇番
振替　〇〇九八〇―四―二九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。

美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL（06）4800―3018
FAX（06）4800―3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ https://www.bikenart.com

創刊大正十三年　通巻一一三三号　川柳塔　十月号　定価　八百円（送料　百円）
令和三年十月一日発行（毎月一日発行）

箸がとまらん 極うま塩昆布
「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ
職人の技術で、超とろ火の火加減により、
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。
お友達LINE
QRコード
舞昆のお友達になって下さい。
舞昆のこうはら
商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）
フリーダイヤル 0120(11)5283

心を尽くし　思いを尽くし　知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団　湯川胃腸病院

消化器科　放射線科　脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設

大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2　TEL 06-6771-4861
http://www.yukawa.or.jp

雑誌 05703－10